

2023年度  
看護学科  
シラバス

# 目次

1年生 学修成果(到達目標)	4
1年生 カリキュラムマップ	5
1年生 カリキュラムツリー	6
1年生 年間予定表	8
1年生 シラバス	11

開講科目	頁	開講科目	頁
日本語表現法	11	病態治療学Ⅳ(内分泌・泌尿・生殖器)	31
英語	12	看護薬理学	32
哲学入門	13	生命科学と医療倫理	33
現代の社会	14	人間関係論	34
心理学概論	15	保健行動学	35
家族社会学	16	看護学概論	36
情報処理	17	看護倫理	37
自然科学入門	18	基礎看護技術Ⅰ	38
数理リテラシー	19	基礎看護技術Ⅱ	39
人体構造と機能Ⅰ	20	基礎看護技術Ⅲ	41
人体構造と機能Ⅱ	21	基礎看護技術Ⅳ	42
人体構造と機能Ⅲ	22	地域・在宅看護概論Ⅰ	44
人体構造と機能Ⅳ	23	成人看護学概論	45
生化学	24	老年看護学概論	46
微生物学	25	小児看護学概論	47
栄養学	26	母性看護学概論	48
病理学	27	精神看護学概論	49
病態治療学Ⅰ(検査・治療)	28	基礎看護学実習Ⅰ	50
病態治療学Ⅱ(循環器)	29	基礎看護学実習Ⅱ	51
病態治療学Ⅲ(消化器)	30		

2年生 学修成果(到達目標)	54
2年生 カリキュラムマップ	55
2年生 カリキュラムツリー	56
2年生 年間予定表	58
2年生 シラバス	61

開講科目	頁	開講科目	頁
法律入門	61	健康状態別看護Ⅲ	82
生涯学習論	62	成人看護学援助論Ⅰ	84
健康スポーツ科学	63	成人看護学援助論Ⅱ	86
病態治療学Ⅴ(運動器、中枢・末梢神経)	64	老年看護学援助論Ⅰ	88
病態治療学Ⅵ(血液・造血器・免疫)	65	老年看護学援助論Ⅱ	89
病態治療学Ⅶ(呼吸器、感覚器)	66	小児看護学援助論Ⅰ	90
公衆衛生学	67	小児看護学援助論Ⅱ	91
保健医療福祉サービス論	68	母性看護学援助論Ⅰ	93
チーム医療論	69	母性看護学援助論Ⅱ	94
地域・在宅看護援助論Ⅰ	70	精神看護学援助論Ⅰ	96
地域・在宅看護概論Ⅱ	71	精神看護学援助論Ⅱ	97
地域・在宅看護援助論Ⅱ	72	医療安全管理論	98
看護展開論Ⅰ	74	災害看護	99
看護展開論Ⅱ	75	看護研究Ⅰ	100
看護展開論Ⅲ	77	地域・在宅看護論実習Ⅰ	101
健康状態別看護Ⅰ	79	領域横断看護実習	102
健康状態別看護Ⅱ	80		

3年生 学修成果(到達目標)	104
3年生 カリキュラムマップ	105
3年生 カリキュラムツリー	106
3年生 年間予定表	108
3年生 シラバス	111

開講科目	頁	開講科目	頁
成人看護学実習Ⅱ	111	看護管理論	116
老年看護学実習	112	在宅看護論実習	117
小児看護学実習	113	統合演習	118
母性看護学実習	114	統合実習	120
精神看護学実習	115	看護研究	121

ナンバリング	124
教員一覧	132
実務経験を有する教員一覧	133
オフィスアワー・成績評価	134

# 看護学科

## 1年生

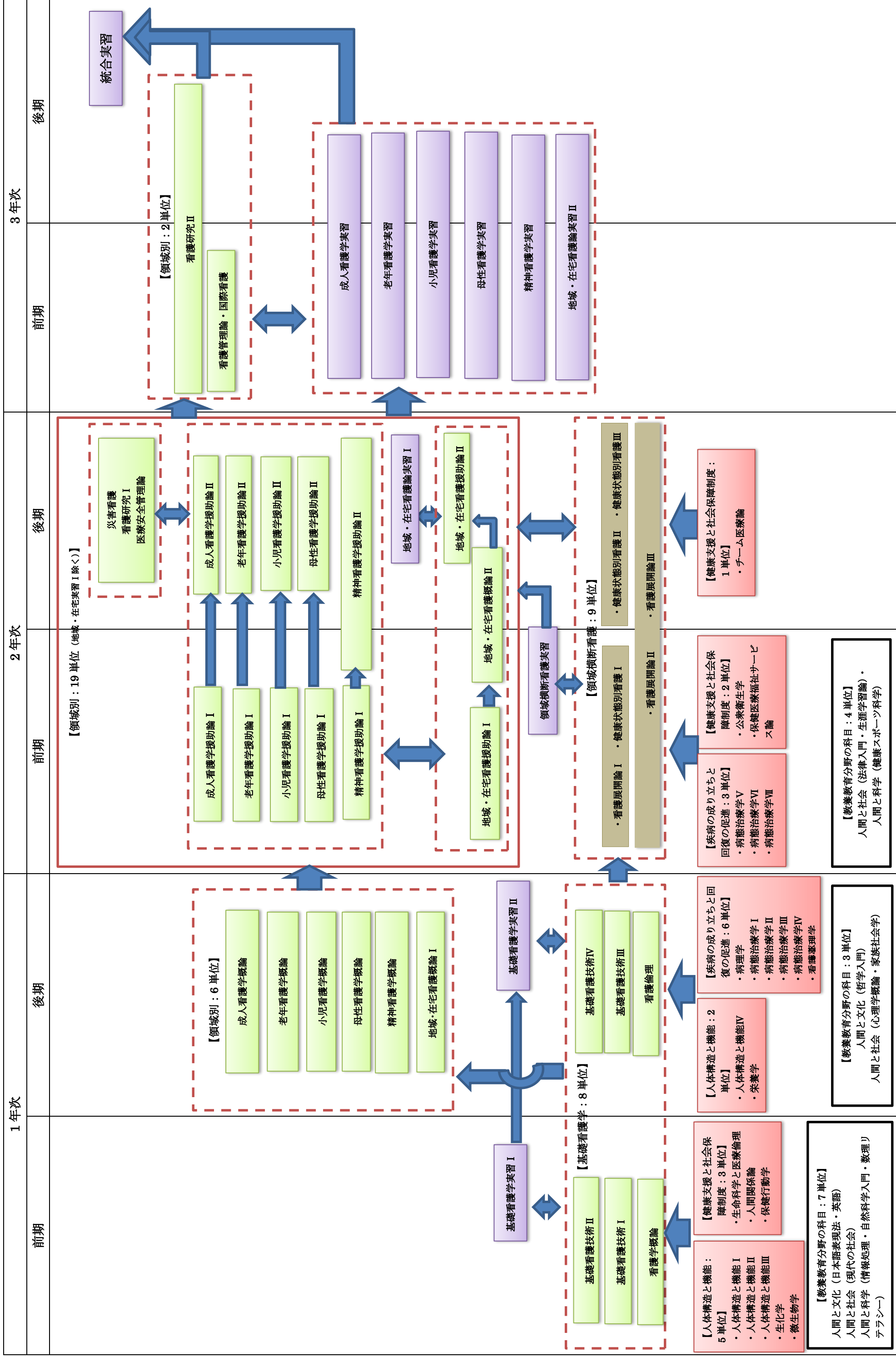
- 学修成果（到達目標）
- カリキュラムマップ
- カリキュラムツリー
- 年間予定表
- シラバス

## 学修成果（到達目標）

【2023 年度入学】

- 1 **【基礎力】** 一般教養並びに各専門分野の基礎的能力
  - ①専門教育の導入・基礎として確かな基礎学力を育て、統合できる能力を身につける。
  - ②教養の涵養によって、異なる文化や社会を尊重していく態度を身につける。
  - ③人体の構造と機能及び疾病の成り立ちと回復の促進について理解し、看護実践の基盤となる能力を身につける。
  - ④科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断や倫理的判断・行動に必要な基礎的能力を身につける。
  - ⑤看護を取り巻く社会の動向や特性を知り、看護職の役割と責任について理解する能力を身につける。
  
- 2 **【実践力】** 各分野の実際の場面に対応できる力
  - ①科学的根拠に基づいた臨床判断能力を身につける。
  - ②多様な場、健康段階、発達段階及び倫理を踏まえて対象のニーズをとらえ、看護を実践する能力を身につける。
  - ③安全なケア環境を提供する能力を身につける。
  - ④人々の尊厳と権利を擁護し意思決定を支援する能力を身につける。
  
- 3 **【人間関係力】** 専門職・社会人として必要なコミュニケーション能力
  - ①援助関係を形成する能力（個人・家族・集団・地域との援助関係・信頼関係、協働関係）を身につける。
  - ②保健・医療・福祉チームにおいて多職種との連携・協働する能力を身につける。
  - ③ケアへ参画する能力を身につける。
  
- 4 **【生涯学習力】** 生涯にわたって学び、成長できる力
  - ①看護の専門職として価値と専門性を発展させる能力を養う。
  - ②生涯にわたり研鑽し続ける能力を養う。
  
- 5 **【地域理解力】** 地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力
  - ①人々の暮らしに影響する地域の特性に関連する文化や社会的背景を理解する能力を養う。
  - ②人々の暮らしを取り巻く環境と健康の関連について、現状と課題を理解する能力を養う。
  - ③災害看護を理解する能力を養う。
  - ④地域包括ケアシステムにおける看護活動の在り方について理解する能力を養う。







## 2023年度 看護学科1年生 年間予定表

### 前期

		日	月	火	水	木	金	土				
4月								1				
	2	3	4	5	6	入学式	7 オリエンテーション	8				
	9	10	11	1	12	1	14 1 健康診断	15				
	16	17	1	18	2	19	2	20	21	2	22	
	23	24	2	25	3	26	3	27	3	28	3	29
	30	1	3	2	4	3	4	5	6			
5月	7	8	4	9	5	10	4	11	4	12	4	13
	14	15	5	16	6	17	5	18	5	19	5	20
	21	22	6	23	7	24	6	25	6	26	6	27
	28	29	7	30	8	31	7	1	7	2	7	3
6月	4	5	8	6	9	7	8	8	8	9	8	10
	11	12	9	13	10	14	9	15	9	16	9	17
	18	19	10	20	11	21	10	22	10	23	10	24
	25	26	11	27	12	28	11	29	11	30	11	1
7月	2	3	12	4	13	5	12	6	12	7	12	8
	9	10	基礎看護学実習Ⅰ	11	基礎看護学実習Ⅰ	12	基礎看護学実習Ⅰ	13	基礎看護学実習Ⅰ	14	基礎看護学実習Ⅰ	15
	16	17		18	14	19	13	20	13	21	13	22
	23	24	定期試験	25	定期試験	26	定期試験	27	定期試験	28	定期試験	29
	30	31	解剖見学(予定)	1	解剖見学(予定)	2	解剖見学(予定)	3	14	4	解剖見学(予定)	5
8月	6	7	解剖見学(予定)	8		9		10		11		12
	13	14		15		16		17		18		19
	20	21	不合格者発表	22		23		24		25		26
	27	28	再試験	29	再試験	30	再試験	31	再試験	1		2
9月	3	4		5		6		7		8		9
	10	11		12		13		14		15		16
	17	18		19		20		21		22	オリエンテーション	23
	24	25	1	26	1	27	1	28	1	29	1	30

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。  
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。  
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。



## 2023年度 看護学科1年生 年間予定表

後期

		日	月	火	水	木	金	土						
10月	1		2	2	3	2	4	2	5	2	6	2	7	
	8		9		10	3	11	3	12	3	13	3	14	
	15		16	3	17	4	18	4	19	4	20	4	21	(保護者会)
	22		23	4	24	5	25	5	26	5	27	5 せいよう祭準備	28	せいよう祭
	29		30	5	31	6	1	6	2	6	3		4	
11月	5		6	6	7	7	8	7	9	7	10	6	11	
	12		13	7	14	8	15	8	16	8	17	7	18	
	19		20	8	21	9	22	9	23		24	8	25	
	26		27	9	28	10	29	10	30	9	1	9	2	
12月	3		4	10	5	11	6	11	7	10	8	10	9	
	10		11	11	12	12	13	12	14	11	15	11	16	
	17		18	12	19	13	20	13	21	12	22	12	23	
	24		25	13	26	14	27		28		29		30	
	31		1		2		3		4	13	5	13	6	
1月	7		8		9	15	10	14	11	14	12	14	13	
	14		15	14	16	月15	17	15	18	15	19	15	20	
	21		22	定期試験	23	定期試験	24	定期試験	25	定期試験	26	定期試験	27	
	28		29		30		31		1		2		3	
2月	4		5	基礎看護学実習Ⅱ	6	基礎看護学実習Ⅱ	7	基礎看護学実習Ⅱ	8	基礎看護学実習Ⅱ	9	基礎看護学実習Ⅱ	10	
	11		12		13	不合格者発表	14		15		16		17	
	18		19		20		21		22		23		24	
	25		26	再試験	27	再試験	28	再試験	29		1		2	
3月	3		4		5		6		7		8		9	
	10		11		12		13		14		15		16	
	17		18		19	(卒業式)	20		21		22		23	
	24		25		26		27		28		29		30	
	31													

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。  
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。  
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。



学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HCU-01				
●										
科目名	日本語表現法				単位認定者	吉田 理		試験(筆記)	30 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題(課題文1)	20 %
							授業時間数		30 時間	授業内課題(課題文2)
				授業形態	演習	授業回数			15 回	受講態度
授業の概要	書き言葉と話し言葉における日本語運用の基本を学び、論理的なコミュニケーションの手段である言語表現を効果的に実現する基礎能力を養う。まず日本語の特徴的な知識について学び、日本語運用の基本を身に付ける。その上で、書き言葉・話し言葉等の様々な表現行為に触れ、自らも表現し、相手に伝わる表現について実践的理解を深める。具体的な場面での適切な表現方法を実際に考えることで、大学や社会で必要となる日本語表現の様々なスキルを獲得することを旨とする。									
到達目標	自分の考えを適切な言葉で表現・伝達できる力を身につけることを目標とする。具体的には、 ・相手が発するメッセージを受け止めながら、場面に応じた意思の表現・伝達ができるようになる。 ・目的に合わせた文章(文書)作成ができるようになる。									
学修者への期待等	日本語に興味を持ち、自分の身の回り(周り)で使われている「ことば」に敏感になること。授業をその都度理解し、疑問な点はすぐに解決できるよう、集中して受講のこと。問題演習を通して日本語力(語彙力)を身につけていきましょう。なお、単位認定試験についてはマークシート式による実施を予定している。									
回	授業計画				準備学修					
1	「日本語表現法」ガイダンス(日本語とは何か)				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)					
2	日本文の概要1：現代文の成り立ち [テキスト言葉と表現編]				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)					
3	日本文の概要2：古典文法(漢文、古文) [テキスト言葉と表現編 1. 文法(1)古典文法]				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)					
4	日本文の概要3：現代文法 [テキスト言葉と表現編 1. 文法(2)口語文法]				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)					
5	日本文の概要4：現代文法つづき(品詞分類)				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)					
6	現代文の修辞：原稿用紙の使い方など <b>実践1：課題文1を書く(400字)…主題は当日指示</b>				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)					
7	実践1の添削指導 語彙1：辞書語彙…漢字と対義語・類義語				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)					
8	現代文の修辞：表記法(句読点、現代仮名遣い、送り仮名)				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)					
9	文章の作成1：公用文作成の要領[テキスト言葉と表現編 4. 表現(3)]				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)					
10	文章の作成2：実用文の作成 [テキスト言葉と表現編 4. 表現(5)]				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)					
11	敬語1：種類と働き、尊敬語と謙譲語 [テキスト言葉と表現編 4. 表現(12)]				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)					
12	敬語2：謙譲語と丁寧語 [テキスト言葉と表現編 4. 表現(12)]				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)					
13	800字作成要領 <b>実践2：課題文2を書く(800字)…主題は当日指示</b>				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)					
14	実践2の添削指導 語彙2：辞書語彙…その他(ことわざ・四字熟語・慣用句)				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)					
15	語彙3：新聞語彙 現代文の修辞補足：修辞法と表記法				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)					
教科書	「原色シグマ新国語便覧 ビジュアル資料(シグマベスト)」 国語教育プロジェクト編著、文英堂									
参考文献	「社会人のためのビジュアルカラー国語百科」大修館書店編集部、大修館書店									
備考	進捗状況や理解度に応じ、順序や内容を変更する場合がある。また適宜テキストの文学史の部分にも触れていく。 授業内課題である課題文(含事後指導)計2種は、単位認定の必須事項として成績に加える(未提出・不参加は認定しない)。受講態度は、出席状況のほか、私語・飲食・電子機器操作・居眠りの禁止等を想定している。なお、受講ノートとして大学ノートを用意すること(試験は持ち込み可とするが、コピー用紙の切り貼りやルーズリーフ等は認めない)。 また、何らかの事情でオンデマンド講義に切り替わった場合には、試験を中止し課題文のみで評価することもあり得るので心得ておくこと。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HCU-02				
	●									
科目名	英語				単位認定者	高城 翔平		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内 課題等	40 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
						授業回数	15 回			
授業の概要	日常会話や専攻分野の仕事・職場で頻繁に用いられる基本表現を「話し」・「聞く」ことができる力を養い、基礎的な英語コミュニケーション能力を修得する。									
到達目標	1. 基礎的な英語コミュニケーション能力を用いて「話し」・「聞く」ことができる。 2. 医療現場で求められる異文化間コミュニケーションのため異文化の知識を身につけ、説明できる。									
学修者への期待等	グループワークを中心とするため、受け身ではなく積極的に活動することを期待する。事前にテキストに目を通し、各回のトピックについて話せることを日本語でもよいので考えておくこと。テキスト、辞書、ノートを必ず持参すること。									
回	授業計画				準備学修					
1	授業ガイダンス 授業概要と受講上の留意点の説明、グループ作成等を行う。				シラバスに目を通し、この授業を通して身につけたい英語の能力を考えておくこと。自己紹介をする用意をしておくこと。(概ね1時間)					
2	Chapter 1 世界の結婚式 Weddings in the world				テキストに目を通し、分からない単語等について調べておくこと。各回のトピックについて身の回りや書籍、インターネット等で情報を集め、グループ活動で話し合うことを日本語でもよいので考えておくこと。(概ね1時間)					
3	Chapter 2 世界の葬式と埋葬文化 Funerals in the world									
4	Chapter 3 世界の成人式 Coming-of-age ceremonies in the world									
5	Chapter 4 世界のトイレ Toilets in the world									
6	Chapter 5 世界のお酒 Alcoholic beverages in the world									
7	Chapter 6 世界の不思議な食べ物 Unusual foods in the world									
8	Chapter 7 世界の神話 Mythologies in the world									
9	Chapter 8 女性の地位 Woman's status in the world									
10	Chapter 9 子どもの遊び Children's recreation in the world									
11	Chapter 10 ユニークなスポーツ Unique sports in the world									
12	Chapter 11 不思議な風習を持つ国 Countries having strange customs									
13	Chapter 12 宗教と言語観と自然観 Religions vary in the world									
14	Chapter 13 左右が文化に与える影響 Is "right" always right?									
15	グループ発表 グループごとに異文化に関する短いプレゼンテーションを英語で行う				グループ発表の準備をしておくこと。(概ね1時間)					
教科書	「英語で学ぶ異文化の不思議」石井隆之、岩田雅彦、山口修、平田千夏、Roy Obalc著、開文社出版									
参考文献	「マンガでおさらい中学英語」フクチマミ、高橋基治著、KADOKAWA/中経出版									
備考	授業内課題は次の授業で返却します。模範的なものは氏名を伏せて公開することがあります。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-0-HCU-01				
	●									
科目名	哲学入門				単位認定者	池田 準		試験(レポート)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	14 %
					授業形態	講義	授業時間数		16 時間	受講態度
							授業回数		8 回	
授業の概要	哲学入門の科目を通して、人としての在り方・生き方や世界の在り方などについて学び、日常生活に潜む哲学的な問題の本質の追求や自己洞察に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	1. 哲学の基本的な考え方を説明できる。 2. 哲学の基本的な考え方をを用いて日常生活に潜む哲学的な問題について、自己の考えを深める。									
学修者への期待等	各回の授業に設定された「問い」に対する自分自身の考えをあらかじめメモしておき、あとで授業で学んだ哲学的な考え方と比較できるようにしておきましょう。									
回	授業計画				準備学修					
1	看護と哲学：何のために哲学を学ぶのか				医療の技術や知識だけでは解決できない医療現場で生じる問題を挙げてみましょう。(概ね1時間)					
2	自我と身体：デカルトの心身二元論とメルロ・ポンティの身体論、病者にとっての心と体				身体の中の部位が欠けたら「自分」ではなくなってしまうのか、を身体に障がいを抱えている人を例に考えてみましょう。(概ね1時間)					
3	自我と心：カントの自我論とヘーゲルの相互承認論、記憶と自己意識				記憶がなくなったら「自分」は消えてしまうのか、を認知症患者を例に考えてみましょう。(概ね1時間)					
4	自我と他者：フッサールの間主観性とレヴィナスの他者論、ケアにおける応答関係				他者を「人間としてみる」とはどういうことなのか、をケアの場面を例に考えてみましょう。(概ね1時間)					
5	他者理解と共感：ヒュームの懐疑主義とモラル・センス学派の共感概念、事実と価値				他人の考えや感情を本当に理解することはできるのか、を自分の周囲の人間関係を例に考えてみましょう。(概ね1時間)					
6	社会と幸福：古代ギリシアのエウダイモニズムと近代の功利主義、QOLの基盤としての幸福観				幸福は自分だけで得るものなのか、それとも誰かと協力して得るものなのか、を自分にとっての幸せを例に考えてみましょう。(概ね1時間)					
7	社会と自由：運命論、因果的決定論、自由意志論と責任概念				自由であるとはどういうことなのか、を何らかの不自由を抱える病者・障がい者を例に考えてみましょう。(概ね1時間)					
8	死と実存：ハイデガーの存在論、死の実存的意味とよく生きること(well-being)				自分の死と身近な他者の死、見知らぬ第三者の死にはどのような意味の違いがあるのか、そして自分が生きる意味とは何かを考えてみましょう。(概ね1時間)					
教科書	教科書は特に使用しません。授業で毎回、資料を配付します。									
参考文献	各回の授業でテーマに関連する文献を紹介します。									
備考	授業内課題、試験(レポート)については授業内あるいはLMSでフィードバックを行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HS0-03			
	●								
科目名	現代の社会				単位認定者	吉田 理		試験(筆記)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	※筆記試験はマークシート(60%)とレポート(20%)を同時内に実施 ※詳細は備考欄を参照すること。
							授業時間数		30 時間
				授業形態	講義	授業回数			15 回
授業の概要	現代の日本が世界の中でどのような立場にあるか、初めに日本及び主な国の文化・思想・宗教ならびに近代の歴史を学ぶことから理解をする。そのうえで政治・経済の視点を軸にして現代の日本の様々な問題点について学修し、現代の社会を生きるために不可欠な基本知識を身につけ、社会生活において適切な選択や判断ができることを目指す。								
到達目標	取り上げるテーマは、いずれも社会人として当然備うるべき常識と考えられる事項である。社会生活自体はもちろんのこと就職活動における面接等でそれらについて問われた際に、概略と自身の考えを述べられるようになることを目標とする。								
学修者への期待等	「自立した大人」になるための下地を作ってほしいという観点から、各人の専攻に関わらず社会人として当然知っておくべき事項を取り上げる。一般的な知識を修得し、良き職業人を目指すという意欲をもって受講してほしい。								
回	授業計画				準備学修				
1	「現代の社会」導入(現代世界概観-特に文化と思想・宗教、歴史)				私たちを取り巻く現代社会について、その特徴を列挙し考察すること。当日配信する確認テストに備えること。(30分程度)				
2	現代社会の誕生(特に大衆社会)				前回の講義内容(「現代の社会」導入)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)				
3	現代社会の特質(特に生命科学と情報技術)				前回の講義内容(現代社会の誕生)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)				
4	現代社会と人間の本質(特に自己形成)				前回の講義内容(現代社会の特質)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)				
5	日本国憲法の基本的性格(特に社会権・参政権)				前回の講義内容(現代社会と人間の本質)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)				
6	日本の政治機構と政治参加(特に地方自治と政党政治)				前回の講義内容(日本国憲法の基本的性格)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)				
7	現代の経済社会(特に財政と金融) 附、レポート作成に当たって(説明)				前回の講義内容(日本の政治機構と政治参加)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)				
8	少子高齢化と国民の福祉(その原因と対策、社会保障の概要について)				前回の講義内容(現代の経済社会)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)				
9	消費者問題(消費者問題の歴史、消費者を保護するための制度について)				前回の講義内容(少子高齢化と国民の福祉)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)				
10	労働問題(日本の労働事情や労働関係法規・制度、労働格差について) 附、レポート作成に当たって(再度)				前回の講義内容(消費者問題)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)				
11	現代社会の特質・補足(生命科学)				前回の講義内容(労働問題)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)				
12	日本の政治機構と政治参加・補足1(選挙制度と世論)				前回の講義内容(生命科学)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)				
13	日本の政治機構と政治参加・補足2(裁判と司法権)				前回の講義内容(選挙制度と世論)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)				
14	現代の経済社会・補足(日本の財政課題)				前回の講義内容(裁判と司法権)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)				
15	日本の社会保障制度と環境問題 附、レポート作成に当たって(最終)				前回の講義内容(日本の財政課題)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)				
教科書	「2023小論文頻出テーマ解説集 現代を知るplus」第一学習社								
参考文献	「別冊NHK 100分de名著 読書の学校 特別授業 君たちはどう生きるか」池上彰著 (NHK出版(2017)) 各項目について報道している日刊新聞(購読していない場合は各社のweb版でも可。ただし不特定者によるまとめ記事はむしろ不可)								
備考	講義は全て遠隔(オンデマンド)で実施するが、板書を中心に進めるのでノートを準備すること。なお、理解の妨げとなるので早送りなどしないこと。 試験は、同時内にマークシート解答(60%)とレポート作成(20%)を実施する。レポート作成の要領については講義内で説明するので集中して聞くこと。なお、持込一切不可である。 受講態度は、確認テスト解答の返信確認で判断するが、白紙など不誠実なものは減点或いは評価しない(課題の解説は次回講義の際に講義内で行う)。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-0-HS0-02				
	●									
科目名	心理学概論				単位認定者	真覚 健		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	10 %
						授業時間数	20 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	心理学の歴史、知覚、学習、記憶、言語、思考、欲求、感情、性格、知能、発達、社会と集団、臨床心理学や社会心理学の理論などを学び、人間の行動や心理過程の理解に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	1. 人を理解する上で、知覚、学習、記憶等、様々な領域・知識があることを知る。 2. 心理学的アプローチを理解することで、自己を含めた人間には多様性・揺らぎがあることを知る。									
学修者への期待等	資料をあらかじめ配付するので事前に熟読してください。 日常生活で経験する事象と結びつけて理解するよう期待します。									
回	授業計画				準備学修					
1	心理学とは、発達				【事前】発達における遺伝と環境の問題、発達課題について調べておくこと（1時間程度）					
2	知覚・認知				【事前】感覚的順応、恒常性について調べておくこと（1時間程度）					
3	学習				【事前】古典的条件づけ、道具的条件づけについて調べておくこと（1時間程度）					
4	記憶				【事前】短期記憶・長期記憶の特徴について調べておくこと（1時間程度）					
5	言語と思考、小テスト				【事前】演繹的推論・帰納的推論について調べておくこと（1時間程度）					
6	欲求と動機づけ				【事前】内発的動機づけについて調べておくこと（1時間程度）					
7	感情・情動				【事前】表情について調べておくこと（1時間程度）					
8	パーソナリティ				【事前】類型論と特性論について調べておくこと（1時間程度）					
9	知能				【事前】知能の定義について調べておくこと（1時間程度）					
10	集団				【事前】集団規範について調べておくこと（1時間程度）					
教科書	指定なし									
参考文献	授業中、適宜紹介します。									
備考	講義資料を配付します。 授業内課題は小テストで評価します。なお、採点後の答えは返却し、誤答の多い問題について解説をする予定です。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-0-HSO-03				
	●									
科目名	家族社会学				単位 認定者	徳川 直人		試験(レポート)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		16 時間	受講態度
						授業回数	8 回			
授業の概要	家族の歴史的变化や国際比較を踏まえ、現代の多様化する家族をめぐる諸課題について学び、人間生活の基礎としての家族と社会の仕組みを幅広い理解に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族の歴史的变化や国際比較を踏まえ、家族の本質について理解を深める。</li> <li>2. 現代日本における家族の動向について理解を深める。</li> <li>3. 現代の家族をめぐる諸課題（ジェンダーと家庭内役割、家事の社会化、療育や介護とエンパワメント、社会的支援など）について当事者本位の理解や説明ができる。</li> </ol>									
学修者への期待等	基本的に自分のこと以外は経験できないため、他の家族について想像しづらく、また、自身の経験からくる感情の問題にも悩まされがちな分野であろうと思われる。他者の経験についても書物やニュースなどから情報を得て、自己の経験を相対化したり冷静にふりかえりつつ、広い社会的視野を身につけてゆきたい。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進め方ガイダンス</li> <li>・作業「何をしたら家族？」ほか</li> </ul>				とくになし			徳川 直人 佐藤 絵里		
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レクチャー「家族の構造：核家族化って本当か」</li> <li>・作業「この人の家族のタイプは？」ほか</li> </ul>				授業内で指示（概ね30分）			徳川 直人		
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レクチャー「家族の機能：核家族化は問題って本当か」</li> <li>・作業「家族するってどういうことか」ほか</li> </ul>				授業内で指示（概ね30分）			徳川 直人		
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レクチャー「家族の構造と機能：関連と区別」</li> <li>・作業「偏見はどうして生まれるか」</li> </ul>				授業内で指示（概ね30分）			徳川 直人		
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レクチャー「ジェンダーとは」</li> <li>・作業「いろいろな非対称」ほか</li> </ul>				授業内で指示（概ね30分）			徳川 直人		
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レクチャー「家族とジェンダー」</li> <li>・作業「子育て本を調べてみたら」「看護と感情」</li> </ul>				授業内で指示（概ね30分）			徳川 直人 佐藤 絵里		
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レクチャー「家族への支援1」</li> <li>・作業：具体的事例を読み解く（ひとり親世帯）</li> </ul>				授業内で指示（概ね30分）			佐藤 絵里		
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レクチャー「家族への支援2」</li> <li>・作業：具体的事例を読み解く（LGBTQ）</li> </ul>				授業内で指示（概ね30分）			佐藤 絵里		
教科書	とくに使用しませんが、資料を配付します									
参考文献	とくに指定しませんが、資料を配布します									
備考	授業内の作業は、提示された課題について各自が考え、記述して提出し、担当者がまとめながらレクチャーにつながるという形でフィードバックします。必ずしもディスカッションやグループワークではありません。これを受講内課題としてカウントしてゆきませんが、小テストではありませんので「正答」であるか否かは問いません。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--



学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HSC-01				
	●									
科目名	情報処理				単位認定者	佐々 順子		試験（筆記）	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	現代のコミュニケーションツールとして重要な位置を占めるパソコンを用いて、文書作成やデータ処理など情報伝達・発信方法の基礎を学ぶ。加えて、パソコンをコミュニケーションツール、ビジネスツールとして活用する能力を養う。また、パソコンを使う者のマナー、情報保護の意識等も学修する。									
到達目標	コンピュータの基本操作を習得し、一般的な業務に通用するWord・Excel・PowerPointの操作スキルを身につけることを目標とする。 Word：基本的なビジネス文書の作成、表現効果を上げる表や画像を使用した文書の作成。 Excel：数式、グラフを含む表計算ソフトの基本操作と応用的な機能の習得。 PowerPoint：プレゼンテーションソフトの基本操作と目的に沿ったスライドの作成。									
学修者への期待等	コンピュータの基本的な操作技術とともに、利用上のマナーや注意点などを含むコンピュータ・リテラシーを身につけることを目標にして欲しい。コンピュータ操作経験者も基本事項の再確認や、これまで自己流で感覚的に行っていた部分を正確な知識・技能に高準化するのための見直しとして意欲的に臨むこと。また、操作がわからない者へのアドバイスや受講者間での相談等の協調によるスキルアップも大切にしていきたい。欠席や遅刻をせず、1回1回の授業に積極性を持って「参加」すること。									
回	授業計画				準備学修					
1	コンピュータの基本知識と情報セキュリティ画面の操作 Word：Wordの立ち上げと基本操作				予習について ・マウス操作、タッチパッド操作、キー操作、タイピングに自信がない者は、継続的な自主練習を行う。特に入力操作が苦手な場合はタイピング（ローマ字入力）、マウス操作の練習を行って授業に臨む。（30分程度）  復習について ・各授業で学んだ操作内容を復習し、次回までに確実に操作できるようにしておく。 ・授業時間内に完成しなかった課題は次回授業までに完成させる。（30～60分程度）					
2	Word：文書の作成と印刷・ページ設定、ファイルの保存									
3	Word：表の作成									
4	Word：文書の編集									
5	Word：クリップアート、ワードアート使用による表現力アップ									
6	Word：長文作成、ビジネス文書作成									
7	PowerPoint：プレゼンテーションの操作と作成									
8	PowerPoint：オブジェクトの挿入・編集を含む効果的なプレゼンテーションの作成									
9	PowerPoint：特殊効果を設定した効果的なプレゼンテーションの作成									
10	Excel：Excelの基本操作、ブックの保存、表作成									
11	Excel：表作成（関数の使用、罫線や塗りつぶし、セルの書式設定）、印刷設定									
12	Excel：相対参照と絶対参照の設定、色々な数式の使用									
13	Excel：さまざまな関数の使用									
14	Excel：グラフ作成									
15	Word、Excel、PowerPointの連携操作									
教科書	「30時間アカデミック Office2019 Windows10対応」 杉本くみ子、大澤栄子著、実教出版									
参考文献	授業内容に応じてプリント配付（配布プリントはすべてファイリングすること。）									
備考	操作性の向上と、授業課題の保存・移動のため、初回授業での説明を聞いた上で、2回目までに各自のものを用意してください。 必須：USBメモリー（他の科目と共用可 ノートPCの仕様によりUSBポートがない場合はコネクタも必要） 任意：私物ノートPC用 マウス									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-0-HSC-01				
	●									
科目名	自然科学入門				単位認定者	石澤 公明 本田 俊夫	試験(筆記)	70 %		
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	以下の3分野の学修を通して身近な生命現象を科学的に理解するために必要な基礎的知識を身につける。 【生物】生物学の基礎(生命現象・遺伝・細胞・発生・免疫・生物と環境)を学び、生命現象、生命の尊厳、生物の多様性、現在急速に解明されつつある生命現象や生命科学を科学的に理解する。 【化学】化学の基礎(物質の構造、酸と塩基・酸化還元、溶液・浸透圧、有機化学、生体物質)を学び、人間生活と化学的事象との関わりを科学的に理解する。 【物理】日常接する運動、電気、磁気などに関する物理の法則や概念(運動と力、仕事とエネルギー、波動、電気と磁気)を学び、人間生活と物理的事象との関わりを科学的に理解する。									
到達目標	【生物】 1.生物学の基礎を学び、生命現象、生命の尊厳、生物の多様性を理解する。 2.「生命現象」「遺伝」「細胞」「発生・免疫」「生物と環境」をテーマとして生命現象や生命科学について理解を深める。 【化学】 1.化学の基礎を学び、物質の構造、性質、反応について理解する。 2.「物質の構造」「酸と塩基・酸化還元」「溶液・浸透圧」「有機化学」「生体物質(糖質・脂質・タンパク質)」をテーマとして人間生活と化学的事象について理解を深める。 【物理】 1.物理学の基礎を学び、物理の法則や概念について理解する。 2.「運動と力」「仕事とエネルギー」「波動」「電気と磁気」をテーマとして、人間生活と物理的事象について理解を深める。									
学修者への期待等	疑問点は授業中でも手を上げて質問してほしい。教師とのコミュニケーションを積極的にとってほしい。また、復習を心がけてほしい。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	物質の構造 I (元素)				当日配布するプリント(物質の構造 I)の復習(概ね30分)			石澤 公明		
2	物質の構造 II (原子・分子と化学結合)				前時配布のプリント(物質の構造II)の予習(概ね1時間)			石澤 公明		
3	物質と化学変化				前時配布のプリント(物質と化学変化)の予習(概ね1時間)			石澤 公明		
4	溶液の性質				前時配布のプリント(溶液の性質)の予習(概ね1時間)			石澤 公明		
5	生体高分子(核酸、たんぱく質、多糖類)				前時配布のプリント(生体高分子)の予習(概ね1時間)			石澤 公明		
6	代謝と酵素				前時配布のプリント(代謝と酵素)の予習(概ね1時間)			石澤 公明		
7	細胞の構造と機能				前時配布のプリント(細胞の構造と機能)の予習(概ね1時間)			石澤 公明		
8	生物の環境応答				前時配布のプリント(生物の環境応答)の予習(概ね1時間)			石澤 公明		
9	細胞分裂(体細胞分裂と減数分裂)				前時配布のプリント(細胞分裂)の予習(概ね1時間)			石澤 公明		
10	遺伝				前時配布のプリント(遺伝)の予習(概ね1時間)			石澤 公明		
11	運動と力 I ~力と運動				復習を心がけること(概ね30分)			本田 俊夫		
12	運動と力 II ~力の合成・分解、力のモーメント				前時の演習プリントをやっておくこと(30~50分)			本田 俊夫		
13	仕事とエネルギー				前時の演習プリントをやっておくこと(30~50分)			本田 俊夫		
14	波動~光と音の基本性質				前時の演習プリントをやっておくこと(30~50分)			本田 俊夫		
15	電気と磁気~電流と磁界電流回路の基本				前時の演習プリントをやっておくこと(30~50分)			本田 俊夫		
教科書	毎回講義資料を配布します。									
参考文献	化学・生物:「看護に必要なやりの生物・化学」時政孝行著 昭林社									
備考	化学と生物では、毎回授業の最後に出す問題への解答提出を求めます。その解答等は次回以降の講義中でフィードバックします。また、初回講義で出す課題に対するレポート(A4レポート用紙一枚)は期限までの提出を求めます。その総評を講義最後に行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-0-HSC-02				
	●									
科目名	数理リテラシー				単位認定者	本田 俊夫		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		20 時間	
				授業回数		10 回				
授業の概要	基本的な数学用語の意味、記号、計算法を理解し、日常的で身近な具体例と数学との関連を学び、数理処理能力の向上に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	基本的な数学用語の意味、記号、計算法を理解し、日常的で身近な具体例と数学との関連を身につける。									
学修者への期待等	日常でよく使う計算、算数・数学的な考え方を修得するための科目です。授業後は1時間程度の復習をし、考え方や処理が不明の箇所がある場合は積極的に質問してください。									
回	授業計画				準備学修					
1	基本計算、看護に必要な計算について				【事後】復習を心がけること。 (30分～1時間程度)					
2	四則混合計算				【事後】復習を心がけること。 (30分～1時間程度)					
3	和と差、割合				【事後】復習を心がけること。 (30分～1時間程度)					
4	質量パーセント濃度と混合・希釈				【事後】復習を心がけること。 (30分～1時間程度)					
5	物質量の計算①—アボガドロ定数、モル質量、モル濃度				【事後】復習を心がけること (高校の化学の教科書で1～2時間程度)。					
6	物質量の計算②—指数・対数				【事後】復習を心がけること (高校の数学Ⅱおよび化学の教科書で2時間程度)。					
7	指数・対数と物質量—水の電離・水のイオン積、pHの計算				【事後】復習を心がけること。 (30分～1時間程度)					
8	平面図形と角度・面積				【事後】復習を心がけること。 (30分～1時間程度)					
9	立体図形の体積				【事後】復習を心がけること。 (30分～1時間程度)					
10	規則性				【事後】復習を心がけること。 (30分～1時間程度)					
教科書	毎回プリントを配布します。									
参考文献										
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-1-HAP-01			
	●								
科目名	人体構造と機能 I				単位認定者	大和田 宏美		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	
						授業時間数	16 時間		
				授業形態	講義	授業回数	8 回		
授業の概要	人体を構成する細胞から結合組織、骨の構造と連結の状態、筋組織などを学び、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を身につける。								
到達目標	人体を構成する細胞から結合組織、骨の構造と連結の状態、筋組織の構造と機能が説明できる。								
学修者への期待等	解剖学を学ぶことは自分の体を知ることにつながります。興味をもって取り組んでください。解剖学の基本である、骨と筋の名称を覚えましょう。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	解剖学総論：解剖学的用語				教科書のp12-24を事前に読んでおくこと。LMSで講義資料を確認しておくこと。(予習時間概ね各1時間)			大和田 宏美	
2	骨学総論：骨模型を組み立ててみよう				教科書のp276-283を事前に読んでおくこと。LMSで講義資料を確認しておくこと。(予習・復習時間概ね各1時間)			大和田 宏美 鈴木 裕治 佐々木 広人 荒牧 隼浩	
3	骨学：頭蓋骨・上肢 グループワーク				教科書のp284-292を事前に読んでおくこと。LMSで講義資料を確認しておくこと。(予習・復習時間概ね各1時間)			大和田 宏美 鈴木 裕治 荒牧 隼浩	
4	骨学：下肢・骨盤 グループワーク				教科書のp292-301を事前に読んでおくこと。LMSで講義資料を確認しておくこと。(予習・復習時間概ね各1時間)			大和田 宏美 鈴木 裕治 荒牧 隼浩	
5	筋学総論：筋組織の構造				教科書のp302-312を事前に読んでおくこと。LMSで講義資料を確認しておくこと。(予習・復習時間概ね各1時間)			大和田 宏美	
6	筋学：頭頸部・体幹 グループワーク				教科書のp312-316を事前に読んでおくこと。LMSで講義資料を確認しておくこと。(予習・復習時間概ね各1時間)			大和田 宏美 鈴木 裕治 荒牧 隼浩 小松 佳路	
7	筋学：上肢 グループワーク				教科書のp316-318を事前に読んでおくこと。LMSで講義資料を確認しておくこと。(予習・復習時間概ね各1時間)			大和田 宏美 鈴木 裕治 荒牧 隼浩 小松 佳路	
8	筋学：下肢 グループワークとまとめ				教科書のp318-322を事前に読んでおくこと。LMSで講義資料を確認しておくこと。(予習・復習時間概ね各1時間)			大和田 宏美 鈴木 裕治 小松 佳路	
教科書	「ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能①解剖生理学」林正健二編、MCメディカ出版								
参考文献	「系統看護学講座 基礎専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能①」板井健雄・岡田隆夫著、医学書院 「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系」板井健雄・松村譲児監訳、医学書院								
備考									

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

理学療法士としての経験が豊富で、特に筋・骨格系の解剖学を教授するのに十分な実務経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-1-HAP-02				
	●									
科目名	人体構造と機能Ⅱ				単位認定者	田林 暁一		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
						授業時間数	20 時間			
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	循環器(心臓、血管および血圧)、呼吸器、血液、免疫系の構造と機能などを学び、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>血液の成分と機能が説明できる。</li> <li>生体の防御機構が説明できる。</li> <li>心臓の構造と機能が説明できる。</li> <li>血管系の構造と機能が説明できる。</li> <li>リンパ系の構造と機能が説明できる。</li> <li>気道の構造と機能が説明できる。</li> <li>肺の構造が説明できる。</li> <li>呼吸の仕組みが説明できる。</li> </ol>									
学修者への期待等	各講義に際し、授業計画の予習、および講義後1～2日間で復習をしてください。予習、および復習は反転授業で活用し、理解を深めていきたいと考えているので、予習・復習の習慣をつけてください。									
回	授業計画				準備学修					
1	医学への関心度 (一般的な医学情報に対する質問)				医学一般に関する学修、事前の準備は不要					
2	血液の成分と機能、出血・止血の病態、リンパ系の構造と機能 反転授業				第2回講義内容の30分間の予習、および第1回講義の30分間の復習					
3	生体の防御機構 (自然、および獲得免疫) 反転授業				第3回講義内容の30分間の予習、および第2回講義の30分間の復習					
4	生体の防御機構 (アレルギー、自己免疫、老化) 反転授業				第4回講義内容の30分間の予習、および第3回講義の30分間の復習					
5	心臓・血管系の構造と機能 反転授業				第5回講義内容の30分間の予習、および第4回講義の30分間の復習					
6	循環器総論 (胸痛、動悸) 反転授業				第6回講義内容の30分間の予習、および第5回講義の30分間の復習					
7	循環器総論 (ショック、救急) 反転授業				第7回講義内容の30分間の予習、および第6回講義の30分間の復習					
8	気道・肺の構造と機能 反転授業				第8回講義内容の30分間の予習、および第7回講義の30分間の復習					
9	呼吸の仕組み (生理・生物学的動態) 反転授業				第9回講義内容の30分間の予習、および第8回講義の30分間の復習					
10	呼吸器総論 (喀血、咳、呼吸不全) 反転授業				第10回講義内容の30分間の予習、および第9回講義の30分間の復習					
教科書	「ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能①：解剖生理学」林正健二編、MCメディカ出版									
参考文献	「医学概論 5版」北村論著、中外医学社									
備考	講義内容の学修を授業以外でも行わせ、反転授業を行い、講義内容の理解と修得を高める。									

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

医師としての臨床経験を生かして、循環器、呼吸器、血液、免疫系の構造と機能を医学的に理解させる。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-1-HAP-03				
	●									
科目名	人体構造と機能Ⅲ				単位 認定者	小野寺 健		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内 課題等	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	受講態度
							授業回数		15 回	
授業の概要	<p>消化器系(咀嚼・嚥下、消化と吸収、栄養の代謝を含む)、腎・泌尿器、生殖器の構造と機能などを学び、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を身につける。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 咀嚼・嚥下に関する構造と機能について説明できる。</li> <li>2. 胃、十二指腸、空腸・回腸、結腸・虫垂、直腸・肛門、肝臓と胆道、膵臓の構造と機能が説明できる。</li> <li>3. 腎臓、尿管、膀胱、尿道の構造と機能が説明できる。</li> <li>4. 生殖器系(女性・男性)の構造と機能が説明できる。</li> <li>5. 人体の構造と機能の講義で学んだ知識をもとに、解剖実習のご遺体を観察し、人体の構造をより深く説明することができる。</li> <li>6. ご遺体に接し、生命と死、献体の意義を考え、医学領域に携わる者としての態度を養う。</li> </ol>									
学修者への期待等	<p>人間の体はさまざまな細胞や臓器からできており、それらが協力して働いている。全体を大きく把握することからはじめて、細部に至る方が理解しやすいと思われる。また、実際にご遺体に接することで、生と死について考え、献体をしていただける方達への感謝の念を持ち、医学に携わる者としてその意義を改めて考えて欲しい。レポート課題を数回程度課す予定である。</p>									
回	授業計画				準備学修		担当			
1	消化器系①(口腔、咽頭、食道)						小野寺 健			
2	消化器系②(胃、小腸、大腸)						小野寺 健			
3	消化器系③(肝、胆、膵)				【事後課題】消化器系に関するレポート課題を提示する予定である。(概ね2時間)		小野寺 健			
4	消化器系④(吸収と運動について)						小野寺 健			
5	呼吸器系①(外呼吸と内呼吸、上気道)						小野寺 健			
6	呼吸器系②(下気道、肺、換気、血液中のガス交換)				【事後課題】呼吸器系に関するレポート課題を提示する予定である。(概ね2時間)		小野寺 健			
7	泌尿器系①(泌尿器系の構造と機能)						小野寺 健			
8	泌尿器系②(尿の生成と体液の調節)						小野寺 健			
9	生殖器の構造・機能、内分泌器官の構造と機能						小野寺 健			
10	排泄(排便、排尿)、体温(体熱の産生、体温調節)						小野寺 健			
11	【解剖見学実習前 講義】 ①献体と倫理的視点、②見学上の留意点						小野寺 健 佐藤 匡			
12	【解剖見学実習】①クラス別演習						小野寺 健 佐藤 匡			
13	【解剖見学実習】②クラス別演習						小野寺 健 佐藤 匡			
14	【解剖見学実習】③クラス別演習				【事後課題】見学終了後所定の提出日まで、学修内容をレポートとして提出を求める。		小野寺 健 佐藤 匡			
15	【解剖見学実習後】まとめ						小野寺 健			
教科書	「ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能①：解剖生理学」林正健二編、MCメディカ出版									
参考文献	適宜、参考資料を配付する。									
備考	※解剖見学実習は2クラスで行う。解剖見学実習前に①献体と倫理的視点、②見学上の留意点について講義する。解剖見学実習をする上で①、②の講義受講は必修である。小テスト・レポート課題は回収後、採点し、次回総括(フィードバック)する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-1-HAP-04			
	●								
科目名	人体構造と機能IV				単位認定者	山本 由似		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間
				授業回数		15 回			
授業の概要	中枢神経系（大脳、視床・視床下部、中脳・橋・延髄、小脳、脊髄）、末梢神経系（脳神経、脊髄神経、体性神経）、感覚器系（体性感覚、視覚、聴覚、平衡感覚、味覚、嗅覚、内臓感覚）、内分泌系の構造と機能などを学び、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を身につける。								
到達目標	1. 中枢神経系（大脳、視床・視床下部、中脳・橋・延髄、小脳、脊髄）の構造と機能が説明できる。 2. 末梢神経系（脳神経、脊髄神経、体性神経、自律神経）の構造と機能が説明できる。 3. 感覚器系（体性感覚、視覚、聴覚、平衡感覚、味覚、嗅覚、内臓感覚）の構造と機能が説明できる。 4. 内分泌器官の構造とホルモンの機能が説明できる。								
学修者への期待等	授業は教科書とレジュメをもとに行ないます。授業を行った日と次回の授業の前日に、教科書・レジュメを参考にしながら復習すること。わからないところ、疑問に思ったところがあれば積極的に質問して、暗記ではなく理解を深めて下さい。								
回	授業計画				準備学修				
1	神経系総論① 高次脳機能、神経系の疾患など				【事後】解剖用語や生理学的用語が次々と沢山出て、授業のペースが早くなって来ます。特に、復習に熱心に取り組んで欲しいです。講義が終わったら、まず教科書・レジュメを繰り返し読んで、講義した内容をしっかりと把握してください。（30分程度）				
2	神経系総論② 神経系の分類、神経組織の構造と機能								
3	中枢神経系① 脊髄								
4	中枢神経系② 脳								
5	末梢神経系① 脊髄神経								
6	末梢神経系② 脳神経								
7	神経系 まとめ								
8	感覚器① 視覚器								
9	感覚器② 平衡聴覚器、皮膚								
10	感覚器系 まとめ								
11	自律神経での調整								
12	内分泌での調整① 視床下部、下垂体								
13	内分泌での調整② 松果体、甲状腺、副甲状腺								
14	内分泌での調整③ 副腎、性腺								
15	自律神経・内分泌 まとめ								
教科書	「ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学」林正健二編集、MCメディカ出版								
参考文献	「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学」坂井建雄他著、医学書院								
備考									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-1-HAP-05				
	●									
科目名	生化学				単位認定者	駒井 三千夫		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
						授業時間数	20 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	物質代謝（同化作用と異化作用、酵素、炭水化物、脂質、蛋白質、ビリルビン、核酸、ビタミン・ミネラル）と体内での消化・代謝プロセスなどを学び、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	物質代謝（同化作用と異化作用、酵素、炭水化物、脂質、蛋白質、ビリルビン、核酸、ビタミン・ミネラル）、体内で消化・代謝されていくプロセスについて説明できる。									
学修者への期待等	教員の口頭での説明（配布資料および板書）と教科書の記載が重要である。授業内容や、教科書付録の「整理ノート」に記載の毎回の確認問題の中で理解できない事項があれば、授業の終了時および次の授業時に教員に質問すること。生化学の用語は外国語由来のものも多くて難しいので、分からなかった用語は教科書やノート（板書内容）等で確認・復習しておくこと。									
回	授業計画				準備学修					
1	身体の構成成分：生化学を学ぶにあたっての必要な基本知識、栄養素等の物質代謝（同化・異化作用）の概要				教科書第1章「生体の成り立ちと生体分子」と「整理ノート」第1章を参照（概ね1時間）					
2	生元素ミネラル類とその働き、体液のイオン構成とpH調節のしくみ				第12章「体液」と「整理ノート」第12章を参照（概ね1時間）					
3	炭水化物（糖質）とその消化吸收および代謝				第4章「糖質の代謝」と「整理ノート」第4章を参照（概ね1時間）					
4	タンパク質・アミノ酸の性質とその消化吸收				第2章「タンパク質の性質」と「整理ノート」第2章を参照（概ね1時間）					
5	タンパク質・アミノ酸の代謝、酵素の性質と働き				第3章「酵素の性質と働き」および第6章「アミノ酸およびタンパク質の代謝」と、同章の「整理ノート」（2章分合わせて概ね1時間）。					
6	脂質とその消化吸收および代謝				第5章「脂質の代謝」と「整理ノート」第5章を参照（概ね1時間）					
7	水溶性ビタミン（B群ビタミン（補酵素）とビタミンC）				第9章「1. 水溶性ビタミン」と「整理ノート」第9章の前半を参照（概ね1時間）					
8	脂溶性ビタミンの生理機能				第9章「2. 脂溶性ビタミン」と「整理ノート」第9章の後半を参照（概ね1時間）					
9	血液（ビリルビンを含む）と尿				第13章「血液」と第14章「尿」および同章の「整理ノート」を参照（2章分合わせて概ね1時間）					
10	核酸と遺伝子発現のしくみ				第7章「核酸の役割」と「整理ノート」第7章を参照（概ね1時間）					
教科書	「わかりやすい生化学 疾病と代謝・栄養の理解のために」齊藤邦明編、ヌーヴェルヒロカワ									
参考文献	「栄養の基本がわかる図解事典」中村丁次監修、成美堂出版 高校の「化学」と「生物」の教科書 「基礎栄養学」駒井・正木編著、アイ・ケイコーポレーション									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--



学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-1-HAP-06				
	●									
科目名	微生物学				単位 認定者	佐山 勇輔		試験(筆記)	85 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の 方法	授業内 課題等	15 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	感染に対する生体防御機構、微生物(細菌、真菌、原虫、ウイルス)の性質、微生物感染(細菌、真菌、原虫、ウイルス)のしくみなどを学び、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	1. 生体防御機構について説明できる。 2. 代表的な微生物(細菌、真菌、原虫、ウイルス)の生物学的特徴と多様性を理解する。 3. 代表的な微生物感染症の臨床像を説明することができる。									
学修者への 期待等	事前学修として、配布資料、教科書・参考書の該当する項目を読んでおく事が望ましい。学修する項目が多いので、表や図を作って内容を整理して学修すること。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	微生物学総論-1: 感染症とは。社会における感染症。病原体の種類				教科書 第1章(微生物と微生物学)、10章A・B(感染症の現状と対策) (1時間程度)			佐山 勇輔		
2	微生物学総論-2: 感染経路、滅菌と消毒				教科書 5章A・B(微生物感染の機構、感染の成立から発症・治癒まで)、8章(感染源・感染経路からみた感染症)、第7章(滅菌と消毒)。高校生物の復習。(1時間程度)			佐山 勇輔		
3	細菌学総論: 細菌の生物学的特徴および環境と宿主での存在様式				教科書 第2章(細菌の性質) (1時間程度)			佐藤 延子		
4	細菌学各論-1: 細菌感染症の感染経路と感染予防対策				教科書 第5章(感染と感染症)b(細菌を中心に)C、10章(感染症の現状と対策)B②・C③ (1時間程度)			佐藤 延子		
5	細菌学各論-2: 病原細菌の特徴と感染症①(グラム陽性球菌、グラム陰性球菌、グラム陰性桿菌)				教科書 第11章A,B,C,D,E(グラム陽性球菌、グラム陰性球菌、グラム陰性桿菌) (1時間程度)			佐藤 延子		
6	細菌学各論-3: 病原細菌の特徴と感染症②(グラム陽性桿菌、抗酸菌、嫌気性菌、マイコプラズマ、スピロヘータ、偏性細胞内寄生性細菌)				教科書 第11章F,G,H,I-L(グラム陽性桿菌、抗酸菌、嫌気性菌、マイコプラズマ、スピロヘータ、リケッチア、クラミジア) (1時間程度)			佐藤 延子		
7	細菌学各論-4: 細菌感染症の診断、治療薬と薬剤耐性				教科書 第8章(感染症の検査と診断): 細菌を中心に。第9章(感染症の治療)A(化学療法の基礎、抗細菌薬) (1時間程度)			佐藤 延子		
8	ウイルス学総論: ウイルスの生物学的特徴、治療薬のメカニズムと検査方法				教科書 第3章(ウイルスの性質)、5章D(ウイルス感染の機構)、8章(感染症の検査と診断)、9章B(抗ウイルス薬) (1時間程度)			石井 恵子		
9	ウイルス学各論-1: 呼吸器感染症、消化管感染症の原因ウイルス				教科書 第12章(病原ウイルスとウイルス感染症) p.275-276、280、286、270-272 (1時間程度)			石井 恵子		
10	ウイルス学各論-2: 肝炎ウイルス、レトロウイルス、腫瘍ウイルス				教科書 第12章(病原ウイルスとウイルス感染症) p.291-292、296-301 (1時間程度)			石井 恵子		
11	ウイルス学各論-3: 神経/全身感染① 発疹を伴う感染症を中心に				教科書 第12章(病原ウイルスとウイルス感染症) p.258-265、273-274、282-283 (1時間程度)			佐山 勇輔		
12	ウイルス学各論-4: 神経/全身感染② 節足動物媒介性感染症、人獣共通感染症。感染症法				教科書 第12章(病原ウイルスとウイルス感染症) p.281-285、10章C(感染症法、感染症監視体制) (1時間程度)			佐山 勇輔		
13	微生物学各論: その他の感染症(原虫、蠕虫、真菌、プリオン)				教科書 第4章(真菌の性質)、5章E(真菌感染の機構)、13章(病原真菌と真菌感染症)、9章C(抗真菌薬)、付章(寄生虫と衛生動物)、12章(病原ウイルスとウイルス感染症) p.302-304 (1時間程度)			佐山 勇輔		
14	免疫学各論-1: 生体の免疫機構および病原微生物(抗原)の認識と排除の仕組み				教科書 第6章(感染に対する生体防御機構) (1時間程度)			石井 恵子		
15	免疫学各論-2: 免疫による感染症防御とワクチンによる感染症予防				教科書 第6章(感染に対する生体防御機構)、10章C④(ワクチンと予防接種) (1時間程度)			石井 恵子		
教科書	「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学」南嶋洋一他著、医学書院									
参考文献	「微生物学」牛島廣治・西條政幸監修、医学芸術社									
備考	授業内課題は今回の講義でフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-1-HAP-07				
	●									
科目名	栄養学				単位認定者	早坂 朋恵		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
						授業時間数	16 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	栄養素の種類(糖質、脂質、ビタミン、蛋白質、ミネラル、食物繊維、水)と働き、エネルギー代謝、食品の成分と栄養素、栄養状態の評価判定、ライフステージと栄養、栄養管理、食事療法などを学び、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養素の種類(糖質、脂質、ビタミン、蛋白質、ミネラル、食物繊維、水)と働きについて説明できる。</li> <li>2. 栄養素の働きとエネルギー代謝について説明できる。</li> <li>3. 栄養状態の評価判定方法が説明できる。</li> <li>4. ライフステージにおける栄養と、健康づくりのための食生活について具体的に述べるができる。</li> <li>5. 病院・施設での栄養管理、食事療法について説明できる。</li> </ol>									
学修者への期待等	授業で理解できなかった点は教科書で復習したり、質問をして、きちんと理解しましょう。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	人間栄養学と看護(教科書:第1章) 栄養素の種類とはたらき(教科書:第2章)				「生化学」の生体成分の項を復習しておくこと。(概ね2時間)			岩間 正典		
2	栄養素の種類とはたらき(続き):ビタミンとミネラル 食物の消化と栄養素の吸収・代謝(教科書:第3章)				消化器官と消化酵素の関係について予習すること。(概ね1時間)			岩間 正典		
3	エネルギー代謝(教科書:第4章) 食事と食品(教科書:5章)				日本人の食事摂取基準(教科書付録)について予習すること。(概ね1時間)			阿部 幸子		
4	栄養ケア・マネジメント(教科書:第6章) 栄養状態の評価・判定(教科書:第7章)				栄養状態の指標と栄養アセスメント、臨床検査とその評価について確認しておくこと。(概ね1時間)			早坂 朋恵		
5	ライフステージと栄養(教科書:第8章)				ライフステージ別の栄養について予習してくること。(概ね1時間)			阿部 幸子		
6	健康づくりと食生活(教科書:第10章)				国民健康・栄養調査、健康日本21(第二次)について調べておくこと。(概ね1時間)			早坂 朋恵		
7	病院食、循環器疾患患者の食事療法、栄養・代謝疾患患者の食事療法、腎臓疾患患者の食事療法、咀嚼・嚥下障害患者の食事療法(第9章)				第9章の左記の内容について教科書を予習してくること。(概ね1時間)			阿部 幸子		
8	チームで取り組む栄養管理、栄養補給法とその製品、経腸栄養製品、術前・術後における栄養管理、がんの食事療法(第9章)				第6章Aの復習と第9章の左記の内容について教科書を予習してくること。(概ね1時間)			早坂 朋恵		
教科書	「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3]栄養学」小野章史他著、医学書院									
参考文献										
備考	第3回～8回は遠隔授業です。									

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

(早坂・阿部) 管理栄養士としての経験を生かし、栄養状態の評価判定、ライフステージと栄養、栄養管理、食事療法等について具体的にわかりやすく授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-1-PRD-01				
	●									
科目名	病理学				単位認定者	齋木 由利子		試験(筆記)	85 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	7 %
					授業形態	講義	授業時間数		16 時間	受講態度
							授業回数		8 回	
授業の概要	疾病の要因となる細胞の障害（萎縮、変性、肥大、壊死とアポトーシス、創傷と治癒）や生体の障害（循環障害、臓器不全、炎症、損傷、免疫異常、アレルギー、内分泌・代謝異常、廃用症候群、老年症候群、遺伝子異常、先天異常、腫瘍、中毒）などを学び、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	病気が発生するメカニズムを理解する。									
学修者への期待等	単に教科書の内容を覚えるだけでなく、病気がどのようなメカニズムで発症するのかを考えながら修学し、将来の仕事に活かしてほしい。									
回	授業計画				準備学修					
1	病理学とは・細胞の異常、小テスト				【事前】教科書で細胞の構造を確認しておく(30分程度)					
2	循環障害、小テスト				【事前】教科書で心・血管の構造を理解する(30分程度)					
3	感染症、小テスト				【事前】教科書で病原体について理解しておく(30分程度)					
4	免疫と免疫異常、小テスト				【事前】教科書で血球細胞について理解しておく(30分程度)					
5	炎症、小テスト				【事前】教科書で炎症にかかわる細胞について理解しておく(30分程度)					
6	代謝異常・先天異常、小テスト				【事前】教科書でDNAについて理解しておく(30分程度)					
7	腫瘍、老化、小テスト				【事前】教科書で癌の特徴について理解しておく(30分程度)					
8	記述式小テスト、試験について、質問対応				【事前】7回の授業全体の復習(30分程度)					
教科書	「なるほどなっとく病理学plus」小林正伸著、南山堂									
参考文献										
備考	小テストは、講義でフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-1-PRD-02				
	●									
科目名	病態治療学 I (検査・治療)				単位認定者	大和田 宏美		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位			
				授業形態	講義	授業時間数	20 時間			
						授業回数	10 回			
授業の概要	疾病の成り立ちや診断に必要な種々の臨床検査方法、リハビリテーション、廃用症候群の予防、日常生活動作・活動範囲の拡大に向けた援助方法などを学び、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	1. 基本的な臨床検査値の評価と疾病の診断に必要な検査方法について説明できる。 2. 放射線診断・治療、手術療法、リハビリテーションの概要を説明できる。									
学修者への期待等	さまざまな領域の知識を学び、今後の看護実践に適應できるよう教科書を読んで予習・復習をしてください。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	リハビリテーション①：リハビリテーション総論				講義資料をLMSで配信するので事前に確認し、理解を深めてください。(30分程度)				大和田 宏美	
2	リハビリテーション②：理学療法				講義資料をLMSで配信するので事前に確認し、理解を深めてください。(30分程度)				大和田 宏美	
3	リハビリテーション③：作業療法				講義資料をLMSで配信するので事前に確認し、理解を深めてください。(30分程度)				齋藤 佑樹	
4	リハビリテーション④：言語療法 (言語障害・摂食・嚥下障害) ディスカッションを予定				言語障害、嚥下障害について、教科書の該当するページを予習してください。(60分程度)				渡邊 弘人	
5	臨床検査①：検体検査①の実際(臨床検査の基礎、血液学検査、化学検査、免疫血清学検査、尿検査)				臨床検査の基礎と検体検査について、教科書の該当するページを予習してください。(60分程度)				菅原 新吾	
6	臨床検査②：検体検査②と生体検査の実際(臨床検査の基礎、微生物学的検査、病理学的検査、生体機能検査)				臨床検査の基礎と生体検査について、教科書の該当するページを予習してください。(60分程度)				菅原 新吾	
7	放射線医学①：放射線診断(X線撮影、CT、MRI)				講義資料をLMSで配信するので事前に確認し、理解を深めてください。(30分程度)				小山 周樹	
8	放射線医学②：核医学診断・放射線治療				講義資料をLMSで配信するので事前に確認し、理解を深めてください。(30分程度)				小山 周樹	
9	手術療法：手術侵襲と生体反応、創傷の治癒過程等				手術療法について、教科書の該当するページを予習・復習してください。(30分程度)				柴田 近	
10	手術療法：麻酔				麻酔について、教科書の該当するページを予習・復習してください。(30分程度)				長屋 慶	
教科書	「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」矢永勝彦、高橋則子編集 医学書院 「系統看護学講座 別巻 臨床検査」奈良信雄、和田隆志編集 医学書院									
参考文献										
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-1-PRD-03				
	●									
科目名	病態治療学Ⅱ（循環器）				単位認定者	渡辺 卓		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		20 時間	
				授業回数		10 回				
授業の概要	循環機能の障害（心臓疾患、血管系の疾患、血圧異常）の病態と診断・治療方法や移植医療などを学び、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心臓の疾患の病態と診断・治療について説明できる。</li> <li>2. 血管系の疾患の病態と診断・治療について説明できる。</li> <li>3. 血圧異常の病態と診断・治療について説明できる。</li> </ol>									
学修者への期待等	各講義に際し、授業計画の予習、および講義後1～2日間で復習をしてください。予習、および復習は反転授業で活用し、理解を深めていきたいと考えているので、予習・復習の習慣をつけてください。									
回	授業計画				準備学修					
1	先天性心疾患（単純心奇形）の病態と診断・治療 反転授業				第1回講義内容の30分間の予習					
2	先天性心疾患（複雑心奇形）病態と診断・治療 反転授業				第2回講義内容の30分間の予習、および第1回講義の30分間の復習					
3	心臓弁膜症の病態と治療 反転授業				第3回講義内容の30分間の予習、および第2回講義の30分間の復習					
4	虚血性心疾患の病態と診断・治療 反転授業				第4回講義内容の30分間の予習、および第3回講義の30分間の復習					
5	不整脈（上室性不整脈）の病態と診断・治療 反転授業				第5回講義内容の30分間の予習、および第4回講義の30分間の復習					
6	不整脈（心室性不整脈）、および心筋疾患の病態と診断・治療 反転授業				第6回講義内容の30分間の予習、および第5回講義の30分間の復習					
7	心不全の病態と診断・治療 反転授業				第7回講義内容の30分間の予習、および第6回講義の30分間の復習					
8	真性大動脈瘤の病態と診断・治療 反転授業				第8回講義内容の30分間の予習、および第7回講義の30分間の復習					
9	大動脈解離の病態と診断・治療 反転授業				第9回講義内容の30分間の予習、および第8回講義の30分間の復習					
10	高血圧症、および低血圧症の病態と診断・治療 反転授業				第10回講義内容の30分間の予習、および第9回講義の30分間の復習					
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器」 松田直樹他著、医学書院									
参考文献	「標準外科学」北島正樹監修 医学書院									
備考	講義内容の学修を授業以外でも行わせ、反転授業を行い、講義内容の理解と修得を高める。									

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

医師としての臨床経験を生かして、循環器疾患を医学的に理解させる。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-1-PRD-04				
	●									
科目名	病態治療学Ⅲ（消化器）				単位認定者	武富 龍一		試験(筆記)	90 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	10 %
							授業時間数		20 時間	
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	栄養の摂取・消化・吸収・代謝機能の障害（口腔の疾患、上部消化管の疾患、下部消化管の疾患・治療、肝臓・胆・膵臓の疾患、腹壁・腹膜・横隔膜の疾患）の病態と診断・治療について学び、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 口腔の疾患の病態と診断・治療について説明できる。</li> <li>2. 上部消化管の疾患の病態と診断・治療について説明できる。</li> <li>3. 下部消化管の疾患の病態と診断・治療について説明できる。</li> <li>4. 肝臓・胆・膵臓の疾患の病態と診断・治療について説明できる。</li> <li>5. 腹壁・腹膜・横隔膜の疾患の病態と診断・治療について説明できる。</li> </ol>									
学修者への期待等	範囲としては広く、覚える事項も多いですが、現場に出た時に出くわすことの多い重要な分野です。よく復習しながら授業に臨んでください。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	口腔の疾患の病態と診断・治療（う歯、歯周病、舌癌）				配布資料を復習してください。（1時間程度）			武富 龍一		
2	上部消化管の疾患の病態と診断・治療（炎症性疾患、潰瘍性疾患）				配布資料を復習してください。（1時間程度）			武富 龍一		
3	上部消化管の疾患の病態と診断・治療（腫瘍）				配布資料を復習してください。（1時間程度）			武富 龍一		
4	下部消化管の疾患の病態と診断・治療（炎症性疾患、イレウス）				配布資料を復習してください。（1時間程度）			武富 龍一		
5	下部消化管の疾患の病態と診断・治療（腫瘍）				配布資料を復習してください。（1時間程度）			武富 龍一		
6	肝臓疾患の病態と診断・治療（炎症性疾患、脂肪肝、アルコール性肝炎）				配布資料を復習してください。（1時間程度）			武富 龍一		
7	肝臓疾患の病態と診断・治療（肝硬変、腫瘍）				配布資料を復習してください。（1時間程度）			武富 龍一		
8	胆道系疾患の病態と診断・治療（炎症性疾患、腫瘍、胆石症）				配布資料を復習してください。（1時間程度）			板垣 皓大		
9	膵臓の疾患の病態と診断・治療（炎症性疾患、腫瘍）				配布資料を復習してください。（1時間程度）			板垣 皓大		
10	腹壁・腹膜・横隔膜の疾患の病態と診断・治療（腹膜炎、横隔膜ヘルニア、吃逆）				配布資料を復習してください。（1時間程度）			板垣 皓大		
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器」 南川雅子他著、医学書院									
参考文献	「病気がみえる Vol.1 消化器」 メディックメディア									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

医師としての臨床実務経験を生かして、医学的な内容を理解させる。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-1-PRD-05				
	●									
科目名	病態治療学Ⅳ（内分泌、泌尿・生殖器）				単位認定者	板垣 皓大		試験(筆記)	90 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	10 %
					授業形態	講義	授業時間数		20 時間	
						授業回数	10 回			
授業の概要	内部環境調節機能障害（内分泌系の疾患、代謝異常の疾患、体液調節の疾患）、排泄機能障害（泌尿器系の疾患）、男性生殖器の機能障害の病態と診断・治療などを学び、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内分泌系の疾患の病態と診断・治療について説明できる。</li> <li>2. 代謝異常の疾患の病態と診断・治療について説明できる。</li> <li>3. 体液調節の疾患の病態と診断・治療について説明できる。</li> <li>4. 泌尿器系の疾患の病態と診断・治療について説明できる。</li> <li>5. 男性生殖器の疾患の病態と診断・治療について説明できる。</li> </ol>									
学修者への期待等	内容的には複雑な部分もありますが、日々よく復習して講義に臨んでください。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	内分泌系の疾患の病態と診断・治療 (甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、甲状腺炎、腫瘍)				配布資料を復習してください。 (1時間程度)			板垣 皓大		
2	内分泌系の疾患の病態と診断・治療 (副甲状腺疾患、副腎皮質・髄質疾患、腫瘍)				配布資料を復習してください。 (1時間程度)			板垣 皓大		
3	代謝異常の疾患の病態と診断・治療 (メタボリックシンドローム、肥満症、脂質異常症、高尿酸血症、痛風、ビタミン欠乏症)				配布資料を復習してください。 (1時間程度)			板垣 皓大		
4	代謝異常の疾患の病態と診断・治療 (糖尿病)				配布資料を復習してください。 (1時間程度)			板垣 皓大		
5	体液調節の疾患の病態と診断・治療 (水・電解質の異常、酸塩基平衡の異常)				配布資料を復習してください。 (1時間程度)			大谷 将之		
6	泌尿器系の疾患の病態と診断・治療 (腎炎、慢性腎臓病、炎症性疾患)				配布資料を復習してください。 (1時間程度)			大谷 将之		
7	泌尿器系疾患の病態と診断・治療 (腫瘍、腎・尿路結石、過活動膀胱)				配布資料を復習してください。 (1時間程度)			大谷 将之		
8	泌尿器系の疾患の病態と診断・治療 (腎不全)				配布資料を復習してください。 (1時間程度)			大谷 将之		
9	男性生殖器系疾患（前立腺炎、前立腺肥大）				配布資料を復習してください。 (1時間程度)			大谷 将之		
10	男性生殖器系疾患（前立腺癌）				配布資料を復習してください。 (1時間程度)			大谷 将之		
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6]内分泌・代謝」吉岡 成人 他著、医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8]腎・泌尿器」大東 貴志 他著、医学書院									
参考文献	「病気がみえる Vol.3 糖尿病・代謝・内分泌」メディックメディア 「病気がみえるVol.8 腎・泌尿器」メディックメディア									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

医師としての臨床実務経験を生かして、医学的な内容を理解させる。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-1-PRD-09			
	●								
科目名	看護薬理学				単位認定者	木村 勝彦		試験（筆記）	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間		
						授業回数	15 回		
授業の概要	疾病に対する薬物療法（与薬方法、薬物動態、薬効、薬理作用と副作用）、主な薬物の作用とその管理（禁忌、保存方法、薬理効果に影響する要因）などを学び、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を身につける。								
到達目標	1. 疾病に対する薬物療法について説明できる。 2. 主な薬物の作用と副作用について説明できる。 3. 薬物の管理について説明できる。								
学修者への期待等	教科書を必ず読んで受講してください。薬の作用機序は講義を聞かないとなかなか理解できません。わかりやすく説明しますので、まず、薬理学に親しみをもち、好きな教科となるよう期待します。								
回	授業計画				準備学修				
1	第1章総論 薬の作用点、薬の生体内運命について説明する。				【事前】授業計画に合わせて教科書を読んで講義に臨んでください。 （概ね30分以上）  【事後】授業ごとに配布した参考プリントを活用し、授業内容の理解を高めてください。（概ね30分以上）				
2	第10章抗炎症薬・鎮痛薬								
3	第11章免疫・アレルギー系疾患治療薬								
4	第15章中枢神経系疾患治療薬 ①統合失調症治療薬、抗うつ薬								
5	第15章中枢神経系疾患治療薬 ②抗てんかん薬、抗パーキンソン病薬								
6	第2章自律神経に作用する薬 ①交感神経系								
7	第2章自律神経に作用する薬 ②副交感神経系								
8	第3章心臓血管系治療薬								
9	第4章血液・造血器疾患治療薬								
10	第5章消化器系疾患治療薬								
11	第6章呼吸器系疾患治療薬、 第7章腎臓・尿路・生殖器疾患治療薬								
12	第8章ホルモンと関連薬								
13	第9章代謝系疾患治療薬、 第12章骨・関節系疾患								
14	第13章抗感染症薬								
15	第14章抗がん薬								
教科書	「看護学テキストNICE 薬理学」萩田喜代一、首藤誠編集、南江堂								
参考文献	「看護師のための薬理学」時政孝行著、南山堂 「薬がみえる vol.1、2、3」メディックメディア								
備考									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--



学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-1-HSS-01				
	●									
科目名	生命科学と医療倫理				単位認定者	飯沼 一字		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		20 時間	受講態度
				授業回数		10 回				
授業の概要	生命科学入門として遺伝・発生・免疫など基本的生命現象、医学の進歩発展過程で問われる倫理、医療現場で問われている倫理的問題、学際的な問題である生命倫理を学び、倫理的に判断し行動するための基礎的知識を身につける。									
到達目標	1. 遺伝・発生・免疫など基本的生命現象を生命科学入門として理解する。 2. 医学の進歩発展過程で問われる倫理、医療現場で問われている倫理的問題について考察する。 3. 学際的な問題である生命倫理 (bioethics) について医療の側面から考察する。									
学修者への期待等	生命がどのように営まれているか、生体の基本的仕組みを理解し、そこから派生する倫理的配慮について十分に理解を深めることを望む。また、倫理的課題を常日頃頭に置き、将来の医療従事者としての実践に役立てるようにする。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	第Ⅰ部 1. 生命とは、生命科学の歴史的背景				生命とは何かをよく考え、科学が発展してきた背景を考える。 (概ね30分以上)			飯沼 一字		
2	2. 医学関連の出来事				さまざまな歴史上の出来事を思い起こしておく、授業ではそれらと関係する医学・医療の事柄を学ぶ。			飯沼 一字		
3	3. 近代生命科学の発展				科学の発展を俯瞰してみる。 (概ね30分以上)			飯沼 一字		
4	4. 生命科学の倫理的考察				科学の発展と、現在の医療の現実との関連性を考える。 (概ね30分以上)			飯沼 一字		
5	5. 大災害における医療とは				大災害での医療者の在り方を考える。 (概ね30分以上)			飯沼 一字		
6	6. 生命の始まり・生命のつなぎ				生命をいかに繋いでいくかを考える。 (概ね30分以上)			飯沼 一字		
7	7. 生命の終わり 死の医学				死について、さまざまな角度から考えてみる。 (概ね30分以上)			飯沼 一字		
8	第Ⅱ部 死生観の揺らぎの中で 1. 古代の死生観：プラトンにおける死の道と愛の道				授業で配布するチェックテストを復習しておくこと。 (概ね15～20分)			徳田 幸雄		
9	2. 近代の死生観：優生思想から考える				授業で配布するチェックテストを復習しておくこと。 (概ね15～20分)			徳田 幸雄		
10	3. 近代の死生観：人工妊娠中絶問題から考える				授業で配布するチェックテストを復習しておくこと。 (概ね15～20分)			徳田 幸雄		
教科書	(飯沼) 教科書は使用しない。 (徳田) 教室で授業資料として配布する。									
参考文献										
備考	チェックテストについては次回の授業でフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-1-HSS-02				
			●							
科目名	人間関係論				単位認定者	末永 カツ子		試験（レポート）	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	40 %
					授業形態	講義	授業時間数		16 時間	受講態度
							授業回数		8 回	
授業の概要	日常生活にて経験する人間関係の諸相を心理学や社会的視点からの理解と人間関係形成のプロセスやメカニズム、対患者・医療職種間でコミュニケーションのあり方や方法などを学び、看護実践に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係の存在としての人間、発達する人間関係を理解する。</li> <li>2. 多様化する社会の中での看護の対象とする人々、健康づくりに係る専門職、家族、地域社会の人々の価値観や期待を理解し、尊重する基本姿勢を養う。</li> <li>3. 日常生活において経験する人間関係の諸相を通して人間関係のプロセスやメカニズムについて理解する。</li> </ol>									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良好な人間関係を築くには、内面の人間性を成熟発達させていくことの必要性や普通の学生生活において人間と人間の触れ合いを意図的に経験することが重要であることを認識できるようになることを期待したい。</li> <li>・本講義では主体的な自己学修と授業への積極的な参加を期待し、参加型学習を取り入れる。</li> </ul>									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	人間関係論とは ・自己認知 ・自己概念 ・重要他者				第1章（p4～22）を読み授業に臨む。（概ね1時間）			末永 カツ子		
2	人間関係を作るコミュニケーション ・言語的・非言語的コミュニケーション ・アサーティブコミュニケーション				第5章p81～102、第8章p142～148を読み、講義に臨む。（概ね1時間）			末永 カツ子		
3	集団と個人の関係に起こりうること ・囚人のジレンマ ・バーンアウト ・同調圧力 ・チームエラー ・ヒューマン・エラー				第2章Bp28～32、Dp37～39、第4章Cp67～72、9章Bp168～174 Cp174～178 Dp178～180を読み、講義に臨む。（概ね2時間）			末永 カツ子		
4	個人・家族を支える人間関係 （講義後グループワーク） ・終末期患者と家族とのかかわり				第10章p184～219を読み、講義に臨む。（概ね1時間）			菅原 弘 手塚 有希子 末永 カツ子		
5	個人・家族を支える人間関係 （講義後グループワーク） ・虐待予防のための活動				第11章p224～249を読み、講義に臨む。（概ね1時間）			非常勤講師 手塚 有希子 末永 カツ子		
6	地域をつくる人間関係 （講義後グループワーク） ・障害者を支える地域ケアシステムをつくる活動				第10章p219～222を読み、講義に臨む。（概ね30分）			米倉 一磨 手塚 有希子 末永 カツ子		
7	地域をつくる人間関係 （講義後グループワーク） ・ソーシャルサポート ・セルフヘルプグループ ・ソーシャルキャピタル				第12章地域をつくる人間関係p252～271を読む。（概ね1時間）			手塚 有希子 末永 カツ子		
8	まとめ：グループワーク				4～7回の講義を聞き、それぞれの活動における人間関係をつくる活動について考えさせられたことをテーマにグループワークを行う。			手塚 有希子 末永 カツ子		
教科書	「系統看護学講座 基礎分野 人間関係論」石川ひろの他著、医学書院									
参考文献	「ジンメル・つながりの哲学」菅野仁訳、NHK出版 「3・11大震災と公衆衛生の再生」村口至・末永カツ子編、自治体研究社									
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4～7回目の講義後に提示するテーマに基づきグループワークを行う。</li> <li>・授業内課題は授業日毎に提示する。まとめたものは、提出を求め評価の対象とし、必要に応じて次の講義でフィードバックする。</li> </ul>									

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

これまでの保健師活動や教員の経験により培った人間関係論に関わる知識・技術を活かし、講義を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-1-HSS-03				
	●									
科目名	保健行動学				単位認定者	末永 カツ子 小林 淳子	試験(筆記)	60 %		
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	40 %
					授業形態		講義		授業時間数	16 時間
				授業回数		8 回				
授業の概要	人間行動や保健行動のアセスメントの意味と保健行動学の主要理論(学習理論、行動変容理論)や看護対象の行動変容支援の方法などを学び、自らの健康づくりと看護実践に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	1. 人間の行動と保健行動の意味、保健行動アセスメントの意味を説明できる。 2. 保健行動学の主要理論を説明できる。 3. 対象者の行動変容を支援する方法について説明できる。 4. 自ら望ましい保健行動を取る姿勢を養う。									
学修者への期待等	事前にテキストを予習して臨み、授業後は復習して理解を深めてください。2年次開講の「健康状態別看護Ⅰ」を学ぶ上での基礎となる科目です。自身や家族の健康と保健行動への関心を持ち、地域社会の人々の保健行動や健康づくりにも視野が広がることを期待します。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	保健行動学ガイダンス 人間の行動と保健行動 健康支援に適用される主要な行動の理論：導入				テキスト第1章を予習して臨み、授業を復習し理解を深める(30分間程度)			小林 淳子		
2	学習理論 行動変容のモデル①(ヘルスビリーフモデル)				テキスト第3・4章、6章Ⅱ・Ⅲを予習して臨み、授業を復習し理解を深める(計60分間程度)			小林 淳子		
3	行動変容のモデル②(行動変容ステージモデル)							小林 淳子		
4	集団レベルの行動変容				テキスト第6章Ⅴを予習して臨み、授業を復習し理解を深める(30分間程度)			小林 淳子		
5	保健行動アセスメント				テキスト第5章を予習して臨み、授業を復習し理解を深める(30分間程度)			小林 淳子		
6	行動科学の応用①：テーマ決定 グループワーク 導入				テキスト第6章を予習して臨み、選択したテーマに関する理論を復習し理解を深める(30分間程度)			末永 カツ子 小林 淳子		
7	行動科学の応用②：理論・モデルに基づく支援検討 グループワーク				選択したテーマに関する理論を復習し発表にむけ準備する(60分間程度)			末永 カツ子 小林 淳子		
8	行動科学の応用③：保健行動学まとめ グループワーク 発表				発表を踏まえて行動科学の応用について復習し理解を深める(30分間程度)			末永 カツ子 小林 淳子		
教科書	「行動科学 健康づくりのための理論と応用」畑栄一、土井由利子編、南江堂									
参考文献	「健康行動理論の基礎」松本千明著、医歯薬出版株式会社									
備考	授業内課題は提出物(毎回の授業)で評価し、適宜フィードバックします。									

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

保健師活動や教員の経験により培った保健行動学に関わる知識・技術を活かし授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-FNS-01				
	●									
科目名	看護学概論				単位認定者	木下 美佐子		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	受講態度
							授業回数		15 回	
授業の概要	看護専門職の基盤となる知識の習得のために、看護に関する基本的概念、看護の主要な看護理論と歴史の変遷と関連、看護の対象である人間と生活・環境、看護活動の場や仕組み、看護に関連する法規などを学び、看護の本質・価値に基づき自ら看護の役割の遂行に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の定義や概念、看護に関連する法規について説明できる。</li> <li>2. 看護の対象である人間の成長発達、健康や生活・環境と看護の関連性について説明できる。</li> <li>3. 看護の歴史の変遷と看護実践における主要な理論について説明できる。</li> <li>4. 保健・医療・福祉における看護の特徴と役割について説明できる。</li> </ol>									
学修者への期待等	看護概論は看護学の導入として専門領域を学ぶ上での土台となる科目です。ポートフォリオを用いながら主体的学習態度を身につけ、看護の基盤となる思考が深まることを期待します。									
回	授業計画				準備学修					
1	授業ガイダンス：看護を学ぶことについて				ポートフォリオ作成に向けた説明をする。看護に対する今の考えをまとめ授業参加すること					
2	看護の誕生と発展				教科書①P43～P46, P48～P51で、復習し、ポートフォリオ作成。(概ね1時間)					
3	日本における看護の変遷				教科書①P46～P48, P51～P54で、復習しポートフォリオ作成。(概ね1時間)					
4	看護の対象理解				教科書①P70～P94で、復習しポートフォリオ作成。(概ね1時間)					
5	ライフサイクルと健康				教科書①P96～P124で、復習しポートフォリオ作成。(概ね1時間)					
6	看護理論の理解(1)：ナイチンゲール事例についてグループワーク、プレゼンテーション				看護実践事例から実践と理論の関係についてグループワークに参加できるように、教科書①、②の該当する理論家について予習しておくこと。授業での課題や学びを復習し、ポートフォリオを作成する。(概ね1時間)					
7	看護理論の理解(2)：ヘンダーソン事例についてグループワーク、プレゼンテーション									
8	看護理論の理解(3)：ペプロウ事例についてグループワーク、プレゼンテーション									
9	看護理論の理解(4)：オレム事例についてグループワーク、プレゼンテーション									
10	看護理論の理解(5)：トラベルビー事例についてグループワーク、プレゼンテーション									
11	看護ケアの基本的役割				教科書①P184～P204で、復習しポートフォリオ作成。(概ね1時間)					
12	看護に関連する法規				教科書①P206～P234で、復習しポートフォリオ作成。(概ね1時間)					
13	専門職としての看護と教育				教科書①P20～P43, P55～p65, P322～324で、復習しポートフォリオ作成。(概ね1時間)					
14	保健・医療・福祉のシステムと看護				教科書①P236～P274で、復習しポートフォリオ作成。(概ね1時間)					
15	さまざまな看護の場とこれからの看護				教科書①P276～P324で、復習しポートフォリオ作成。(概ね1時間)					
教科書	<ol style="list-style-type: none"> <li>①「ナーシンググラフィカ看護学概論」志自岐泰子他編集、メデイカ出版</li> <li>②「看護理論 看護理論21の理解と実践への応用」筒井真優美編集、南江堂</li> <li>③「看護に活かす基準・指針・ガイドライン集2022」公益社団法人日本看護協会編、日本看護協会出版会</li> </ol>									
参考文献	「看護覚え書-看護であること看護でないこと」F. ナイチンゲール著、児玉香津子他訳、日本看護協会出版会 「看護の基本となるもの」ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯慎ます他訳、日本看護協会出版会									
備考	科目ポートフォリオを作成し、筆記試験終了時に提出を求めます。 授業内課題については次回の講義でフィードバックします。 ※この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件として単位を修得していることが必須です。									

※以下は該当者のみ記載する。

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師、看護認定管理者としての経験を活かした講義をすることにより、学生が看護実践をイメージして「看護」に対する考察が深められるようにする。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-FNS-02				
	●									
科目名	看護倫理				単位認定者	木下 美佐子		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		16 時間	受講態度
							授業回数		8 回	
授業の概要	看護実践の場で必要となる倫理的判断ができる基盤となる倫理原則や看護倫理に関する重要な用語等を学び、医療現場で生ずる倫理的諸問題を解決に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	1. 倫理とは何か、価値とはなにか、道徳的感受性について説明できる。 2. 倫理原則の意義および問題点について説明できる。 3. 看護倫理に関係する用語について理解する。 4. 看護における倫理の重要性について説明できる。									
学修者への期待等	看護倫理は、看護師のアイデンティティを確認する拠り所となるものです。多様化する社会の中にある倫理的な問題に関心を向け、基礎的な知識が身につくための自発的な学修態度を期待します。									
回	授業計画				準備学修					
1	倫理の基礎：倫理とは、価値とは何か				教科書①P2～P33について復習すること。 (概ね1時間)					
2	倫理原則の意義と問題点とケアの倫理				教科書①P35～P48について復習すること。 (概ね1時間)					
3	看護倫理に関係する用語(1)：和、コンパッション、共感、倫理的感受性				教科書①P51～P83について復習すること。 (概ね1時間)					
4	看護倫理に関係する用語(2)：尊厳、アドボカシー、協力と協働、パターンリズム				教科書①P84～P103について復習すること。 (概ね1時間)					
5	看護倫理に関係する用語(3)：権利、インフォームド・コンセント、プライバシーと守秘義務				教科書①P104～P130について復習すること。 (概ね1時間)					
6	倫理的意思決定のステップと事例検討				教科書①P136～P143について復習すること。 (概ね1時間)					
7	さまざまな看護活動と倫理：人生の最後を生きる人々への看護と倫理				教科書①P146～P154について復習すること。 (概ね1時間)					
8	看護活動と倫理：看護師の倫理綱領、看護研究における倫理				授業では教科書②も使用します。教科書①P224～P249について復習すること。 (概ね1時間)					
教科書	①「看護倫理 よい看護よい看護師への道しるべ」小西恵美子編集、南江堂 ②「看護に活かす基準・指針・ガイドライン集2022」公益社団法人日本看護協会編、日本看護協会出版会									
参考文献	「ナーシンググラフィカ看護学概論」志自岐泰子、他編集、メディカ出版									
備考	授業内課題については次回の講義でフィードバックします。 ※この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件として単位を修得していることが必須です。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
看護師、看護認定管理者としての経験を活かした講義をすることにより、学生が看護実践をイメージして「看護倫理」に対する考察が深められるようにする。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-FNS-03			
	●	●	●	●					
科目名	基礎看護技術 I				単位 認定者	竹田 理恵 佐藤 清湖		試験(筆記) 60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等 40 %
					授業形態	演習	授業時間数		20 時間
				授業回数		10 回			
授業の概要	看護実践に必要な共通の看護技術を習得するために、コミュニケーション、感染防止、安全確保、学習支援、看護過程などを学び、科学的根拠に基づく看護の実践に必要な基礎的能力を身につける。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護技術に共通する考え方、看護過程の基本について説明できる。</li> <li>2. 看護における関係形成・対人技法の基本を理解して、良好なコミュニケーションができる。</li> <li>3. 感染予防のための基本について理解し、演習を通して正しい方法で実施できる。</li> <li>4. 医療における安全確保の技術を理解し、説明できる。</li> <li>5. 看護技術向上のために、演習には自己目標を立てて臨み、演習後は振り返りができる。自己のもつ課題、改善課題を説明できる。</li> </ol>								
学修者への期待等	教科書の該当箇所を必ず予習すること。また、「看護技術とは何か」「看護とは何か」「なぜそうするのか/なぜそうしてはいけないのか(根拠)」など常に考えながら、講義・演習に臨んで欲しい。								
回	授業計画				準備学修		担当		
1	【講義】看護技術とは(看護技術の構造、看護専門職者の看護技術)				【事前】教科書の第I章を読む(1時間)		木下 美佐子		
2	【講義】看護ケアのプロセスにかかわる看護技術(クリティカルシンキング、看護過程の基盤となる考え方)				【事前】教科書の第II章の1~3を読む(1時間)		木下 美佐子		
3	【講義】看護ケアのプロセスにかかわる看護技術(コミュニケーション)				【事前】教科書の第II章の4を読む(1時間)		竹田 理恵		
4	看護におけるコミュニケーションの実際 グループワーク				【事前】講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) 【事後】事後課題に取り組む提出する(1時間)		竹田 理恵 佐藤 清湖 佐々木 重徳 非常勤講師		
5	【講義】看護ケアのプロセスにかかわる看護技術(教育・相談)				【事前】教科書の第II章の5を読む(1時間)		佐藤 清湖		
6	【講義】看護実践に統合される基礎的看護技術(安全)				【事前】教科書の第III章の1を読む(1時間)		佐藤 清湖		
7	【講義】看護実践に統合される基礎的看護技術(感染予防の基礎知識、標準予防策)				【事前】教科書の第II章の2を読む(1時間)		竹田 理恵		
8	感染予防の技術の基礎(手指衛生、スタンダードプリコーションの実際) グループワーク				【事前】講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) 【事後】事後課題に取り組む提出する(1時間)		竹田 理恵 佐藤 清湖 佐々木 重徳 非常勤講師		
9	【講義】看護実践に統合される基礎的看護技術(無菌操作、隔離ケアおよびガウンテクニック)				【事前】教科書の第III章 2を読む(1時間)		佐藤 清湖		
10	感染予防の技術の実際(無菌操作、隔離ケアおよびガウンテクニックの実際) グループワーク				【事前】講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) 【事後】事後課題に取り組む提出する(1時間)		佐藤 清湖 竹田 理恵 佐々木 重徳 非常勤講師		
教科書	「看護学テキストNice 基礎看護技術」香春知永他著、南江堂								
参考文献	必要時授業内で提示する								
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>*非常勤講師：高栖希美子、四戸良子、菊池眞紀子</li> <li>*演習はA・Bの2クラス編成で行う</li> <li>*授業内課題はワークシート、レポート、確認テスト等で評価し、授業内で総括してフィードバックする</li> <li>*この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件として単位を修得していることが必須である</li> </ul>								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
看護師の資格を有する教員が、臨床経験を活かした講義・演習を行い、看護実践に必要な共通の看護技術の修得を目指す

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-FNS-04				
	●	●		●						
科目名	基礎看護技術Ⅱ				単位認定者	竹田 理恵		試験（筆記）	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	試験（実技）	20 %
							授業時間数		60 時間	授業内 課題等
				授業形態	演習	授業回数			30 回	
授業の概要	看護実践の基礎となる基本的な日常生活援助技術を修得するために、生活環境、食事と排泄、清潔、休息とバランスを整える技術や安全確保の技術などを学び、科学的根拠に基づく看護の実践能力を身につける。									
到達目標	1. 環境調整技術、食事の援助技術、排泄援助技術、清潔・衣生活援助技術、活動・休息援助技術を修得する上で必要な基礎知識を理解して、実施できる。 2. 看護技術向上のために、演習には自己目標を立てて臨み、演習後は振り返りができる。自己のもつ課題、改善課題を説明できる。									
学修者への期待等	身だしなみを整える、時間やルールを守る、事前・事後学修を主体的に行う、グループメンバーと協力するなど、授業をとらして看護学生として必要な態度を身につけることを期待しています。演習には指定のユニフォーム、シューズ、ナースウォッチ、クリップボード、メモ帳、ヘアゴム（必要時）等が必要です。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	【講義】環境・衛生：基礎知識				【事前】教科書の第Ⅳ章の1を読む（30分）			竹田 理恵		
2	【講義】環境・衛生：看護実践の展開（環境整備 ベッドメイキング）							竹田 理恵		
3	環境・衛生の援助の実際「ベッドメイキング① デモンストレーション・実習室ガイダンス」 グループワーク				【事前】ワークシート、予習動画視聴（30分） 【事後】ワークシート（30分）			竹田 理恵 佐藤 清湖 佐々木 重徳 非常勤講師		
4	環境・衛生の援助の実際「ベッドメイキング② ベッドメイキングの実施方法」 グループワーク									
5	環境・衛生の援助の実際「ベッドメイキング③ リネン類の交換、シーツ交換」 グループワーク									
6	環境・衛生の援助の実際「ベッド周囲の環境整備① デモンストレーション、基本的な方法」 グループワーク							竹田 理恵 佐藤 清湖 佐々木 重徳 非常勤講師		
7	環境・衛生の援助の実際「ベッド周囲の環境整備② 事例検討」 グループワーク									
8	【講義】活動・運動：基礎知識				【事前】教科書の第Ⅳ章の2を読む（30分）			佐藤 清湖		
9	【講義】活動・運動：看護実践の展開（関節可動域訓練、体位の保持と体位変換法、歩行の介助、移動法）							佐藤 清湖		
10	活動・運動の援助の実際「体位の保持と体位変換法、歩行の介助」 グループワーク				【事前】ワークシート、予習動画視聴（30分） 【事後】ワークシート（30分）			佐藤 清湖 竹田 理恵 佐々木 重徳 非常勤講師		
11	活動・運動の援助の実際「移動法（移乗と移送）」 グループワーク									
12	【講義】睡眠：基礎知識 看護実践の展開（睡眠を促進するための援助、リラクゼーション）				【事前】教科書の第Ⅳ章の6を読む（30分）			竹田 理恵		
13	【講義】清潔：基礎知識 看護実践の展開（手浴、足浴、陰部ケア）				【事前】教科書の第Ⅳ章の3を読む（30分）			竹田 理恵		
14	清潔の援助の実際「足浴① デモンストレーション・使用物品の使い方」 グループワーク				【事前】ワークシート、予習動画視聴（30分） 【事後】ワークシート（30分）			竹田 理恵 佐藤 清湖 佐々木 重徳 非常勤講師		
15	清潔の援助の実際「足浴② 足浴の実施方法」 グループワーク									

回	授業計画	準備学修	担当
16	【講義】衣生活：病床での衣生活の援助	【事前】教科書の第IV章の1を読む(30分)	佐藤 清湖
17	衣生活の援助の実際「病衣・寝衣の交換」 グループワーク	【事前】ワークシート、予習動画視聴(30分) 【事後】ワークシート(30分)	佐藤 清湖 竹田 理恵 佐々木 重徳 非常勤講師
18	【講義】清潔：看護実践の展開 (口腔ケア、目・耳・身だしなみの整容援助)	【事前】教科書の第IV章の3 P270～271、P282～286を読む(30分)	佐々木 重徳
19	【講義】清潔：看護実践の展開 (入浴 シャワー浴 清拭)	【事前】教科書の第IV章の3 P268～274を読む(30分)	佐々木 重徳
20	清潔の援助の実際「清拭① デモンストレーション・使用物品の使い方」 グループワーク	【事前】ワークシート、予習動画視聴(30分) 【事後】ワークシート(30分)	佐々木 重徳 竹田 理恵 佐藤 清湖 非常勤講師
21	清潔の援助の実際「清拭② 清拭の実施方法」 グループワーク		
22	【講義】清潔：看護実践の展開(洗髪)	【事前】教科書の第IV章の3 P270～271、P279～281を読む(30分)	佐藤 清湖
23	清潔の援助の実際「洗髪① デモンストレーション・使用物品の使い方」 グループワーク	【事前】ワークシート、予習動画視聴(30分) 【事後】ワークシート(30分)	佐藤 清湖 竹田 理恵 佐々木 重徳 非常勤講師
24	清潔の援助の実際「洗髪② 洗髪の実施方法」 グループワーク		
25	【講義】食事・栄養：基礎知識 看護実践の展開 (食事介助、経鼻経管栄養法)	【事前】教科書の第IV章の8を読む(30分)	佐々木 重徳
26	食事の援助の実際「食事介助、経鼻経管栄養法」 グループワーク	【事前】ワークシート、予習動画視聴(30分) 【事後】ワークシート(30分)	佐々木 重徳 竹田 理恵 佐藤 清湖 非常勤講師
27	【講義】排泄：排尿および排便の基礎知識	【事前】教科書の第3章を読む(30分)	竹田 理恵
28	【講義】排泄：排尿および排便の看護実践の展開 (ベッド上での排泄介助、オムツ交換)		竹田 理恵
29	排泄の援助の実際「ベッド上での排泄介助」 グループワーク	【事前】ワークシート、予習動画視聴(30分) 【事後】ワークシート(30分)	竹田 理恵 佐藤 清湖 佐々木 重徳 非常勤講師
30	排泄の援助の実際「オムツ交換」 グループワーク		
教科書	「看護学テキストNice 基礎看護技術」香春知永他著、南江堂		
参考文献	「看護がみえる vol.1 基礎看護技術」八塚慧子編、メディックメディア 「看護がみえる vol.2 臨床看護技術」佐藤桃子編、メディックメディア 「ナーシングスキル日本版」エルゼビアジャパン株式会社 「ナーシングチャンネル」株式会社東京サウンド・プロダクション		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>*非常勤講師:高栖希美子、四戸良子、菊池真紀子</li> <li>*演習はA・Bの2クラス編成で行います。</li> <li>*各技術項目の修得レベルは「卒業時の看護技術到達度」参照。</li> <li>*準備学修はワークシートを活用します。ワークシート内の事前・事後課題への取り組みと提出を求めます。</li> <li>*準備学修の予習動画視聴には、オリジナル動画、ナーシングチャンネル、教科書に掲載されている動画コンテンツ等を含みます。</li> <li>*オリジナル動画はLMSからアクセスすることができます。</li> <li>*授業内課題については授業内で総括しフィードバックします。</li> <li>*この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件として単位を修得していることが必須です。</li> </ul>		

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

看護師の臨床経験を活かし、学生が患者の安全・安楽を考慮した看護援助の方法を考えながら学べるように展開する。



学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-FNS-05				
	●	●		●						
科目名	基礎看護技術Ⅲ				単位認定者	佐々木 重徳		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	試験(実技)	20 %
							授業時間数		20 時間	授業内課題
				授業形態	演習	授業回数			10 回	
授業の概要	看護実践の基礎となるヘルスアセスメント技術の習得のために、バイタルサイン測定やフィジカルアセスメント等の技術を学び、その意義、症状・生体機能管理技術を学び、科学的根拠に基づく看護の実践能力を身につける。									
到達目標	1. バイタルサイン測定、フィジカルアセスメントの技術を修得する上で必要な基礎知識を理解して、実施できる。 2. 看護技術向上のために、演習には自己目標を立てて臨み、演習後は振り返りができる。自己のもつ課題、改善課題を説明できる。									
学修者への期待等	前期に履修している「人体構造と機能Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」について復習をしておくこと。 技術演習は予習をして臨み、グループメンバーと協力して学修すること。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	【講義】ヘルスアセスメントとは				【事前】教科書の「ヘルスアセスメント」を読む(1時間)			佐々木 重徳		
2	フィジカルアセスメントに必要な技術の実際(問診の技術、聴診器の使い方等)グループワーク				【事前】ワークシート、予習動画視聴(1時間) 【事後】ワークシート(1時間)			佐々木 重徳 木下 美佐子 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖 非常勤講師		
3	【講義】バイタルサインの観察とアセスメント				【事前】教科書の「バイタルサイン」を読む(1時間)			佐々木 重徳		
4	バイタルサイン測定の実際①体温・脈拍・呼吸グループワーク				【事前】ワークシート、予習動画視聴(1時間) 【事後】ワークシート(1時間)			佐々木 重徳 木下 美佐子 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖 非常勤講師		
5	バイタルサイン測定の実際②血圧測定-触診法グループワーク									
6	バイタルサイン測定の実際③血圧測定-聴診法グループワーク									
7	計測の実際グループワーク									
8	ヘルスアセスメント技術の実際①グループワーク				【事前】教科書・LMS・参考書等を復習し、レポート課題に取り組む(1時間)			佐々木 重徳 木下 美佐子 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖 非常勤講師		
9	ヘルスアセスメント技術の実際②プレゼンテーション				【事後】演習の学修内容について教科書等で復習、レポートに整理して提出する(1時間)					
10	ヘルスアセスメント技術の実際③シミュレーション									
教科書	「看護学テキストNice 基礎看護技術」香春知永他著、南江堂									
参考文献	「看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント」田中香純編、メディックメディア 「はじめてのフィジカルアセスメント」横山美樹著、メヂカルフレンド社 「ナーシング・スキル日本版」エルゼビア・ジャパン株式会社 「ナーシングチャンネル」株式会社京都科学									
備考	*非常勤講師：高栖希美子、四戸良子、菊池真紀子 *演習はA・Bの2クラス編成で行います。 *各技術項目の修得レベルは「卒業時の技術到達度」を参照。 *準備学修はワークシートを活用します。ワークシート内の事前・事後課題への取り組みと提出を求めます。 *準備学修の予習動画視聴には、オリジナル動画、ナーシングチャンネル、教科書に掲載されている動画コンテンツ等を含みます。 *オリジナル動画はLMSからアクセスすることができます。 *授業内課題については授業内で総括しフィードバックします。 *この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件として単位を修得していることが必須です。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
本科目は、看護師の資格を有する教員が、臨床経験を活かして、ヘルスアセスメントに必要な問診、バイタルサイン測定、計測の技術について教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-FNS-06				
	●	●		●						
科目名	基礎看護技術Ⅳ				単位認定者	佐藤 由記子 佐藤 清湖		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	試験(実技)	20 %
					授業形態	演習	授業時間数		60 時間	授業内課題等
				授業回数			30 回			
授業の概要	診療に伴う看護実践に必要な基礎的技術(創傷管理技術、呼吸・循環を整える技術、与薬の技術、症状・生体機能管理技術、排泄援助技術)を学び、科学的根拠に基づく看護の実践能力を身につける。									
到達目標	1. 診療の補助技術として呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、与薬の技術、症状・生体機能管理技術、排泄援助技術を理解し、実施できる。 2. 看護技術の向上に向けて、振り返りや自己のもつ課題、改善課題を説明できる能力を身につける。									
学修者への期待等	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲはもちろんのこと、人体構造と機能Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの知識を必要とする科目であり、講義・演習前後の学修が不可欠です。事前・事後課題に取り組むほかに、自己学修・自己練習を行い、知識・技術を身につけてください。安全で効果的な演習とするために、規律性・協調性などのチームワーク力を発揮して行動しましょう。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	【講義】与薬にかかわる技術 「基礎知識とアセスメント、経口的与薬、口腔内与薬」				【事前】教科書の第Ⅲ章「5. 与薬にかかわる技術」を読む(1時間)			佐藤 清湖		
2	【講義】与薬にかかわる技術 「点鼻・点耳・点眼・貼付・軟膏塗布・直腸内与薬」				【事前】教科書の第Ⅲ章「5. 与薬にかかわる技術」を読む(1時間)			佐藤 清湖		
3	経口与薬・点眼・経皮的与薬・直腸内与薬の実際 グループワーク				【事前】ワークシート、予習動画視聴(1時間) 【事後】ワークシート(1時間)			佐藤 清湖		
4	【講義】与薬にかかわる技術 「注射に関する基礎知識とアセスメント」				【事前】教科書の第Ⅲ章「5. 与薬にかかわる技術」を読む(1時間)			佐藤 由記子		
5	【講義】与薬にかかわる技術 「各注射法の実際(皮下注射・皮内注射・筋肉内注射)」				【事前】教科書の第Ⅲ章「5. 与薬にかかわる技術」を読む(1時間)			佐藤 由記子		
6	注射の準備の実際 グループワーク				【事前】ワークシート、予習動画視聴(1時間)			佐藤 由記子		
7	筋肉内注射の実際 グループワーク				【事後】ワークシート(1時間)					
8	【講義】与薬にかかわる技術 「静脈内注射、点滴静脈内注射」				【事前】教科書の第Ⅲ章「5. 与薬にかかわる技術」を読む(1時間)			佐藤 由記子		
9	点滴静脈内注射の実際 グループワーク				【事前】ワークシート、予習動画視聴(1時間)			佐藤 由記子 佐藤 清湖 竹田 理恵 佐々木 重徳 非常勤講師		
10	点滴静脈内注射の実際(患者の観察) グループワーク				【事後】ワークシート(1時間)					
11	【講義】体液バランス 「輸液管理・輸血管理」				【事前】教科書の第Ⅳ章「9. 体液バランス」を読む(1時間)			佐々木 重徳		
12	【講義】治療・検査にかかわる技術 「基礎知識とアセスメント、採血、簡易血糖測定」				【事前】教科書の第Ⅲ章「6. 治療・検査にかかわる技術」を読む(1時間)			竹田 理恵		
13	静脈血採血の実際 グループワーク				【事前】ワークシート、予習動画視聴(1時間)			竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖 佐々木 重徳 非常勤講師		
14	静脈血採血の実際(検体の取り扱い、患者の観察) グループワーク				【事後】ワークシート(1時間)					
15	【講義】排尿 「一時的導尿・持続的導尿・膀胱洗浄」				【事前】教科書の第Ⅳ章「10. 排尿」を読む(1時間)			佐藤 清湖		
16	【講義】排便 「グリセリン浣腸・摘便」				【事前】教科書の第Ⅳ章「11. 排便」を読む(1時間)			佐藤 清湖		

回	授業計画	準備学修	担当
17	排泄援助技術の実際 「持続的導尿（処置）」 グループワーク	【事前】ワークシート、予習動画視聴（1時間）	佐藤 清湖 佐藤 由記子 竹田 理恵
18	排泄援助技術の実際 「持続的導尿（患者の観察）」 グループワーク	【事後】ワークシート（1時間）	佐々木 重徳 非常勤講師
19	【講義】皮膚・粘膜の障害 「基礎知識、皮膚障害を予防する技術、創傷管理の技術」	【事前】教科書の第V章「1.皮膚・粘膜の障害」を読む（1時間）	佐藤 由記子
20	創傷管理技術の実際 「創傷の観察と創処置、褥瘡予防、包帯法」 グループワーク	【事前】ワークシート、予習動画視聴（1時間） 【事後】ワークシート（1時間）	佐藤 由記子 佐藤 清湖 竹田 理恵 佐々木 重徳 非常勤講師
21	【講義】体温調節 「基礎知識、温電法、冷電法」	【事前】教科書の第IV章「5.体温調節」を読む（1時間）	佐々木 重徳
22	【講義】呼吸 「基礎知識、酸素療法」	【事前】教科書の第IV章「4.呼吸」の該当箇所を読む（1時間）	佐藤 由記子
23	【講義】呼吸 「ネブライザーによる吸入、吸引」	【事前】教科書の第IV章「4.呼吸」の該当箇所を読む（1時間）	佐藤 由記子
24	呼吸を整える技術の実際 酸素療法 グループワーク	【事前】ワークシート、予習動画視聴（1時間）	佐藤 由記子 佐藤 清湖 竹田 理恵
25	呼吸を整える技術の実際 ネブライザーによる吸入、吸引 グループワーク	【事後】ワークシート（1時間）	佐々木 重徳 非常勤講師
26	【講義】治療・検査にかかわる技術 「検体検査（尿・便・喀痰検査、穿刺液検査）、生体検査（呼吸機能検査、心電図検査ほか）」	【事前】教科書の第III章「6.治療・検査にかかわる技術」の該当箇所を読む（1時間）	佐々木 重徳
27	検体検査（尿・便検査）・生体検査の実際（心電図検査、心電図モニター） グループワーク	【事前】ワークシート、予習動画視聴（1時間） 【事後】ワークシート（1時間）	佐藤 清湖
28	【講義】治療・検査にかかわる技術 「放射線検査、内視鏡検査ほか」	【事前】教科書の第III章「6.治療・検査にかかわる技術」を読む（1時間）	佐々木 重徳
29	状況設定場面に応じた診療援助技術（排泄、酸素療法、与薬、検査等）の実際1 グループワーク、ディスカッション	【事前】教科書・授業資料・LMS・参考書等を復習し、レポートを記載する。（1時間）	佐藤 清湖 佐藤 由記子 竹田 理恵
30	状況設定場面に応じた診療援助技術（排泄、酸素療法、与薬、検査等）の実際2 プレゼンテーション、ディスカッション	【事後】レポートを作成し提出する。（1時間）	佐々木 重徳 非常勤講師
教科書	「看護学テキストNiCE 基礎看護技術」香春知永他著、南江堂		
参考文献	「看護がみえるvol.1 基礎看護技術」八塚慧子編、メディック・メディア 「看護がみえるvol.2 臨床看護技術」佐藤桃子編、メディック・メディア 「ナースチャンネル」株式会社京都科学 「ナース・スキル日本版」エルゼビア・ジャパン株式会社 *その他の参考文献については、授業の中で必要時提示する		
備考	*非常勤講師：高栖希美子、四戸良子、菊池真紀子 *演習はA・Bの2クラス編成で行います。 *各技術項目の修得レベルは「卒業時の看護技術到達度」参照。 *準備学修はワークシートを活用します。ワークシート内の事前・事後課題への取り組みと提出を求めます。 *準備学修の予習動画視聴には、オリジナル動画、ナースチャンネル、教科書に掲載されている動画コンテンツ等を含みます。 *オリジナル動画はLMSからアクセスすることができます。 *授業内課題については授業内で総括しフィードバックします。		

※以下は該当者のみ記載する。

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

本科目は、看護師の資格を有する教員が、臨床経験を活かして、与薬にかかわる技術、治療・検査にかかわる技術、排泄援助技術、呼吸を整える技術、創傷管理技術、について教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CHN-01				
	●				●					
科目名	地域・在宅看護概論 I				単位認定者	小林 淳子		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	40 %
					授業形態	講義	授業時間数		16 時間	
							授業回数		8 回	
授業の概要	地域の人々の暮らしに影響を及ぼしている文化や地域の特性と健康の関連や、地域包括・在宅ケアシステムの基本と看護の役割について学び、看護が提供される多様な場（医療機関・在宅・保健機関・福祉施設・産業、職域、学校、研究機関など）の特性に応じた看護の実践に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域・在宅看護の成り立ちや社会背景が説明できる。</li> <li>2. 人々の暮らし・生活と健康との関連について説明できる。</li> <li>3. 地域包括ケアシステムの基本と看護の役割について説明できる。</li> <li>4. 多様な場の特性に応じた看護について説明できる。</li> </ol>									
学修者への期待等	事前にテキストを予習して臨み、授業終了後は復習して理解を深めてください。									
回	授業計画				準備学修					
1	地域・在宅看護論の成り立ちと社会背景				「地域・在宅看護の背景」教科書P21～を予習して臨み授業を復習して理解を深める（各30分間程度）					
2	暮らし・生活と健康				「地域と生活」教科書P16～を予習して臨み授業を復習して理解を深める（各30分間程度）					
3	個人・家族の健康支援				「在宅療養と家族の支援」教科書P56～を予習して臨み授業を復習して理解を深める（各30分間程度）					
4	環境・地域特性と健康				【事後】配布資料を見直して授業を復習し理解を深める（30分間程度）					
5	プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション				【事後】配布資料を見直して授業を復習し理解を深める（30分間程度）					
6	多様な場における看護活動①病院、在宅				「療養の場の移行に伴う看護」教科書P103～を予習して臨み授業を復習して理解を深める（各30分間程度）					
7	多様な場における看護活動②行政、学校、産業				配布資料を見直して授業を復習し理解を深める（30分間程度）					
8	地域ケアシステムと看護				「地域アセスメント」「地域包括ケアシステム」教科書P88～を予習して臨み授業を復習して理解を深める（各30分間程度）					
教科書	「ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア」臺有桂他編、MCメディカ出版									
参考文献	「国民衛生の動向 2022/2023」厚生労働統計協会 「看護師のための地域看護学」豊島康子編、ピラールプレス									
備考	・授業内課題は適宜フィードバックします。 ・2年次開講の「地域・在宅看護援助論Ⅰ」「地域・在宅看護論実習Ⅰ」の基礎となる科目です。また「地域・在宅看護概論Ⅱ」「地域・在宅看護援助論Ⅱ」「地域・在宅看護論実習Ⅱ」と関連する科目です。									

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

地域看護活動の実務経験を活かした授業を展開し、地域療養を支える看護について理解を深める。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

<b>科目ナンバリング</b>
NS-2-ANS-01

科目名	成人看護学概論				単 位 認 定 者	阿部 春美		評 価 の 方 法	試験(筆記)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	40 %
						授業時間数	16 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	成人期の発達段階の特徴、成人の生活、成人をとりまく環境、成人における健康の保持増進や疾病の予防、生活習慣・職業・ストレスに関連する健康課題を学ぶ。併せて、成人看護に関する関係法規などを学び、看護実践に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	1. 成人期の発達段階の特徴、成人の生活、成人をとりまく環境について説明できる。 2. 成人期における健康の保持増進や疾病の予防、生活習慣・職業・ストレスに関連する健康課題について説明できる。 3. 成人看護に関する関係法規について説明できる。									
学修者への期待等	1. 成人看護学概論は成人看護学の基盤であるので、成人期の特徴や生活、健康課題を意識して予習してくる。 2. 積極的な学修態度を期待する。									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス 成人期の特徴と発達課題					【事後】授業後学び(概ね30分)				
2	成人をとりまく状況、成人期にある人の健康と生活 討議・発表					【事前】事前学習事例を学修して臨む(概ね30分) 【事後】小テスト・授業後学び(概ね40分)				
3	成人保健と今日の健康動向、保健・医療・福祉政策					【事後】小テスト・厚生労働省「過労死等防止対策」の学びをレポートにまとめる(概ね1時間)				
4	成人の健康行動を育む援助 医療における人間関係、適応を促す援助					【事後】小テスト(概ね30分)				
5	ヘルスプロモーションと看護					【事後】小テスト(概ね30分)				
6	急激な健康破綻をきたした人への看護 討議・発表					【事前】事前学習事例を学修して臨む(概ね30分) 【事後】小テスト・授業後学び(概ね40分)				
7	リハビリテーション看護 慢性的な経過をたどる人への看護 討議・発表					【事前】事前学習事例を学修して臨む(概ね30分) 【事後】小テスト・授業後学び(概ね40分)				
8	人生の最期を迎える人への看護 討議・発表					【事前】事前学習事例を学修して臨む(概ね30分) 【事後】小テスト・授業後学び(概ね40分)				
教科書	「看護学テキストNiCE 成人看護学 成人看護学概論」林直子他編、南江堂									
参考文献	「国民衛生の動向 2022/2023」厚生労働統計協会									
備考	・各单元の中で関係する法規の内容を含む。 ・小テストは、次回授業時模範解答や根拠についてフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

看護師として成人期の臨床経験を踏まえ、学生の興味関心が高まるよう看護実践事例を取り入れ講義を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-GNS-01				
	●									
科目名	老年看護学概論				単位 認定者	桑田 恵美子		試験（筆記）	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価 の方法	授業内課題	40 %
				授業形態	講義	授業時間数	16 時間			
						授業回数	8 回			
授業の概要	高齢者の生活と加齢に伴う身体的、精神的、社会的変化や保健・医療・福祉制度、老年看護の変遷、老年看護の特徴と倫理、関係法規などを学び、老年看護の実践に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達段階に特徴づけられる老年期について説明できる。</li> <li>2. 加齢に伴う高齢者の身体的、精神的、社会的変化の特徴を説明できる。</li> <li>3. 高齢者の生活と健康状態の変化を説明できる。</li> <li>4. 高齢者の生活を支える保健・医療・福祉制度や施策について説明できる。</li> <li>5. 老年看護の変遷、倫理及び看護の特徴について説明できる。</li> </ol>									
学修者への 期待等	人生100年時代を迎える日本において、私たちが体験していない年齢の高齢者を理解するため、高齢者自身からの学びを大切にすることが重要です。身近な高齢者との関わりからの学びを大切にほしい。また、現代の高齢者の特徴、高齢者の健康やQOL、倫理について学び、老年看護の役割について理解を深めてほしい。									
回	授業計画				準備学修					
1	高齢者の理解 老年期の発達・変化、高齢者人口の推移、 加齢への適応、健康の指標、家族				【事後】小テスト・授業後学び（概ね30分）					
2	高齢者の生活 生活の視点、エンド・オブ・ライフの視点、 その人らしい生活の継続				【事後】小テスト・授業後学び（概ね30分）					
3	加齢に伴う高齢者の身体機能の変化				【事後】小テスト・授業後学び（概ね30分） 【事後課題】日常生活における高齢者のヘルスア セスメント educational-video-onlineを視聴（概 ね60分）					
4	加齢に伴う高齢者の認知機能、精神的・社会的機能 の変化				【事後】小テスト・授業後学び（概ね30分）					
5	高齢者の健康と生活				【事後】小テスト・授業後学び（概ね30分）					
6	高齢者を支える保健・医療・福祉制度と施策				【事後】小テスト・授業後学び（概ね30分）					
7	老年看護の倫理				【事後】小テスト・授業後学び（概ね30分）					
8	老年看護に用いられる理論と老年看護の特徴				【事後】事後課題レポート：身近な高齢者から話を 聴くことで、高齢者理解を深める（概ね4時間）					
教科書	「ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害」堀井ふき他編集、MCメディカ出版 「ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践」堀井ふき他編集、MCメディカ出版 「国民衛生の動向 2022/2023」厚生労働統計協会 日常生活における高齢者のヘルスアセスメント educational-video-online 丸善出版株式会社									
参考文献	「看護学テキストNiCE 老年看護学概論 改訂第3版」正木治恵他編、南江堂 「看護学テキストNiCE 老年看護学技術 改訂第3版」正木治恵他編、南江堂 令和4年度高齢社会白書：（内閣府 <a href="https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2022/zenbun/04pdf_index.html">https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2022/zenbun/04pdf_index.html</a> ） 公益財団法人 長寿科学振興財団： <a href="https://www.tyojyu.or.jp/index.html">https://www.tyojyu.or.jp/index.html</a>									
備考	授業内課題は小テスト（10%）、授業後の学び（10%）、事後課題レポート（20%）で評価する。 LMS「小テスト」・「授業後学び」については、次回講義時にフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）**

看護師としての実務経験を活用し、高齢者とその家族、老年看護の役割について理解が深められるよう展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CHN-01				
	●									
科目名	小児看護学概論				単位認定者	佐藤 幸子		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		16 時間	受講態度
						授業回数	8 回			
授業の概要	小児看護の特徴と課題、発達段階（乳児・幼児・学童・思春期）の特徴、小児やその家族の人権擁護者としての倫理的判断・行動の根拠（子どもの権利条約・小児看護領域で特に留意すべき子どもの権利と必要な看護行為等）を学び、小児看護の実践に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>小児看護の特徴・課題が説明できる。</li> <li>小児の発達段階の特徴と取巻く環境からの影響を説明できる。</li> <li>子どもの人権を守るための倫理的判断・行動の根拠を説明できる。</li> </ol>									
学修者への期待等	身近な日常の中で、子どもへの関心を高めて欲しい。マスメディア・書籍等から情報を得て自分なりの子ども像をイメージして臨んで下さい。									
回	授業計画				準備学修					
1	小児看護学の理念と目標 (子どもや家族の特徴)				【事前】子どもに関する書籍・雑誌・記事・動画等を参考にして、子どものイメージをもって臨むこと（30分程度）					
2	小児看護の特徴と課題				【事前】教科書第1章AおよびEを読んで臨むこと（1時間程度）					
3	子どもの権利擁護				【事前】教科書第1章Dを読んで臨むこと（30分程度）					
4	子どもの成長発達の原則 乳児期にある子どもの成長発達の理解				【事前】教科書第2章A～C、第3章Bを読んで臨むこと（1時間程度）					
5	幼児期にある子どもの成長発達の特徴				【事前】教科書第4章Aを読んで臨むこと（1時間程度）					
6	学童期にある子どもの成長発達の理解				【事前】教科書第5章を読んで臨むこと（1時間程度）					
7	思春・青年期にある子どもの成長発達の理解				【事前】教科書第4章Bを読んで臨むこと（1時間程度）					
8	子どもを取り巻く社会と制度				【事前】教科書第7章Bを読んで臨むこと（1時間程度）					
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論/小児臨床看護総論」 奈良間美保他著、医学書院									
参考文献	「ナーシング・グラフィカ 小児看護学①：小児の発達と看護」中野綾美編、MCメディカ出版									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

この授業は健康な子どもを理解することが主眼である。そこで教員は小児看護実務経験者としての経験を活かし、発達段階の特徴・看護との関連性を明確に教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-WHN-01			
	●								
科目名	母性看護学概論				単位認定者	佐藤 理恵		試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	授業内課題等	40 %
					授業形態	講義	授業時間数	16 時間	受講態度
							授業回数	8 回	
授業の概要	母性看護の基盤であるリプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念、母性看護の意義・特性、母性看護の現状と動向、女性のライフステージ（思春期・成熟期・更年期・老年期）における性と生殖に関する健康の在り方や、母性看護の倫理的課題への取り組み方を学び、母性看護の実践に必要な基礎的知識を身につける。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>母性看護の基盤となるリプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念と母性看護の意義・特性を説明できる。</li> <li>母性看護のおかれている現状と動向を知り、女性のライフステージにおける母性看護のあり方について考えを深める。</li> <li>性と生殖に関する健康を考え、母性看護の倫理的課題への取り組み方を説明できる。</li> </ol>								
学修者への期待等	母性看護の対象を取り巻く社会情勢に興味を持ち、自己の考えを深めて欲しい。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	授業ガイダンス 母性看護の基盤となる概念 母性とは				【事前】LMS上にて事前課題を確認し記載しておく(概ね30分)			佐藤 理恵	
2	母性看護の基盤となる概念 リプロダクティブヘルス				【事前】教科書第1章を予習して授業に臨む(概ね1時間)			佐藤 理恵	
3	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 母子保健に関する法律と制度・母子保健統計				【事前】教科書第2章を予習して授業に臨む(概ね1時間) 【事後】授業内課題のレポートを作成し提出する(概ね1時間)			佐藤 理恵	
4	母性看護の対象理解 母性の発達・成熟・継承				【事前】教科書第3章を予習して授業に臨む(概ね1時間)			佐藤 理恵	
5	女性のライフステージ各期における看護 思春期				【事前】教科書第5章(P.195-216)を予習して授業に臨む(概ね1時間)			佐藤 理恵	
6	女性のライフステージ各期における看護 成熟期・更年期・老年期				【事前】教科書第5章(P.216-250)を予習して授業に臨む(概ね1時間)			佐藤 理恵	
7	地域における母性看護の実際 開業助産師の活動報告				【事後】地域における母性看護の実際についての学びをレポートにまとめる(概ね1時間)			武者 文子 佐藤 理恵	
8	リプロダクティブヘルス/ライツに関する倫理と倫理的課題の実際				【事後】授業内課題のレポートを作成し提出する(概ね1時間)			佐藤 理恵	
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔1〕母性看護学概論」森恵美他著、医学書院								
参考文献	「国民衛生の動向2022/2023」厚生労働統計協会								
備考	課題の提出方法やフィードバック方法については、該当授業で説明をする。								

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

CLoCMiP®レベルⅢ認定アドバンス助産師資格を生かし、臨床・地域における母性看護学の対象(個人・集団)の特性と支援について教授する。



学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-PMN-01				
	●		●							
科目名	精神看護学概論				単位認定者	阿部 幹佳		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		16 時間	受講態度
							授業回数		8 回	
授業の概要	心のケアが必要な人々の看護実践と看護者自身のメンタルヘルスについて洞察でき、倫理的判断と行動をとれるようにするために、メンタルヘルスの基本概念、精神保健医療福祉の変遷と看護、精神の健康とマネジメントなどについて学び、精神看護の実践に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メンタルヘルスの基本概念について説明できる。</li> <li>2. 精神保健医療福祉の変遷と看護について説明できる。</li> <li>3. 保健医療福祉に従事する者の精神の健康とリエゾン精神看護、精神の健康とマネジメントについて説明できる。</li> <li>4. 精神疾患・精神障害を持つ人の事例から対人援助における人間関係を理解するための倫理観を育むことができる。</li> </ol>									
学修者への期待等	精神看護学概論ではメンタルヘルス全般に関わることを学修します。私たちを取り巻く現代社会の現象に関心を持ち、自分自身のこころと向き合えるように準備をしてください。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	こころの健康と精神障害のとらえ方				【事前】教科書第1章を読み、自分自身のメンタルヘルスについて考えてみる(概ね1時間)			阿部 幹佳		
2	こころの働きとストレス				【事前】教科書第2章と6章を読み、授業に臨むこと(概ね1時間)			阿部 幹佳		
3	ライフサイクルとメンタルヘルス1～母子関係の発展から人格形成への影響～				【事前】教科書3章、4章を読み、授業に臨むこと(概ね1時間)			阿部 幹佳		
4	現代社会におけるこころの問題 自殺・児童虐待等				【事後】教科書第5章を読み、各自メンタルヘルスに関連した情報を収集してレポートにまとめ提出する(概ね3時間)			阿部 幹佳		
5	精神医療の歴史				【事前】教科書第10章を読み、授業に臨むこと(概ね1時間)			阿部 幹佳		
6	精神保健福祉をめぐる法律－倫理と権利擁護				【事前】教科書第9章と第11章を読み、授業に臨むこと(概ね1時間)			阿部 幹佳		
7	ストレスマネジメントと精神科における看護師の役割				【事前】教科書第12章P190～204を読み、授業に臨むこと(概ね1時間)			阿部 幹佳		
8	地域で生活する精神障害を持つ人の理解				【事後】当事者の体験を聞き、学んだことや感想をレポートにまとめ提出する(概ね1時間)			黒沢 かをる 阿部 幹佳		
教科書	「ナーシング・グラフィカ 精神看護学①：情緒発達と精神看護の基本」出口禎子他編、メディカ出版									
参考文献	「精神科仕事術 この科で働くことを決めた人が、やったほうが良いこと、やらないほうが良いこと」山下孝之、医学書院									
備考	授業内課題は適宜フィードバックします。									

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

看護師としての資格、経験より、精神看護の実際を具体的にわかりやすく授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CNP-01			
		●	●	●					
科目名	基礎看護学実習 I				単位認定者	木下 美佐子		実習目標到達度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	
					授業形態	実習	授業時間数		40 時間
				授業回数		集中			
授業の概要	看護の対象としての人間と看護の場を理解するために、実際の病院や地域での活動を見学し、看護の役割や機能、健康者や障害を持つ人を身体的・心理的・社会的・文化的側面からの理解に必要な基礎的能力を身につける。								
学修者への期待等	臨地での見学や体験を通して、看護の対象を理解し、看護の魅力や難しさ等を発見して、自身が看護を学ぶ動機を明確にできることを期待する。								
授業計画									
<p>I. 実習期間：令和5年7月10日（月）～7月14日（金）</p> <p>II. 実習施設：東北医科薬科大学病院、仙台市立病院、仙台西多賀病院、JR仙台病院、イムス明理会仙台総合病院、JCHO仙台病院、老人福祉センター（台原・高砂・大野田・郡山・泉中央）</p> <p>III. 実習目的</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>健康生活を支えている地域での活動の場や医療施設における看護活動を見学して、施設の環境を知り、対象者（利用者・患者）を理解する。</li> <li>医療施設での患者と看護師の関わりを見学し、看護の役割や機能について考える。</li> <li>基本的な実習態度を身につける。</li> </ol> <p>IV. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>健康生活を支える活動の場（施設・病院）の環境を知ることができる。</li> <li>利用者や患者の思い等に関心を向け対象理解をすると共に、人間関係構築の重要性がわかる。</li> <li>看護活動の見学を通して、看護がどのように実践されているのかわかる。</li> <li>看護学生として責任ある態度で行動し、自己の課題がわかる。</li> </ol> <p>V. 実習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学内実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーションで実習の全体を把握し、事前学修を十分行い実習に臨む。</li> </ol> </li> <li>病院実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>患者1名を受持ち、患者の療養生活の見学やコミュニケーションを通して学ぶ。</li> <li>看護師の行う援助を見学し、看護の役割や機能について学ぶ。</li> <li>毎日のカンファレンスを通して、学修内容の共有と整理・理解を深める。</li> </ol> </li> <li>施設実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>利用者とのコミュニケーションを通して健康を支える活動について理解を深める。</li> </ol> </li> <li>実習のまとめ <ol style="list-style-type: none"> <li>実習で学んだことをまとめ、振り返りを通して看護の対象、役割や機能について理解を深める。</li> </ol> </li> </ol>									
教科書	特に指定しない								
参考文献	オリエンテーションおよび実習中に適宜提示する								
備考	<p>詳細は後日配付する実習要項参照</p> <p>担当者：専任教員 木下美佐子、竹田理恵、佐藤清湖、佐々木重徳、小林淳子、阿部幹佳、岡崎優子、菅原尚美、真溪淳子、伊藤茉莉子、東海林美幸、二口尚美</p> <p>非常勤講師 松田郷子、中野千加子、菊池真紀子、加藤真理子、江口美知子</p> <p>*この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件として単位を修得していることが必須である</p>								

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

看護師の実務経験がある教員が担当し、健康を支える看護の役割について学修できるように指導する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CNP-02			
		●	●	●					
科目名	基礎看護学実習Ⅱ				単位認定者	木下 美佐子		実習目標到達度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	
					授業形態	実習	授業時間数		40 時間
				授業回数		集中			
授業の概要	看護の対象者のニーズをとらえ適切な看護を実践できる基礎的な知識・技術を学び、状態に応じた看護の実践に必要な基礎的能力を身につける。								
学修者への期待等	学内で学んだ看護学概論、看護倫理、基礎看護技術Ⅰ～Ⅳ、および基礎看護学実習Ⅰでの学びを振り返り、積極的な姿勢で実習に臨むことを期待する。								
授業計画									
<p>I. 実習期間：令和6年2月5日（月）～2月9日（金）</p> <p>II. 実習施設：東北医科薬科大学病院、仙台市立病院、仙台赤十字病院、宮城県立がんセンター、JR仙台病院、イムス明理会仙台総合病院、JCHO仙台病院</p> <p>III. 実習目的</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受持ち患者の日常生活に関する問題をクリティカルな思考で考えることができる。</li> <li>2. 受持ち患者の個別性を踏まえ、基本的な日常生活の看護援助ができる。</li> <li>3. 看護職を目指す学生として、基本的な実習態度を身につける。</li> </ol> <p>IV. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受持ち患者の療養環境について、生活者の視点から理解できる。</li> <li>2. 受持ち患者の日常生活に関する情報を収集し、問題について考えることができる。</li> <li>3. 受持ち患者と良い人間関係を築き、個別性を踏まえた看護援助の目的・必要性が理解できる。</li> <li>4. 受持ち患者に対して、安全・安楽を考慮した基本的な日常生活の看護援助ができる。</li> <li>5. 看護学生として継続的な学修の必要性を理解し、責任ある態度で行動できる。</li> </ol> <p>V. 実習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学内実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) オリエンテーションで実習の全体を把握し、事前学修を十分行い実習に臨む。</li> </ol> </li> <li>2. 病院実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者1名を受持ち、日常生活の問題を論理的に考える。</li> <li>2) 受持ち患者に対する適切な援助方法を学ぶ。</li> <li>3) 毎日のカンファレンスを通して、学修内容の共有と整理・理解を深める。</li> </ol> </li> <li>3. 実習のまとめ <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習で学んだことをまとめ、振り返りを通して「看護」について自分の考えを深める。</li> </ol> </li> </ol>									
教科書	特に指定しない								
参考文献	オリエンテーションおよび実習中に適宜提示する								
備考	<p>詳細は後日配付する実習要項参照</p> <p>担当者：専任教員 木下美佐子、竹田理恵、佐藤由記子、佐藤清湖、佐々木重徳、阿部幹佳、二口尚美、岡崎草代夏、岡崎優子、佐藤理恵、坂村佐知、高橋由美、真溪淳子</p> <p>非常勤講師 松田郷子、大石慶子、中野千加子、菊池真紀子、加藤真理子、江口美知子</p>								

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

看護師として臨床経験がある教員が担当し、患者の日常生活に関する問題を論理的に考えることを指導する。



# 看護学科

## 2年生

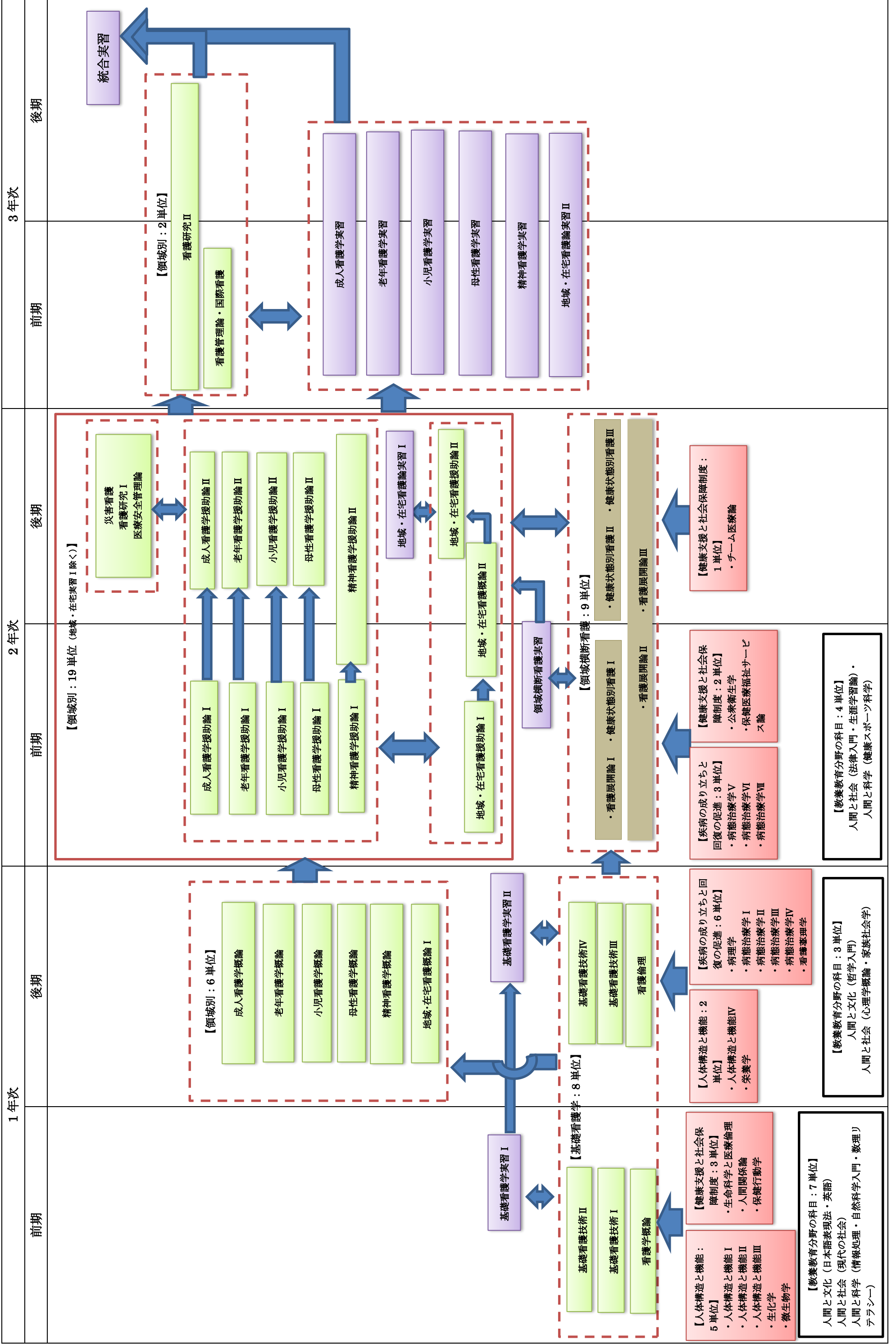
- 学修成果（到達目標）
- カリキュラムマップ
- カリキュラムツリー
- 年間予定表
- シラバス

## 学修成果（到達目標）

【2022 年度入学】

- 1 **【基礎力】** 一般教養並びに各専門分野の基礎的能力
  - ①専門教育の導入・基礎として確かな基礎学力を育て、統合できる能力を身につける。
  - ②教養の涵養によって、異なる文化や社会を尊重していく態度を身につける。
  - ③人体の構造と機能及び疾病の成り立ちと回復の促進について理解し、看護実践の基盤となる能力を身につける。
  - ④科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断や倫理的判断・行動に必要な基礎的能力を身につける。
  - ⑤看護を取り巻く社会の動向や特性を知り、看護職の役割と責任について理解する能力を身につける。
  
- 2 **【実践力】** 各分野の実際の場面に対応できる力
  - ①科学的根拠に基づいた臨床判断能力を身につける。
  - ②多様な場、健康段階、発達段階及び倫理を踏まえて対象のニーズをとらえ、看護を実践する能力を身につける。
  - ③安全なケア環境を提供する能力を身につける。
  - ④人々の尊厳と権利を擁護し意思決定を支援する能力を身につける。
  
- 3 **【人間関係力】** 専門職・社会人として必要なコミュニケーション能力
  - ①援助関係を形成する能力（個人・家族・集団・地域との援助関係・信頼関係、協働関係）を身につける。
  - ②保健・医療・福祉チームにおいて多職種との連携・協働する能力を身につける。
  - ③ケアへ参画する能力を身につける。
  
- 4 **【生涯学習力】** 生涯にわたって学び、成長できる力
  - ①看護の専門職として価値と専門性を発展させる能力を養う。
  - ②生涯にわたり研鑽し続ける能力を養う。
  
- 5 **【地域理解力】** 地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力
  - ①人々の暮らしに影響する地域の特性に関連する文化や社会的背景を理解する能力を養う。
  - ②人々の暮らしを取り巻く環境と健康の関連について、現状と課題を理解する能力を養う。
  - ③災害看護を理解する能力を養う。
  - ④地域包括ケアシステムにおける看護活動の在り方について理解する能力を養う。









## 2023年度 看護学科2年生 年間予定表

### 前期

		日	月	火	水	木	金	土				
4月								1				
	2	3	オリエンテーション	4	1	5	1	6 (入学式)	7	1	8	
	9	10	1	11	2	12	2	13	14	2 健康診断	15	
	16	17	2	18	3	19	3	20	21	3	22	
	23	24	3	25	4	26	4	27	28	4	29	
	30	1	4	2	5	3		4		5	6	
5月	7	8	5	9	6	10	5	11	4	12	5	13
	14	15	6	16	7	17	6	18	5	19	6	20
	21	22	7	23	8	24	7	25	6	26	7	27
	28	29	8	30	9	31	8	1	7	2	8	3
6月	4	5	9	6	10	7	9	8	8	9	9	10
	11	12	10	13	11	14	10	15	9	16	10	17
	18	19	11	20	12	21	11	22	10	23	11	24
	25	26	12	27	13	28	12	29	11	30	12	1
7月	2	3	13	4	14	5	13	6	12	7	13	8
	9	10	14	11	15	12	14	13	13	14	14	15
	16	17		18	月15	19	15	20	14	21	15	22
	23	24	定期試験	25	定期試験	26	定期試験	27	定期試験	28	定期試験	29
	30	31		1		2		3		4		5
8月	6	7	不合格者発表	8		9		10		11		12
	13	14		15		16		17	再試験	18	再試験	19
	20	21	領域横断看護実習	22	領域横断看護実習	23	領域横断看護実習	24	領域横断看護実習	25	領域横断看護実習	26
	27	28	領域横断看護実習	29	領域横断看護実習	30	領域横断看護実習	31	領域横断看護実習	1	領域横断看護実習	2
9月	3	4	領域横断看護実習	5	領域横断看護実習	6	領域横断看護実習	7	領域横断看護実習	8	領域横断看護実習	9
	10	11	領域横断看護実習	12	領域横断看護実習	13	領域横断看護実習	14	領域横断看護実習	15	領域横断看護実習	16
	17	18		19	領域横断看護実習	20	領域横断看護実習	21	領域横断看護実習	22	領域横断看護実習	23
	24	25		26		27	オリエンテーション	28	1	29	1	30

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。  
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。  
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

## 2023年度 看護学科2年生 年間予定表

後期

		日	月	火	水	木	金	土
10月	1		2	地域・在宅看護論実習Ⅰ	3	地域・在宅看護論実習Ⅰ	4	地域・在宅看護論実習Ⅰ
	8		9		10	1	11	1
	15		16	1	17	2	18	2
	22		23	2	24	3	25	3
	29		30	3	31	4	1	4
11月	5		6	4	7	5	8	5
	12		13	5	14	6	15	6
	19		20	6	21	7	22	7
	26		27	7	28	8	29	8
12月	3		4	8	5	9	6	9
	10		11	9	12	10	13	10
	17		18	10	19	11	20	11
	24		25	11	26	12	27	12
	31		1		2	3	4	12
1月	7		8		9	13	10	12
	14		15	12	16	14	17	13
	21		22	13	23	15	24	14
	28		29	14	30	月15	31	15
2月	4		5	定期試験	6	定期試験	7	定期試験
	11		12		13		14	
	18		19		20		21	
	25		26	再試験	27	再試験	28	
3月	3		4		5		6	
	10		11		12		13	
	17		18		19	(卒業式)	20	
	24		25		26		27	
	31							

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。  
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。  
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。



学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HS0-04					
	●										
科目名	法律入門				単位 認定者	鈴木 翔太		授業内課題	80	%	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の 方法	受講態度	20	%
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間		
							授業回数		15 回		
授業の概要	社会生活をしていく上で必要な基本的な法律について学修する。特に日常の社会生活・大学生活に関係の深い様々な問題を取り上げて、問題点、解決方法、回避方法など、具体的な事例を通じて理解し身につけていく。										
到達目標	社会問題を考える際の土台となる法律の基本的な用語や概念を理解し、説明できる。身近な法律問題の学習を通じて、自ら問題を解決するための思考方法を養う。										
学修者への 期待等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き慣れない用語や概念が多いと思いますので、復習を中心に取り組んで下さい。</li> <li>・法律用語と日常用語の違い、授業内で扱った事例や問題は、重点的に復習すること。その際、結論だけでなく理由も説明できるようにしておくこと。</li> </ul>										
回	授業計画				準備学修						
1	法律の種類と法律を学ぶ意味										
2	憲法、民法、商法のそれぞれ特徴と違い				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）						
3	憲法（1）基本的人権 —平等権、精神的自由等—				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）						
4	憲法（2）基本的人権 —経済的自由、その他の人権—				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）						
5	憲法（3）人権総括、統治機構				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）						
6	民法（1）総則				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）						
7	民法（2）物権				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）						
8	民法（3）債権（契約等）				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）						
9	民法（4）債権（不法行為）				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）						
10	民法（5）親族・相続				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）						
11	消費者法				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）						
12	交通法				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）						
13	ネットに関する法的課題（1）SNSの法的課題				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）						
14	ネットに関する法的課題（2）コンテンツ・ネット取引等の法的課題				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）						
15	まとめ（小テスト）				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）						
教科書	特に指定しない。必要に応じてレジュメや資料を配付する。										
参考文献	授業内で適宜紹介する。										
備考	授業内容は、進度に応じて変更する場合がある。小テストについては、前回までの講義の内容から出題し、講義内で模範解答を配布した上で解説を行う。										

※以下は該当者のみ記載する。

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

公認会計士として、法定監査（金融商品取引法、会社法等）、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務に従事。様々なビジネス現場での経験から、具体的な事例を紹介して、分かりやすく解説する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-0-HSO-01				
				●						
科目名	生涯学習論				単位認定者	石井山 竜平		試験(レポート)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		16 時間	受講態度
							授業回数		8 回	
授業の概要	生涯にわたり学び続けることの大切さや必要性を理解するために、生涯学習の変遷や成人教育学の概念、自己教育力の向上のための理論などを学び、地域社会への貢献に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	成人教育とそれを支える公的条件をめぐる基本理念と、それをめぐる今日的課題についての理解を深める。									
学修者への期待等	この講義では、今日、地域で展開されているさまざまな学習・運動の諸相を手がかりに、私たちが生きている現代社会の課題をとらえ直していく。社会問題全般に対する関心を持って、臨んでいただきたい。									
回	授業計画				準備学修					
1	成熟社会における生活課題と、その解決を目指す学習実践の実際①高齢者の学びに着目して				授業の展開に応じて、授業中に指示する(30分～1時間程度)					
2	成熟社会における生活課題と、その解決を目指す学習実践の実際②子育て世代の学びに着目して									
3	社会教育・生涯学習を支える理念と法制、国際的動向①社会教育法を中心に									
4	社会教育・生涯学習を支える理念と法制、国際的動向②ユネスコの議論をもとに									
5	社会教育・生涯学習の制度と地方分権改革									
6	社会教育・生涯学習の提供主体の多元化									
7	変革の時代をきりひらく学びと自治の創造									
8	東日本大震災と社会教育									
教科書	基本、こちらで用意した資料を基に展開する。									
参考文献	「転換期の地方自治と社会教育」辻浩・細山俊男・石井山竜平編、自治体研究社									
備考	授業内で2～3回程度、小レポートを行う予定。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-0-HSC-03				
	●									
科目名	健康スポーツ科学				単位認定者	安達 博子		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
					授業形態	演習	授業時間数		16 時間	受講態度
							授業回数		8 回	
授業の概要	健康は生活の質向上に不可欠な要素であり健康な生活を送るために必要な「運動」を実践することの重要性などを学び、スポーツを通して健康の意義や健康づくりを理解するために必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	①身体の状態によって「健康」のとらえ方が変わることを理解し、生涯にわたって「健康」な生活を送るために必要な知識を身につけ実践する。 ②運動の大切さを理解し、運動不足が将来の自分へどのような影響を及ぼすかを考える。 ③運動やスポーツを行う楽しさを知り、人と接すること、協力し合うこと、コミュニケーションの取り方などを身につける。									
学修者への期待等	①目的意識を持ち、積極的な姿勢で授業に臨む。 ②仲間と協力する気持ちを常に持ち、それを実践する。 ③自分自身と仲間の「安全」を常に考える。									
回	授業計画							準備学修		
1	<b>【講義】</b> ①授業ガイダンス（運動とスポーツの違い・授業の進め方・心構え・準備物について・健康状態の確認） ②生活習慣と健康（食事・肥満と痩せ・運動・喫煙・飲酒・性に関する問題）							教室	☆配布されたプリントは事前に読んで授業に臨むこと。	
2	<b>【講義】</b> ①運動の効果と運動不足の影響 ②高齢者の運動不足の影響 ③体力とは								☆ラジオ体操・ストレッチング・簡単な筋トレは、毎授業時に行う。	
3	①ラジオ体操（正しい体操を覚えよう）・ストレッチング・補強体操・簡単な筋トレ ②ゲームを通して仲間を知ろう・作ろう ③身体づくりのための簡単な運動をやってみよう								☆体操やストレッチング・筋トレなどは毎日自宅で30分程度行うこと。	
4	バスケットボール（ツーマンパスやドリブルからのシュート）								☆生活習慣や健康に関する資料を読み、復習プリントを解答しておくこと。	
5	バスケットボール ゲーム（5対5）（3×3）									
6	バレーボール（ランニングパス・サーブの練習）（ゲーム）									
7	バレーボール（グループを作りランニングパス・サーブの練習）（ゲーム）									
8	グループ毎に身体づくりのための運動を考えよう									
教科書	なし									
参考文献	運動やスポーツと健康・生活習慣と健康などの健康維持増進に関する資料を配付する。									
備考	状況によっては種目や実施時期を変更することがある。 第3回～8回は体育館で実施。体育館シューズ・運動着・水分補給用の水を準備 第3回～8回は2クラスに分けて実施。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-1-PRD-06			
	●								
科目名	病態治療学V (運動器、中枢・末梢神経)				単位認定者	佐野 徳久		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		
				授業形態	講義	授業時間数	20 時間		
						授業回数	10 回		
授業の概要	運動機能障害(骨・関節疾患、筋肉・神経筋接合部疾患)、神経機能の障害(中枢神経系疾患、末神経系疾患)の病態と診断・治療について学び、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を身につける。								
到達目標	1. 骨・関節の疾患の病態と診断・治療について説明できる 2. 筋肉・神経筋接合部の疾患の病態と診断・治療について説明できる 3. 中枢神経系の疾患の病態と診断・治療について説明できる 4. 末神経系の疾患の病態と診断・治療について説明できる								
学修者への期待等	運動器疾患、神経系疾患は外傷、変性疾患、炎症性疾患、腫瘍など多岐に渡ります。教科書に基づいた復習を行うことが予習以上に重要ですので、講義後30分程度復習して下さい。								
回					準備学修				
1	骨・関節の疾患の病態と診断・治療 (骨折、脱臼、捻挫、骨粗鬆症)				成人看護学[10] 第5章：I ABC・II D 一読しておいて下さい (30分程度)				
2	骨・関節の疾患の病態と診断・治療 (腫瘍、変形性関節症)				成人看護学[10] 第5章：II B③・C 一読しておいて下さい (30分程度)				
3	骨・関節の疾患の病態と診断・治療 (腰痛症、炎症性疾患)				成人看護学[10] 第5章：II B①②・H 一読しておいて下さい (30分程度)				
4	筋肉・神経筋接合部の疾患の病態と診断・治療 (筋ジストロフィー、重症筋無力症)				成人看護学[7] 第5章：D 一読しておいて下さい (30分程度)				
5	中枢神経系の疾患の病態と診断・治療 (脊髄損傷)				成人看護学[10] 第5章：I D 一読しておいて下さい (30分程度)				
6	中枢神経系の疾患の病態と診断・治療 (感染症、腫瘍)				成人看護学[7] 第5章：A②・B⑤・F 一読しておいて下さい (30分程度)				
7	中枢神経系の疾患の病態と診断・治療 (脳血管障害)				成人看護学[7] 第5章：A① 一読しておいて下さい (30分程度)				
8	中枢神経系の疾患の病態と診断・治療 (頭蓋内圧亢進症、頭部外傷)				成人看護学[7] 第5章：A③ 一読しておいて下さい (30分程度)				
9	中枢神経系の疾患の病態と診断・治療 (パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、脱髄疾患)				成人看護学[7] 第5章：E 一読しておいて下さい (30分程度)				
10	末神経系の疾患の病態と診断・治療 (ギラン・バレー症候群、圧迫性神経障害、顔面神経麻痺)				成人看護学[7] 第5章：C 一読しておいて下さい (30分程度)				
教科書	「系統看護学講座 成人看護学[7] 脳・神経」井手隆文他著、医学書院 「系統看護学講座 成人看護学[10] 運動器」田中栄他著、医学書院								
参考文献									
備考									

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

医師としての臨床実務経験を生かして、医学的な内容を理解させる。



学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-1-PRD-07				
	●									
科目名	病態治療学VI（血液・造血器・免疫）			単位認定者	田林 暁一		試験(筆記)	80 %		
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
							授業時間数		20 時間	
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	造血機能の障害（血液・造血器の疾患）、免疫機能の障害（自己免疫疾患、アレルギー性疾患の病態と診断・治療、免疫低下に関連する疾患）の病態と診断・治療を学び、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	1. 免疫の仕組みが説明できる、2. 自己免疫疾患について説明ができる。3. 老化と免疫について説明ができる。4. 血液成分と貧血について説明ができる。5. 血液の流動性と出血について説明ができる。6. 出血と止血について説明ができる。7. 出血性疾患と造血器腫瘍について説明ができる。8. 浮腫について説明ができる。9. 感染症について説明ができる。									
学修者への期待等	各講義に際し、授業計画の予習、および講義後1～2日間で復習をしてください。予習、および復習は反転授業で活用し、理解を深めていきたいと考えているので、予習・復習の習慣をつけてください。									
回	授業計画				準備学修					
1	免疫の仕組みと花粉症、および食物アレルギーの病態と診断・治療 反転授業				第1回講義内容の30分間の予習					
2	自己免疫疾患の病態と診断・治療 反転授業				第2回講義内容の30分間の予習、および第1回講義の30分間の復習					
3	川崎病と老化と免疫の病態と治療 反転授業				第3回講義内容の30分間の予習、および第2回講義の30分間の復習					
4	血液成分の説明と貧血の病態と診断・治療 反転授業				第4回講義内容の30分間の予習、および第3回講義の30分間の復習					
5	血液の流動性の説明と出血の病態と診断・治療 反転授業				第5回講義内容の30分間の予習、および第4回講義の30分間の復習					
6	出血と止血の病態と診断・治療 反転授業				第6回講義内容の30分間の予習、および第5回講義の30分間の復習					
7	出血性疾患と造血器腫瘍の病態と診断・治療 反転授業				第7回講義内容の30分間の予習、および第6回講義の30分間の復習					
8	浮腫の病態と診断・治療と水分補給 反転授業				第8回講義内容の30分間の予習、および第7回講義の30分間の復習					
9	発熱と食中毒の病態と診断・治療、滅菌法・消毒法 反転授業				第9回講義内容の30分間の予習、および第8回講義の30分間の復習					
10	外科的感染症の病態と診断・治療 反転授業				第10回講義内容の30分間の予習、および第9回講義の30分間の復習					
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症」 岩田健太郎他著、医学書院									
参考文献	「標準外科学」北島正樹監修 医学書院									
備考	講義内容の学修を授業以外でも行わせ、反転授業を行い、講義内容の理解と修得を高める。									

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

医師としての臨床経験を生かして、免疫、免疫疾患、血液疾患、および感染症について医学的に理解させる。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-1-PRD-08				
●										
科目名	病態治療学Ⅶ（呼吸器、感覚器）				単位認定者	田林 暁一		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
						授業時間数	20 時間			
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	呼吸機能障害（呼吸器系の疾患の病態と診断・治療）、感覚器系機能障害（視覚障害、鼻・頭・喉頭の障害、耳・聴覚障害、皮膚障害）の病態と診断・治療などを学び、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	呼吸器疾患、感覚器系疾患（視覚障害、鼻・咽頭・喉頭障害、耳・聴覚障害、皮膚障害）の病態と診断・治療を学ぶ。									
学修者への期待等	各講義後1～2日目、1および2週間後に講義内容を30分間復習を行ってください。呼吸器疾患では前・前々回の講義内容について復習テストを施行する。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	肺疾患（呼吸器疾患、換気障害）の病態と診断・治療				第1回講義内容の30分間の予習			田林 暁一		
2	肺疾患（肺腫瘍、肺がん）の病態と診断・治療				第2回講義内容の30分間の予習、第1回講義内容の30分間の復習			田林 暁一		
3	肺疾患（気管支拡張症、気胸、肺血栓塞栓症、胸膜・縦郭腫瘍）の病態と診断・治療				第3回講義内容の30分間の予習、第2回講義内容の30分間の復習			田林 暁一		
4	肺疾患（胸部外傷、睡眠時無呼吸症候群）の病態と診断・治療				第4回講義内容の30分間の予習、第3回講義内容の30分間の復習			田林 暁一		
5	聴覚・平衡感覚の障害の病態生理、診断、治療（中耳炎・内耳炎・めまい・メニエール病・難聴）				外耳、中耳、内耳の構造と機能について、教科書の該当するページを予習してください。（30分程度）			大島 英敏		
6	嗅覚・味覚・発声・嚥下の障害の病態生理、診断、治療（鼻出血・鼻炎・副鼻腔炎・扁桃炎・悪性腫瘍）				鼻腔や口腔、咽頭・喉頭の構造と生理的な役割について、教科書の該当するページを予習してください。（30分程度）			大島 英敏		
7	皮膚の障害Ⅰ（皮膚生理学、湿疹・アトピー性皮膚炎、脱毛症、帯状疱疹・疥癬）				資料に基づいて復習してください。（30分程度）			藤村 卓		
8	皮膚障害Ⅱ：小児皮膚感染症、皮膚悪性腫瘍熱傷・褥瘡、熱傷				資料に基づいて復習してください。（30分程度）			藤村 卓		
9	視覚の障害の病態生理、診断、治療（近視・老視・色覚異常・角膜炎・結膜炎）				機能の障害（屈折、調節、色覚）部位別疾患（角膜、結膜）について、教科書の該当するページを予習してください。（30分程度）			布施 昇男		
10	視覚の障害の病態生理、診断、治療（網膜剥離・緑内障・白内障・網膜色素変性・糖尿病性網膜症）				部位別疾患（網膜、硝子体、水晶体疾患、緑内障）について、教科書の該当するページを予習してください。（30分程度）			布施 昇男		
教科書	「系統看護学講座 専門分野、成人看護学（2）呼吸器」浅野浩一郎他著、医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉」小松浩子他著、医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [13] 眼」大鹿哲郎他著、医学書院									
参考文献	「標準外科学」北島正樹監修、医学書院									
備考	講義内容の学修を授業外でも行わせ、反転授業を行い、講義内容の理解と修得を高める。									

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

医師としての臨床経験を生かして臨床に即した医学を教育・理解させる。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-1-HSS-04				
	●									
科目名	公衆衛生学				単位認定者	山本 玲子		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		16 時間	
				授業回数		8 回				
授業の概要	公衆衛生の概念や予防医学的視点、疫学と保健統計および国や地方自治体行政や市民組織など役割と法律や施策とその運用(地域保健、母子保健、精神保健、学校保健、その他の保健活動)などについて学び、実際の公衆衛生活動に対応できる基礎的知識を身につける。									
到達目標	健康事象を人間集団の特性(性・年齢・職業・教育など)と環境(地域・所属社会・自然環境など)との関わりで説明できる。健康行動変容理論を理解する。健康問題を把握し、解決する疫学的手法や公衆衛生活動の方法論、行政施策の基礎を説明できる。									
学修者への期待等	事前にテキストの授業該当章節のねらいとまとめに目を通し、詳細は教科書で確認し、チェック問題は解いておくこと。事後には、授業でのキーワードについてテキスト・授業内資料・図書館・信頼できるweb検索情報源などを用い、理解を確かなものにしておくこと。									
回	授業計画				準備学修					
1	健康の概念(主観的・客観的/個別・集団)を理解し、公衆衛生学の概念と公衆衛生活動の考え方を学ぶ。公衆衛生の歴史と現在の国内外の健康問題を把握する。				【事前】教科書 第1章 公衆衛生学序論、第2章 国際保健を予習 【事後】教科書、配布あるときはその資料、参考文献などで復習(事前事後で概ね1時間)					
2	行政の仕組みと衛生法規・健康を測るものさし(人口指標、保健統計など)の意味と現状を学ぶ。				【事前】教科書 第3章 保健・医療・福祉における行政の仕組みと法規 1. 公衆衛生行政～3. 衛生法規、チェック問題、第4章 保健統計 【事後】教科書、配布あるときはその資料、参考文献などで復習(事前事後で概ね1時間)					
3	疫学の概念・定義の変遷と健康問題解明・予防の道筋をさがす手段としての疫学手法(健康問題を扱う統計学)を学ぶ。臨床疫学の研究方法と医療の基礎となるエビデンスレベルには関連があることを理解する。				【事前】教科書 第5章 疫学—健康状態・疾病の測定と評価、第6章 疫学研究の評価と倫理、チェック問題 【事後】教科書、配布あるときはその資料、参考文献などで復習(事前事後で概ね1時間)					
4	生活習慣病予防のために必要な幼いころからの良い健康行動・避けるべき発症要因について学ぶ。また、働く人々の健康と安全を守るために大切な法・対策など生活者の健康増進について理解する。				【事前】教科書 第7章 疾病予防と健康管理—生活習慣の現状と対策、チェック問題、第13章 産業保健—働く人々の健康 【事後】教科書、配布あるときはその資料、参考文献などで復習(事前事後で概ね1時間)					
5	生活習慣病(がん、心臓病、脳卒中など)と感染症、難病などの社会における位置づけ、および精神保健について理解を深める。				【事前】教科書 第8章 主要疾患の疫学と予防、チェック問題、第10章3. C障害者福祉、第13章 環境保健2. B健康に影響を与える生物的環境要因 【事後】教科書、配布あるときはその資料、参考文献などで復習(事前事後で概ね1時間)					
6	地域公衆衛生活動における組織・健康危機管理とソーシャルキャピタル、高齢者の特性に基づく健康管理の認識とケアに関連する制度やシステムを理解する。				【事前】教科書 第9章 地域保健—地域住民の健康と行政の役割、第10章 医療・福祉・介護・保健の制度とシステム、第14章 成人・高齢者保健、チェック問題 【事後】教科書、配布あるときはその資料、参考文献などで復習(事前事後で概ね1時間)					
7	母体と胎児期から児童・生徒・学生と呼ばれるライフステージにおける健康を扱う公衆衛生活動が、母子保健と学校保健である。このライフステージにおける健康問題の把握と行政による健康保持。増進のための公衆衛生施策や根拠法などを学び理解する。				【事前】教科書 第10章3. D児童福祉-E母子保健、第11章 母子保健、第12章 学校保健、チェック問題 【事後】教科書、配布あるときはその資料、参考文献などで復習(事前事後で概ね1時間)					
8	環境保健では、ミクロとマクロをつなぐ細胞レベルから地球・宇宙レベルまでの幅広い内容で、衣食住、人の健康(内的環境も含め)と環境(生態系、自然環境、社会文化歴史的環境を含む)との関りを理解する。				【事前】教科書 第15章 環境保健—環境システムと健康、チェック問題 【事後】教科書、配布あるときはその資料、参考文献などで復習(事前事後で概ね1時間)					
教科書	「衛生・公衆衛生学」山本玲子編著、アイ・ケイコーポレーション									
参考文献	厚生省の指標 増刊「国民衛生の動向 2021/2022」(財)厚生労働統計協会									
備考	・授業内課題については授業内質問、確認テストなどで評価する。 ・チェック問題は教科書に記載(いくつかの章末に)されているものを指す。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング		
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-1-HSS-05		
	●							
科目名	保健医療福祉サービス論				単位認定者	末永 カツ子		試験（レポート） 40 % 授業内課題 40 % 授業態度 20 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	
					授業形態	講義	授業時間数	
							授業回数	
授業の概要	人々の生活を支える保健医療福祉サービスの変遷と制度の概要と活用方法および保健医療制度などを学び、保健医療福祉分野でサービスを提供する多機関・多職種との連携・協働に必要な基礎的知識を身につける。							
到達目標	1. 人々の生活を支える保健医療福祉制度の概要を理解する。 2. 保健医療福祉制度・サービスの活用方法を理解する。 3. 保健医療制度・サービスを提供する多機関・多職種との連携・協働の必要性を理解する。							
学修者への期待等	・ 社会福祉・社会保障の歴史から分野別制度の理解が深まることを期待する。 ・ 保健医療福祉を担う行政機関の活動や具体的な社会福祉サービスを理解する。							
回	授業計画				準備学修			担当
1	・ 現代社会の変化の変化と社会保障制度 ・ 社会保障・社会福祉の動向				第2章（p27～49）を読み、最も関心を持ったことについて、その理由や関連する体験等をメモし（300字程度）、講義に臨む。メモは講義終了時に提出する。（概ね1時間）			末永 カツ子
2	・ 医療保障制度の法律、国民皆保険、健康保険、医療保険制度のしくみ				第3章A、B、C（p52～70）を読み、講義に臨む。（概ね1時間）			佐藤 英仁
3	・ 高齢者医療制度のしくみ ・ 保険診療のしくみ（診療報酬・薬価基準） ・ 国民医療費の動向・構造				第3章D、E、F、G（p70～82）を読み、講義に臨む。（概ね1時間）			佐藤 英仁
4	・ 介護保険制度のしくみと課題				第4章A、B、C（p84～110）を読み、講義に臨む。（概ね1時間）			佐藤 英仁
5	・ 高齢者保健福祉のシステムの現状と課題 グループワーク				第7章A（p158～165）を読み、講義に臨む。（概ね1時間）			末永 カツ子
6	・ 障害保健福祉システムの現状と課題 グループワーク				第7章B、C（p165～192）を読み、障害講義に臨む。（概ね1時間）			末永 カツ子
7	・ 児童家庭福祉のシステムと課題 グループワーク				第7章C（p192～210）を読み、講義に臨む。（概ね1時間）			末永 カツ子
8	・ 社会保障制度と法律 グループワーク				第1章A、B（p2～26）を読み、講義に臨む。（概ね1時間）			佐藤 英仁 末永 カツ子
教科書	「系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度 [3]」 福田素生著他、医学書院							
参考文献	「日本の医療はなぜ弱体化したのか 再生は可能なのか」本田宏編著、合同出版 「アフターコロナの公衆衛生」末永カツ子編著、佐藤英仁他著、自治体研究社							
備考	・ 授業内課題は授業日ごとに提示する。まとめたものは提出を求め評価の対象とし必要に応じて次の講義でフィードバックする。 ・ 試験（レポート）の課題及び提出期日は授業内で提示する。							

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

保健福祉分野の行政機関にて担当してきた保健医療福祉サービスに係る知識を活かし講義を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-1-HSS-06				
			●							
科目名	チーム医療論				単位認定者	阿部 春美 桑田 恵美子		試験 (レポート)	90 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	10 %
							授業時間数		20 時間	
				授業形態	演習	授業回数			10 回	
授業の概要	チーム医療の概念、チーム医療に参加する専門職の役割、職種間の相互理解の必要性について学び、協働してチーム医療の実践に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	1. チーム医療の概念及びチーム医療に参加する専門職の役割について説明できる 2. 職種間の相互理解を深めながら、連携・協働してチーム医療に参加する姿勢を身につける 3. 看護職と他職種の共通性を理解し、対象者志向の倫理観をもつ									
学修者への期待等	チーム医療とは、「医療に従事する多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供すること」である。それは病院内にとどまらず、対象が戻る在宅療養生活・地域も含めて専門職が連携・協働して、健やかに安心して生活できるよう支援することが求められる。この科目を通してチーム医療について考えを深め、多職種連携の意義、看護職と他職種の共通性を理解し、対象者志向の倫理観について考えを深めることを期待する。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	【講義】 チーム医療とは チーム医療の起源、チーム医療の要素とその関連性				【事後】 病院の専門職の専門性と活動内容について調べる			阿部 春美		
2	【講義】 チーム医療における患者医療者関係							阿部 春美		
3	【グループワーク】 チーム医療における多職種の役割と責任①				【事後】 病院の専門職の専門性と活動内容について不足を追加修正してレポートをまとめる。			阿部 春美 桑田 恵美子 高橋 由美		
4	【発表】 チーム医療における多職種の役割と責任②							阿部 春美 桑田 恵美子 高橋 由美		
5	【講義】 チーム医療の倫理性				【事後】 授業内の学び (概ね30分)			桑田 恵美子		
6	【講義】 病院内におけるチームアプローチの実際				【事後】 授業内の学び (概ね30分)			千葉 美枝 阿部 春美		
7	【講義】 退院から在宅療養生活に向けた多職種連携				【事後】 授業内の学び (概ね30分)			畠山 稔 桑田 恵美子		
8	【講義】 地域包括ケアシステムでの多職種連携				【事後】 Educational Video online 「事例から学ぶ地域包括ケアシステム 4巻」視聴後、授業内の学び及び視聴後の学びの記載 (概ね2時間)			結城 修子 桑田 恵美子		
9	【グループワーク】 チーム医療・専門職連携における看護師の役割①							阿部 春美 桑田 恵美子 高橋 由美		
10	【発表】 チーム医療・専門職連携における看護師の役割② チーム医療論のまとめ				【事後】 レポート課題 「チーム医療・専門職連携における看護職の役割」 (概ね5時間)			阿部 春美 桑田 恵美子 高橋 由美		
教科書	各回で資料配付									
参考文献	「チーム医療とは何か」 細田満和子著、日本看護協会出版会 「チーム医療論」 鷺野和美編著、医歯薬出版 「チーム医療の推進について」 厚生労働省: <a href="https://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/03/dl/s0319-9a.pdf">https://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/03/dl/s0319-9a.pdf</a> Educational Video online 「事例から学ぶ地域包括ケアシステム 4巻」									
備考	*試験 (レポート) は2種類あります。 レポート①「病院の専門職の専門性と活動内容について」 (45%) レポート②「チーム医療・専門職連携における看護職の役割」 (45%) *授業内課題は、次回授業時フィードバックします。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CHN-02				
	●				●					
科目名	地域・在宅看護援助論Ⅰ				単位認定者	小林 淳子		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	40 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	地域社会の特性や文化と健康との関連や課題を導き出す方法、地域包括・在宅ケアシステム、療養の場の移行に伴う看護・ケアマネジメントの方法、在宅ケアを支える制度と社会資源などについて学び、地域の人々や様々な機関・専門職種との連携・協働に必要な基礎的能力を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で生活する地域・在宅看護の対象者と家族について理解を深める。</li> <li>2. 地域包括ケアシステムの中での連携・協働について理解できる。</li> <li>3. 在宅ケアを支える制度と社会資源・ケアマネジメントの方法について理解できる。</li> <li>4. 地域アセスメントの意義を理解し方法の基礎を修得できる。</li> </ol>									
学修者への期待等	地域・在宅看護概論Ⅰに基づき、地域・在宅看護活動の根幹となる科目であるため、十分に予習復習を行い、積極的に学ぶ姿勢で臨んでほしい。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	地域・在宅看護援助論Ⅰガイダンス 人々の暮らしと地域・在宅看護(含 事例検討)				1章-1, 2、地域・在宅看護概論Ⅰ2回目資料を予習復習する(1時間)			小林 淳子		
2	地域・在宅看護の対象者と家族の理解(含 事例検討)				2章-1, 2, 3、地域・在宅看護概論Ⅰ3回目資料を予習復習する(1時間)			小林 淳子		
3	地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携(含 事例検討)				3章2, 3, 4、地域・在宅看護概論Ⅰ6, 8回目資料を予習復習する(1時間)			小林 淳子		
4	地域・在宅看護におけるケアマネジメント(介護保険)				3章-5について予習復習する(1時間)			高橋 由美		
5	地域・在宅ケアを支える諸制度と社会資源				4章-1~5について予習復習する(1時間)			高橋 由美		
6	障がい者に関連する法律および難病法				4章-6~7について予習復習する(1時間)			真溪 淳子		
7	精神障がい者を支えるケアマネジメントの実際				【授業内課題】レポート提出			坂本 由郁 小林 淳子		
8	こどもの在宅療養を支える制度と社会資源				4章-8について予習復習する(1時間)			真溪 淳子		
9	こどもを支えるケアマネジメントの実際				【授業内課題】レポート提出			煤孫 久子 小林 淳子		
10	暮らしの基盤としての地域の理解 地域アセスメント①地域アセスメントの意義・方法				3章-1、地域・在宅看護概論Ⅰ8回目資料を予習復習する(1時間)			小林 淳子		
11	地域アセスメント② ＜グループワーク＞ 地区踏査				配布資料に基づき復習する(30分間)			小林 淳子 真溪 淳子 加藤 真理子		
12	地域アセスメント③ ＜グループワーク＞ 地区踏査の情報整理・考察				グループワークを踏まえ発表準備(1時間)					
13	地域アセスメント④ ＜グループワーク＞ 既存資料の収集				配布資料に基づき復習する(30分間)					
14	地域アセスメント⑤ ＜グループワーク＞ 既存資料の情報整理・考察				グループワークを踏まえ発表準備(1時間)					
15	地域アセスメント⑥ 学修成果発表 まとめ				【授業内課題】レポート提出					
教科書	「ナースング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア」 臺有桂他編、MCメディカ出版 「国民衛生の動向 2021/2022」 厚生労働統計協会									
参考文献	「看護師のための地域看護学」 豊島康子編、ピラールプレス									
備考	授業内課題は適宜フィードバックする									

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

地域・在宅看護活動の実務経験を活かしながら授業を展開し学修を支援する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CHN-03				
	●				●					
科目名	地域・在宅看護概論Ⅱ				単位認定者	高橋 由美		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	授業内 課題等	40 %
						授業時間数	16 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	地域での療養を支える看護の目的、役割・機能、基本理念、倫理的視点、様々な対象のケアニーズや実践に必要な基礎的知識、療養者と家族を単位とする家族看護の必要性・役割について学び、地域・在宅看護の実践能力を身につける。									
到達目標	1. 地域療養を支える看護の目的、役割機能、基本理念を理解できる 2. 地域で療養する様々な対象のケアニーズや必要な看護について理解できる 3. 在宅療養を支える看護活動の実際を理解できる									
学修者への期待等	地域・在宅看護概論Ⅰ、地域・在宅看護援助論Ⅰに引き続き、地域・在宅看護活動の根幹となる科目です。また、地域・在宅看護論実習Ⅰ、地域・在宅看護援助論Ⅱ、地域・在宅看護論実習Ⅱに関連する科目です。十分に予習復習を行い、積極的に学ぶ姿勢で臨みましょう。									
回	授業計画				準備学修		担当			
1	在宅療養を支える看護 ①目的・役割機能・基本理念				1章-3～6について予習復習する(1時間)、学修カードのまとめ		高橋 由美			
2	在宅療養を支える看護 ②様々な対象のニーズ				2章-1～3について予習復習する(1時間)、学修カードのまとめ		高橋 由美			
3	在宅療養を支える看護 ③家族支援				2章-について予習復習する(1時間)		高橋 由美			
4	在宅療養を支える看護活動①訪問看護ステーション				5章-1～2について予習復習する(1時間)、学修カードのまとめ		高橋 由美			
5	在宅療養を支える看護活動②訪問看護サービスの展開				5章-3～4について予習復習する(1時間)、学修カードのまとめ		高橋 由美			
6	在宅療養を支える看護活動③訪問看護ステーションの実際				課題レポート提出(詳細は授業で説明する)、学修カードのまとめ		庄司 玲美 高橋 由美			
7	在宅療養を支える看護活動④事例検討				課題レポートおよび小テストに取り組み(概ね3時間)		高橋 由美			
8	在宅看護における健康危機管理 まとめ						高橋 由美			
教科書	「ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア」臺有桂他編、MCメディカ出版									
参考文献	「国民衛生の動向 2021/2022」厚生労働統計協会									
備考	授業内課題は講義時にフィードバックする。 学修カードは次回の講義時にフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

看護職として、地域・在宅看護の実務経験を活かし、具体例をあげながら分かりやすく説明する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CHN-04				
	●	●			●					
科目名	地域・在宅看護援助論Ⅱ				単位認定者	高橋 由美		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内 課題	40 %
							授業時間数		46 時間	
				授業形態	演習	授業回数			23 回	
授業の概要	地域包括ケアシステムの対象（脳血管疾患療養者、認知症高齢者、在宅難病療養者、在宅で療養する障がい者・医療的ケア児、ターミナル期の療養者）のケアニーズや、多様な場や状況に応じた看護支援方法および在宅看護におけるケア（在宅経管栄養法、在宅中心静脈栄養法、在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法）の原則や援助方法を学び、地域・在宅看護の実践能力を身につける。									
到達目標	1. さまざまな事例から在宅療養者とその家族や環境を理解し、状況に応じた支援方法や援助技術を習得することができる。 2. 在宅における医療管理を必要とする人とその特徴的な看護について習得することができる。									
学修者への期待等	在宅看護は対象者と家族の尊厳のある生活を支える個別ケアである。従ってプライバシーを守ることやあらゆることの意味決定を尊重すること、観察と判断力など、看護師のより高い資質が求められる。人間理解の学修は基より、あらゆる看護領域の既修の知識・技術が基本となるため、関連領域の振り返りを行った上で臨んでほしい。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	【講義】在宅における援助技術 ①生活・医療ケアの原則				2章-1～3、4章-1について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）			高橋 由美		
2	【講義】在宅における援助技術 ②食の援助・在宅経管栄養法 在宅中心静脈栄養法				3章-1、4章-11～12について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）			高橋 由美		
3	【講義】在宅における援助技術 ③清潔の援助・移動の援助				3章-3～4について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）			高橋 由美		
4	【講義】在宅における援助技術 ④排泄の援助				3章-2、4章-9～10について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）			高橋 由美		
5	【講義】在宅における援助技術 ⑤感染予防 褥瘡予防				2章-5、4章-13について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）			高橋 由美		
6	【講義】事例にみる在宅看護 ①脳血管疾患患者とその家族				6章-4について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）			高橋 由美		
7	事例にみる在宅看護 ②在宅での生活を希望する脳梗塞後遺症のある高齢者							高橋 由美		
8	【講義】事例にみる在宅看護 ③在宅の認知症高齢者とその家族				6章-3について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）			真溪 淳子		
9	事例にみる在宅看護 ④被虐待が疑われる認知症高齢者							真溪 淳子		
10	【講義】事例にみる在宅看護 ⑤在宅で療養する障害者（成人）				6章-7について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）			真溪 淳子		
11	【講義】事例にみる在宅看護 ⑥在宅で療養する障害者（小児）				6章-9について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）			真溪 淳子		
12	【講義】事例にみる在宅看護 ⑦在宅で療養する障害者（精神）				6章-8について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）			真溪 淳子		
13	【講義】事例にみる在宅看護 ⑧ターミナル期の療養者とその家族				2章-6、4章-3、4章-17、6章-5について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）			真溪 淳子		
14	事例にみる在宅看護 ⑨最期まで自宅で過ごしたいターミナル期がん療養者							真溪 淳子		
15	【講義】在宅における援助技術 ⑥呼吸の援助と医療ケア				3章-5、4章-4～7について予習復習する（1時間）			高橋 由美		



回	授業計画	準備学修	担当
16	在宅における援助技術 ⑦在宅酸素療法と援助の実際	授業内課題 レポート提出（詳細は授業内で説明する）・小テスト	高橋 由美 真溪 淳子 中野 千加子 庄司 玲美 家子 敦子
17	在宅における援助技術 ⑧在宅人工呼吸療法と援助の実際		
18	【講義】事例にみる在宅看護 ⑩在宅難病療養者とその家族	6章-6について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）	高橋 由美
19	事例にみる在宅看護 ⑪在宅での生活に不安を抱きつつ退院するALS患者		高橋 由美
20	在宅看護過程 ①事例検討（初回訪問・ロールプレイ）	【事前】地域・在宅看護概論Ⅱの訪問看護過程とケアマネジメントについて復習して臨むこと。 【事後】配布資料および授業を復習し、課題に取り組む。 授業内課題 レポート提出（概ね3時間）	高橋 由美 真溪 淳子 中野 千加子 家子 敦子
21	在宅看護過程 ②事例検討（情報収集・アセスメント）		
22	在宅看護過程 ③事例検討（看護計画）		
23	在宅看護過程 ④事例検討（ケアマネジメント）		
教科書	「ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術」 臺有桂他編、MCメディカ出版		
参考文献	「ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア」 臺有桂他編、MCメディカ出版 「写真でわかる訪問看護」 押川真喜子監修、インターメディカ 「場面で学ぶ在宅看護論」 臺有桂他編、MCメディカ出版		
備考	授業内課題は講義時にフィードバックする		

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）**

看護職として、地域・在宅看護の実務経験を活かし、具体的事例や看護実践方法を紹介しながら授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-INS-01				
	●									
科目名	看護展開論 I				単位認定者	桑田 恵美子		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
						授業時間数	16 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	看護の対象としての家族を発達する家族・システムとしての家族と捉え、家族を取り巻く社会的文化的背景など家族理解のための基礎的知識と多様な家族への支援方法を学び、家族看護の実践に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族の特徴と発達する家族、システムとしての家族、家族を取り巻く社会的文化的背景、家族を理解するポイントについて説明できる</li> <li>2. 家族看護における看護の役割が説明できる</li> <li>3. 健康な家族のあり方、家族生活に健康的な変化をもたらす実践例（老年・母性・小児・精神）をもとに、多様な家族への支援方法について説明できる</li> </ol>									
学修者への期待等	人の生活にとって「家族」とは、最も身近な存在である。日本の家族の歴史的背景や、家族看護の変遷から家族看護の役割を理解してほしい。家族は、家庭という環境の中で長年生活し家族成員同士がお互い大きな影響を及ぼしている。また現代では家族が多様化し、晩婚化・未婚・少子化等、社会の状況からも影響を受ける。家族成員に健康問題が生じると、家族はいろいろな影響を受ける。家族全体を視野に入れ家族の力を引き出し、家族全体の健康を目指す支援方法について考えを深めてほしい。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	家族看護の特徴、変遷、看護者の役割と基本姿勢				【事後】授業後学び（概ね40分）			桑田 恵美子		
2	家族看護の対象の理解				【事後】授業後学び（概ね40分）			桑田 恵美子		
3	家族看護を支える理論と支援方法				【事後】授業後学び（概ね40分）			桑田 恵美子		
4	家族看護展開の方法（家族支援のために）				【事後】授業後学び（概ね40分）			桑田 恵美子		
5	入院治療を受ける病児を持つ家族への支援				【事後】授業後学び（概ね40分）			武田 美奈子		
6	女性のライフサイクルと家族				【事前】教科書6第3章（P. 137-142）を目を通し授業に臨むこと（概ね30分）			佐藤 理恵		
7	精神疾患と家族・その支援				【事前】教科書7章「家族とその支援」に目を通して授業に臨むこと（概ね1時間）			阿部 幹佳		
8	【グループワーク】 高齢者介護に関する家族支援				【事後】授業後学び（概ね40分）			桑田 恵美子		
教科書	「系統看護学講座 別巻 家族看護学」上別府圭子他著、医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論」森恵美他著、医学書院 「ナーシング・グラフィカ 精神看護学①：情緒発達と精神看護の基本」出口禎子他編、MCメディア出版									
参考文献	「家族看護学 理論と実践」鈴木和子 渡辺裕子著 日本看護協会出版会 「家族看護学 理論・実践・研究」Shirly May Harmon, Sheryl Thalman Boyd, 村田恵子他監訳, 医学書院									
備考	LMS「授業後学び」については次回講義時にフィードバックする									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-INS-02				
	●	●								
科目名	看護展開論Ⅱ				単位認定者	遠藤 美穂子		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	40 %
					授業形態	演習	授業時間数		46 時間	受講態度
							授業回数		23 回	
授業の概要	ヘルスアセスメント(データベース聴取、面接・問診技術、観察・測定・記録技術)、フィジカルアセスメントの基本的技術(視診・触診・打診・聴診)、各系統別の構造と機能(外皮系・感覚器・筋骨格系・神経系・呼吸器系・循環器系・消化器系・腎泌尿器系・生殖器系・乳房)にもとづくアセスメントの視点や方法、成長発達(母性・小児・老年)に伴う特異なアセスメントの視点と方法を学び、看護実践に必要な臨床判断能力と人の全体(身体・精神・社会的)の査定に必要な基礎的知識とを身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>ヘルスアセスメントとの定義・目的について説明できる</li> <li>脳統的アセスメント(身体的・心理社会的)の視点・方法が説明できる</li> <li>ヘルスアセスメントに必要な基本的技術の方法が説明できる。</li> <li>各系統別のフィジカルアセスメントの視点と方法が説明でき、必要な基本的技術をモデル人形へ実施できる</li> <li>成長発達に伴う特異なアセスメントの視点や方法が説明できる</li> </ol>									
学修者への期待等	1年次に履修している「人体構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」は、ヘルスアセスメントの基礎となるため、復習してから授業に臨んでください。また、指示された準備学修を行い、主体的に講義・演習に臨んでください。									
回	授業計画				準備学修			担当名		
1	【講義】ヘルスアセスメントとは 定義・目的と意義				【事後】 提示された課題に回答して臨む(30分)			二口 尚美		
2	【講義】看護過程とヘルスアセスメント 援助方法の選択につなぐ情報収集と臨床推論				【事後】 授業内で記載した課題を整理する			二口 尚美		
3	ヘルスアセスメントに必要な基本的技術 視診、触診、打診、聴診、意識、身体計測 反転授業				【事前】 予習動画視聴(30分程度) 【事後】 第3回講義の振り返り(30分程度)			遠藤 美穂子		
4	系統別フィジカルアセスメント① 外皮系、感覚器系、筋骨格系、神経系 反転授業				【事前】 予習動画視聴、ワークシート(30分程度) 【事後】 講義の振り返り(30分程度)			遠藤 美穂子		
5	系統別フィジカルアセスメント② 呼吸器系、循環器系 反転授業				【事前】 予習動画視聴、ワークシート(30分程度) 【事後】 講義の振り返り(30分程度)			遠藤 美穂子		
6	系統別フィジカルアセスメント③ 消化器系、腎泌尿器系、生殖器系、乳房 反転授業				【事前】 予習動画視聴、ワークシート(30分程度) 【事後】 講義の振り返り(30分程度)			遠藤 美穂子		
7	系統別フィジカルアセスメントの実際① 視診、触診、打診、聴診、意識、外皮系、感覚器系、筋骨格系、神経系				ABクラスに分けて実施 【事前】 ワークシートを学修して臨む(1時間程度) 【事後】 ワークシートの記入			佐藤 理恵 二口 尚美 岡崎 草代夏 東海林 美幸 遠藤 美穂子		
8	系統別フィジカルアセスメントの実際② 呼吸器系、循環器系、消化器系、腎泌尿器系、生殖器系、乳房							佐藤 理恵 二口 尚美 岡崎 草代夏 東海林 美幸 遠藤 美穂子		
9	事例を用いたフィジカルアセスメント 【グループワーク】				【事後】 ワークシートの記入			遠藤 美穂子		
10	【講義】高齢者のヘルスアセスメント① 高齢者ヘルスアセスメントの意義 基本技術(視診・触診・打診・聴診)と留意点				【事後】 授業後：学びの提出(約30分)			東海林 美幸		
11	【講義】高齢者のヘルスアセスメント② 高齢者の健康歴聴取時のポイント				【事後】 授業後：学びの提出(約30分)			東海林 美幸		
12	高齢者のフィジカルアセスメントの実際 【グループワーク】				【事後】 授業後：学びの提出(約30分)			東海林 美幸 桑田 恵美子 菅原 尚美		
13	【講義】子どものアセスメント① 子どもに特徴的なアセスメントの視点				【事前】 教科書〈小児看護学[1]〉 p 284~302を予習して臨む(1時間程度)			岡崎 草代夏		

回	授業計画	準備学修	担当名
14	【講義】子どものアセスメント② アセスメントに必要な技術	【事前】教科書〈小児看護学[1]〉 p 303～343を予習して臨む（1時間程度）	岡崎 草代夏
15	子どものアセスメントの実際① 子どものバイタルサイン測定	ABクラスに分けて実施 【事前】ワークシートに取り組み事前 学習して臨む（1時間程度）	武田 美奈子 岡崎 草代夏 佐藤 理恵 東海林 美幸 遠藤 美穂子
16	子どものアセスメントの実際② 子どもの身体計測	【事後】15回、16回の演習後学びを整理しレポートを作成する（1時間程度）	武田 美奈子 岡崎 草代夏 佐藤 理恵 東海林 美幸 遠藤 美穂子
17	【講義】母性看護におけるアセスメントの視点と方法① 妊娠・分娩期	【事前】正常な妊娠・分娩経過について復習して臨む（1時間程度）	佐藤 理恵
18	【講義】母性看護におけるアセスメントの視点と方法② 産褥・新生児期	【事前】正常な産褥経過・早期新生児期経過について復習して臨む（1時間程度）	佐藤 理恵
19	母性看護におけるアセスメントの実際① 妊娠・分娩期	ABクラスに分けて実施 【事後】演習後学びを整理しレポートを作成する（1時間程度）	佐藤 理恵 岡崎 草代夏 二口 尚美 遠藤 美穂子
20	母性看護におけるアセスメントの実際② 産褥期・新生児期		佐藤 理恵 岡崎 草代夏 二口 尚美 遠藤 美穂子
21	事例を用いたヘルスアセスメント① フィジカルアセスメントの実施	ABクラスに分けて実施 【事前】ワークシートを学修して臨む 【事後】ワークシートの記入	佐藤 理恵 二口 尚美 岡崎 草代夏 東海林 美幸 遠藤 美穂子
22	事例を用いたヘルスアセスメント② ヘルスアセスメントの実際		佐藤 理恵 二口 尚美 岡崎 草代夏 東海林 美幸 遠藤 美穂子
23	事例を用いたヘルスアセスメント② 身体的、心理的、社会的側面を踏まえたヘルスアセスメント 【グループワーク】	【事後】演習の学びを整理し、レポートを作成する（1時間程度）	遠藤 美穂子
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ」茂野香おる他著、医学書院 「ナーシンググラフィカ老年看護学②高齢者看護の実際」堀内ふさ他著、メディカ出版 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論/小児看護学総論」奈良間美保他著、医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論」森恵美他著、医学書院		
参考文献	「ナーシング・スキル」エルゼビア・ジャパン株式会社 「ナーシングチャンネル」株式会社京都科学 「高齢者のフィジカルアセスメント」角濱春美他著、MCメディカ出版 日常生活における高齢者のヘルスアセスメント educational-video-online 丸善出版株式会社 *その他の参考文献については、授業の中で必要時提示する。		
備考	*準備学習の予習動画視聴は、ナーシング・スキル、ナーシングチャンネル、教科書に掲載されている動画コンテンツを含みます。 *準備学習のワークシートは使用時に配布します。ワークシート内の事前・事後課題への取組みと提出はその都度、指示をします。 *授業内課題については、適宜フィードバックを行います。 *事後課題レポート及びワークシートの取組み状況は評価の対象となります。		

### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師として実務経験がある教員が担当し、講義・演習を通して看護実践に必要な基礎的なヘルスアセスメントが修得できるようにする。また、基礎を踏まえ、発達段階（母性・小児・老年）に伴う特有のアセスメントの理解ができるように領域横断として各領域教員が担当する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-INS-03			
	●	●		●					
科目名	看護展開論Ⅲ				単位認定者	阿部春美 桑田恵美子 武田美奈子 佐藤理恵 阿部幹佳		試験（レポート）	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	
					授業形態	演習	授業時間数		46 時間
				授業回数		23 回			
授業の概要	対象の特性や状態を理解した上で、必要とされる看護を判断し、看護を計画的実践に必要な看護過程を学び、健康レベルを成長段階（小児期＜急性期＞・成人期＜慢性期＞・老年期＜慢性期＞、産褥期にある母・子＜ウエルネス＞）、および精神障がいのある対象の健康課題を査定し看護計画立案に必要な基礎的知識を身につける。								
到達目標	<p>1. 根拠に基づき、看護を計画的に実践する基礎的知識（アセスメント・計画、実施、評価）が説明できる。</p> <p>2. 対象の健康レベルを発達段階（小児期＜急性期＞・成人期＜慢性期＞・老年期＜慢性期＞、産褥期にある母、子＜ウエルネス＞）、精神障がい、個人や家族の生活、地域の特性と健康課題をアセスメントし、看護計画の立案ができる。</p> <p>1) 理論的枠組みに沿って対象の情報を分類でき、看護の対象に関する現象と修得した知識と関連づけて説明できる。</p> <p>2) 現在の健康状態とその原因について分析（根拠となる情報から論理的な記述）でき、問題に対して、なぜその看護が必要なのか記述できる。</p> <p>3) 模擬事例を通して対象の状態に合わせた看護計画を立案できる。</p>								
学修者への期待等	看護過程は看護を科学的に実践するためのツールです。看護過程の展開を通しての学修は、「論理的思考」「問題解決思考」「臨床判断能力」を磨くことにつながります。積極的に授業に参加し、対象の健康課題を査定し看護計画立案に必要な基礎的知識を身につけることを期待します。特に対象の状態を理解するためのアセスメント能力はしっかりと身につけることを期待します。								
回	授業計画				準備学修			担当名	
1	【講義】 看護過程6つのステップとアセスメント				テキストP2～P35看護過程の基盤となる考え方を読む（概ね1時間）			木下 美佐子	
2	【講義】 アセスメントから看護診断、目標・成果の設定				課題：アセスメントの課題作成（概ね1時間）			木下 美佐子	
3	【講義】 看護計画立案から看護実施、評価				課題：看護診断、目標・成果指標の設定（概ね1時間）			木下 美佐子	
4	【講義】成人慢性期患者の特徴とアセスメントの視点（ゴードンの機能的健康パターンの枠組みに沿って）				【事前】事前課題（事例の病態・治療）を学修（概ね1時間） 【事後】データベース・看護歴を記入（概ね2時間）			阿部 春美	
5	【グループワーク】 慢性期の看護過程①（事例：成人期糖尿病性腎症）（アセスメント、関連図）				【事後】関連図を完成（概ね2時間）			阿部 春美	
6	【グループワーク】 慢性期の看護過程②（看護診断）				【事後】看護問題、優先度の設定（概ね1時間）			阿部 春美	
7	【グループワーク】 慢性期の看護過程③（目標・看護計画・評価）				【事後】看護計画まで完成、提出（概ね2時間）			阿部 春美	
8	【講義】 小児の看護過程（セルフケア理論）				【事前】セルフケアケア理論についての復習（1時間）			武田 美奈子	
9	【講義】 小児の看護過程（セルフケア理論を使ったアセスメント）				【事後】紙上事例を読み、発達段階・関連図・アセスメントを記載する（3時間）			岡崎 草代夏	
10	【グループワーク】小児の看護過程の展開 紙上事例の展開（アセスメントを中心に）				【事前】上記を確実に記載してくる			武田 美奈子 岡崎 草代夏	
11	【発表】小児の看護過程の展開 紙上事例の展開				【事後】グループワークで得た学びも加筆して課題を提出する（1時間）			武田 美奈子 岡崎 草代夏	
12	【講義】 老年期の看護過程分析（問題の原因・援助の必要性・解決の方向性）				【事後】：①課題事例を読み・自己学習（3時間）②授業の学びのまとめ			桑田 恵美子 菅原 尚美 東海林 美幸	
13	生活機能障害のある高齢者の看護過程（回復期・リハビリ期） 【グループワーク】アセスメント				【事前】：課題事例を読み、アセスメント（2時間） 【事後】：授業の学びのまとめ			桑田 恵美子 菅原 尚美 東海林 美幸	
14	生活機能障害のある高齢者の看護過程（回復期・リハビリ期） 【グループワーク】看護問題の抽出				【事前】：看護問題の抽出終了。演習内容の検討（1時間） 【事後】：授業の学びのまとめ			桑田 恵美子 菅原 尚美 東海林 美幸	
15	生活機能障害のある高齢者の看護過程（回復期・リハビリ期） 【グループワーク】看護計画の立案				【事前】：看護計画の立案（3時間） 【事後】：①授業の学びのまとめ ②看護計画の立案を完成・提出			桑田 恵美子 菅原 尚美 東海林 美幸	

回	授業計画	準備学修	担当名
16	【講義】 母性看護学におけるウェルネス診断	【事後】母性看護過程1アセスメント用紙を完成（概ね2時間）	坂村 佐知 佐藤 理恵
17	母性看護の展開① 【グループワーク】：産褥期の母子事例の情報収集（ゴードンの11の機能的健康パターン）・アセスメント		坂村 佐知 佐藤 理恵
18	母性看護の展開② 【グループワーク】：アセスメントの総括・看護診断	【事後】母性看護過程2看護計画立案用紙を完成・提出（概ね2時間）	坂村 佐知 佐藤 理恵
19	母性看護の展開③ 到達目標・看護計画・看護の実践・評価		坂村 佐知 佐藤 理恵
20	【講義】 精神科看護の実践の特徴 ・精神科看護ケアの方法 ・セルフケアレベルの把握（レム・アソダ・アウトモデル） ・セルフケアの6つの領域（レム・アソダ・アウトモデル） ・患者-看護師関係の4つのプロセス	【事前】教科書20-23. 4章精神科看護における対象の理解を読む（概ね1時間）	阿部 幹佳
21	【グループワーク】 精神看護の展開：事例検討 ①統合失調症（急性期） ・事例紹介と具体的な展開方法 ・事例の情報整理とアセスメント ・患者理解と看護援助 ・退院支援	【事後】事前学習ノート作成 統合失調症（急性期）の事例に関する事前学修（概ね1時間）	阿部 幹佳
22	【グループワーク】 精神看護の展開：事例検討 ②気分障害（抑うつ状態） ・事例紹介と具体的な展開方法 ・事例の情報整理とアセスメント ・患者理解と看護援助 ・退院支援	【事後】事前学習ノート作成 気分障害（抑うつ状態）の事例に関する事前学修（概ね1時間）	阿部 幹佳
23	【グループワーク】 精神看護の展開：事例検討 ①統合失調症（急性期）、②気分障害（抑うつ状態）まとめ	【事後】個人ワーク：事例展開の課題作成（概ね1.5時間）	阿部 幹佳
教科書	「看護がみえる4, 看護過程の展開」永田明、石川ふみよ監修、メディックメディア 「看護学テキストNiCE 成人看護学 慢性期看護」鈴木久美編、南江堂 「ナースিং・グラフィカ 老年看護学①高齢者の健康と障害」堀井ふき他編集、MCメディカ出版 「ナースング・グラフィカ 老年看護学②高齢者看護の実践」堀井ふき他編集、MCメディカ出版 「ナースング・グラフィカ 精神看護学②：精神障害と看護の実践」出口禎子編、MCメディカ出版 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論」森恵美他著、医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論/小児看護学総論」奈良間美保他著、医学書院		
参考文献	「看護学テキストNiCE 老年看護学概論」正木治恵他編、南江堂 「看護学テキストNiCE 老年看護学技術」正木治恵他編、南江堂 「生活機能からみた 老年看護過程：+病態・生活機能関連」山田律子編著 医学書院		
備考	*試験（レポート）は、各領域の看護過程の完成度で評価します。 成人（20%）・老年（20%）・小児（20%）・母性（20%）・精神（20%） *授業内課題は、次回授業時フィードバックします。		

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-INS-04				
	●									
科目名	健康状態別看護 I				単位認定者	小林 淳子		試験(レポート)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	60 %
					授業形態	講義	授業時間数		16 時間	
				授業回数		8 回				
授業の概要	保健行動学で学んだ知識をもとに保健指導の方法や、乳幼児期・学童期・成人期・高齢期および女性のライフステージにおける発達・健康課題、労働者の健康課題と産業保健、母子保健・障害者・高齢者施策などについて学び、看護実践に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健指導の理論と基本的な展開方法を説明できる。</li> <li>2. 女性のライフステージ各期の健康課題と母子保健施策及び保健指導による支援について説明できる。</li> <li>3. 乳幼児期・学童期の発達・健康課題と保健指導による支援について説明できる。</li> <li>4. 成人期の発達・健康課題と保健指導による支援について説明できる。</li> <li>5. 労働者の健康課題と産業保健施策及び保健指導による支援について説明できる。</li> <li>6. 高齢期の発達・健康課題と高齢者施策及び保健指導による支援について説明できる。</li> </ol>									
学修者への期待等	この科目の学修には1年次に履修した「保健行動学」の復習が効果的です。なお、2年次開講の「領域横断看護実習」を履修する上での基礎となる科目です。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	健康状態別看護 I ガイダンス、保健指導の主要な理論と展開方法				テキスト「行動変容のモデル」を予習して臨み授業内容を復習し理解を深める (30分間程度)			小林 淳子		
2	女性のライフステージ各期における健康課題への保健指導 I (思春期)				母性看護学概論で学修したライフステージ各期の健康課題を復習して臨む (1時間程度)			佐藤 理恵		
3	女性のライフステージ各期における健康課題への保健指導 II (成熟期・更年期・老年期)							佐藤 理恵		
4	乳幼児・学童期にある子どもとその家族への保健指導発達段階に合わせた支援方法				小児看護学概論で学修した健康な子どもの発達段階・発達課題の復習 (1時間程度)			武田 美奈子		
5	成人期の発達・健康課題の特徴、おとなの学びの特徴 (アンドラゴジーモデル)				成人看護概論で学修した成人期の発達について復習する (30分程度)			岡崎 優子		
6	生活習慣に関連した健康課題と生活習慣の是正 (健康増進法と特定健診・特定保健指導)、職業に関連した健康障害と施策				生活習慣病について事前学習する (1時間程度)			岡崎 優子		
7	高齢者の発達・健康課題への保健指導 (健康維持・増進と介護予防)				老年看護学概論を復習し「高齢者をとりまく社会制度」について理解して臨む (30分程度)			菅原 尚美		
8	健康状態別看護 I まとめ				保健指導を考察してレポートを作成する (1時間程度)			小林 淳子		
教科書	「行動科学 健康づくりのための理論と応用」畑栄一他著、南江堂									
参考文献	「国民衛生の動向 2021/2022」厚生労働統計協会									
備考	各領域の授業内課題は、課題の取り組み内容で評価をします。母性：20%、小児：10%、成人：20%、老年：10%									

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

看護職の実務経験を活かして各ライフステージ等の健康課題と保健指導について授業を進める。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-INS-05				
	●	●								
科目名	健康状態別看護Ⅱ				単位認定者	伊藤 茉莉子		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度
							授業回数		15 回	
授業の概要	周手術期過程における看護、術後合併症と予防、術後の機能障害や生活制限への看護、手術療法を受ける対象の身体的・心理的・社会的特徴を査定し回復過程および社会復帰を支援するための看護技術（循環管理、呼吸管理、創傷処置、ドレーン管理、ストーマ管理、離床支援、清潔ケア）を学び、周手術期にある対象への看護の基礎的知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周手術期過程の看護、術後合併症と予防、術後の機能障害や生活制限への看護が説明できる。</li> <li>2. 手術療法を受ける成人の身体的・心理的・社会的特徴を査定し、回復過程および社会復帰を支援するための看護技術について、模擬患者で実施できる。</li> <li>3. 手術療法を受ける高齢者の看護援助について説明できる。</li> <li>4. 手術療法を受ける子どもと家族の看護援助について説明できる。</li> <li>5. 手術療法を受ける妊産婦の看護援助について説明できる。</li> <li>6. 手術療法を受ける精神疾患・障がい者の看護援助について説明できる。</li> </ol>									
学修者への期待等	これまで学修した知識や技術を活用できるよう復習して授業に臨んで下さい。周手術期の看護技術では、実際の臨床場面を想定したシミュレーション学習の実践を通して学修します。学生が相互に学びを深められるよう、主体的に授業に臨み、自身の考えを相手に伝えるように表現することを期待します。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	【講義】 周手術期看護の概要と看護師の役割 周手術期にある患者・家族の特徴				【事前】教科書①第2部第Ⅰ章を予習して臨むこと（概ね30分） 【事後】課題学習（事例に関する学習）			伊藤 茉莉子		
2	【講義】 手術侵襲と生体反応				【事前】教科書①第1部を予習して臨むこと（概ね1時間） 【事後】課題学習（関連図作成）			伊藤 茉莉子		
3	【講義】 手術前期における患者・家族の看護				【事前】教科書①第2部第Ⅱ章を予習して臨むこと（概ね30分） 【事後】課題学習（術前評価）			伊藤 茉莉子		
4	【講義】 手術期における患者・家族の看護				【事前】教科書①第2部Ⅲ章を予習して臨むこと（概ね30分） 【事後】課題学習			伊藤 茉莉子		
5	【講義】 手術後期における患者の看護 （主な術後合併症、術後観察・アセスメント）				【事前】教科書①第2部Ⅳ章1.～7.を予習して臨むこと（概ね30分） 【事後】課題学習（術後評価・看護問題抽出）			伊藤 茉莉子		
6	【講義】 手術後期における患者の看護 （術後合併症を予防する看護）				【事前】教科書①第2部Ⅳ章8.～9.を予習して臨むこと（概ね30分） 【事後】課題学習（看護計画立案）			伊藤 茉莉子		
7	周手術期の看護技術①：演習 創部・ドレーン・ストーマの管理、患者模擬体験				A・Bの2グループに分け実技演習を行う 【事前】教科書②第Ⅱ章3.術後の看護技術D～Fを予習して臨むこと（概ね30分） 【事後】課題レポート（概ね1時間）			伊藤 茉莉子 阿部 春美 岡崎 優子 泉田 さとみ 遠藤 美穂子 小倉 真紀 大石 慶子 松田 郷子		



回	授業計画	準備学修	担当
8	周手術期の看護技術②：シミュレーション 手術後患者の観察・アセスメント	A・B・Cの3グループに分け実技演習を行う。 【事前】課題レポート（概ね1時間） 【事後】課題レポート（概ね1時間）	伊藤 茉莉子 阿部 春美 岡崎 優子 泉田 さとみ 遠藤 美穂子 小倉 真紀 大石 慶子 松田 郷子
9	周手術期の看護技術③：演習 身体の保清と寝衣交換	A・B・Cの3グループに分け実技演習を行う。 【事前】課題レポート（概ね1時間） 【事後】課題レポート（概ね1時間）	遠藤 美穂子 阿部 春美 岡崎 優子 泉田 さとみ 伊藤 茉莉子 小倉 真紀 大石 慶子 松田 郷子
10	周手術期の看護技術④：シミュレーション 離床の援助	A・B・Cの3グループに分け実技演習を行う。 【事前】課題レポート（概ね1時間） 教科書②第Ⅱ章3.術後の看護技術Gを予習して臨むこと（概ね1時間） 【事後】課題レポート（概ね1時間）	阿部 春美 岡崎 優子 泉田 さとみ 伊藤 茉莉子 遠藤 美穂子 小倉 真紀 大石 慶子 松田 郷子
11	【講義】 周手術期にある高齢者への看護	【事前】教科書④の「3治療を受ける高齢者の看護」を読む（概ね1時間）	菅原 尚美
12	【講義】 周手術期にある子どもとその家族への看護	【事前】教科書⑤p. 256-268を読み、手術を受ける子どもや家族の気持ちを考えて臨むこと（概ね1時間）	岡崎 草代夏
13	【講義】 周手術期にある妊産婦の看護（帝王切開術） 女性生殖器の手術を受ける患者の看護	【事前】分娩の異常と看護、子宮全摘の術式や看護について予習して授業に臨む（概ね1時間）	坂村 佐知
14	【講義】 周手術期にある精神疾患をもつ人への看護	【事前】精神看護学援助論Ⅱ 教科書 第1章「身体疾患と精神症状」 p. 108-115を読む（概ね1時間）	阿部 幹佳
15	【講義】 術後の継続看護、周術期看護のまとめ	【事前】教科書①第2部Ⅴ章を予習して臨むこと（概ね30分）	伊藤 茉莉子
教科書	①「看護学テキストNiCE成人看護学 急性期看護学Ⅰ 概論・周手術期看護」林直子他編、南江堂 ②「看護学テキストNiCE成人看護学 成人看護技術」野崎真奈美他編、南江堂 ③「看護データブック」新井治子編、医学書院 ④「ナーシング・グラフィカ 老年看護学②：高齢者看護の実践」堀内ふき他編著、メディカ出版 ⑤「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論/小児臨床看護総論」奈良間美保他著、医学書院 ⑥「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論」森恵美他著、医学書院 ⑦「ナーシング・グラフィカ 精神看護学②：精神障害と看護の実践」出口禎子編、メディカ出版		
参考文献	「病気がみえる vol.10 産科」医療情報科学研究所編、メディックメディア 「看護学テキストNiCE精神看護学Ⅱ 地域・臨床で活かすケア 対象者の力を引き出し支える」萱間真美他編、南江堂		
備考	授業内課題は適宜フィードバックを行います。		

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

看護師として臨床経験を持つ専任教員が担当し、周術期における患者・家族の看護について学び、実技演習を通して実践力を身につけられるよう展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-INS-06				
	●	●								
科目名	健康状態別看護Ⅲ				単位認定者	阿部 春美 遠藤 美穂子		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内 課題等	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	終末期における患者と家族のQOL維持・向上のために、身体・精神症状、社会的苦痛に対する緩和ケア、死の受容プロセス、臨死期における身体徴候と看護援助、悲嘆と悲嘆のプロセス・グリーフケアなどの援助技術などを学び、終末期にある患者と家族への看護実践の基礎的知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 終末期にある患者・家族の特徴を説明できる。</li> <li>2. 死の受容プロセスを発達段階の特徴を含めて説明できる。</li> <li>3. 緩和ケアの定義、身体・精神症状、社会的苦痛に対する看護援助について説明できる。</li> <li>4. 臨死期における身体徴候と看護援助・について説明できる。</li> <li>5. 悲嘆と悲嘆のプロセス、グリーフケアについて説明できる。</li> <li>6. 死亡時のケアの目的、故人や家族の希望に配慮した方法について説明できる。</li> <li>7. 様々な終末期事例（高齢者、小児、母性、精神）を通して、終末期にある患者・家族への援助について具体的に述べるができる。</li> </ol>									
学修者への期待等	超高齢化社会において、終末期医療はさらに重要性を増してきます。終末期医療における看護の役割を理解し、対象者が安心してその人らしく人生の終焉を迎えるための看護について学んでいきましょう。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	授業ガイダンス 終末期看護の概念と特徴				【事後】授業内後学び（概ね30分）			阿部 春美		
2	終末期にある患者・家族の理解 アドバンス・ケア・プランニング				【事後】授業内後学び（概ね30分）			阿部 春美		
3	終末期における退院支援・地域連携 療養の場所別にみる終末期看護				【事前】教科書〈終末期看護〉第1編一第3章Ⅲ、第2編一第4章、第5章、を予習して臨むこと（概ね1時間）			阿部 春美		
4	緩和ケアにおける看護の役割①身体的ケア				【事前】教科書〈終末期看護〉第2編一第3章 I～Ⅲを予習して臨むこと（概ね1時間）			小倉 真紀		
5	緩和ケアにおける看護の役割② 精神的ケア、社会的ケア、スピリチュアルケア				【事前】教科書〈終末期看護〉第2編一第3章 IV～Ⅵを予習して臨むこと（概ね1時間）			小倉 真紀		
6	臨死期における症状マネジメントとケア 臨死期前後の看護				【事前】教科書〈終末期看護〉第2編一第6章を予習して臨むこと（概ね1時間）			阿部 春美		
7	グリーフケア、ブリーフメントケア				【事前】第2回授業の振り返り及び教科書〈終末期看護〉第2編一第5章を予習して臨むこと（概ね1時間）			遠藤 美穂子		
8	がん患者の終末期看護 非がん疾患患者への終末期看護				【事前】教科書〈終末期看護〉第2編一第7章 I～Ⅲを予習して臨むこと（概ね30分）			遠藤 美穂子		
9	【グループワーク】 健やかに老い、安らかに永眠するを支える看護 死期を受容したところのありようを考える				【事後】授業内後学び（概ね40分）			桑田 恵美子		
10	高齢者の尊厳を支える看取り エンド・オブ・ライフ・ケア				【事後】授業内後学び（概ね40分）			桑田 恵美子		

回	授業計画	準備学修	担当
11	子どもとその家族への終末期看護 子どもの死への理解/終末期にある子どもとその家族の理解/子どもとその家族への看護	【事前】教科書〈小児看護学[1]〉第3章Dを予習し臨むこと（概ね1時間程度）	武田 美奈子
12	母性 マタニティサイクルにおける終末期看護（児を亡くした褥婦・家族の看護） 流産、死産、新生児死などによって児を亡くした褥婦への身体的ケアと別れの支援、家族へのケア	【事前】流産、死産の定義と病態、看護について予習しておくこと（概ね1時間程度）	坂村 佐知
13	精神疾患患者の終末期看護 長期入院患者の事例から	【事前】精神看護学援助論Ⅱ・統合失調症（慢性期）の症状、治療と看護の学習内容を復習しておくこと（概ね1時間）	足立 健一 阿部 幹佳
14	【グループワーク】 事例検討：終末期医療における倫理的課題①	【事前】教科書〈終末期看護〉第1編一第4章を予習して臨むこと（概ね30時間）	遠藤 美穂子
15	【発表】 事例検討：終末期医療における倫理的課題② まとめ	【事後】授業後の学び（概ね30分）	遠藤 美穂子
教科書	「新体系看護学全書 経過別成人看護学④ 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア」 田村恵子著、メヂカルフレンド社 「ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害」堀井ふき他編集、MCメディカ出版 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学[1]小児看護学概論/小児看護学総論」奈良間美保他著、医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ母性看護学[2]母性看護学各論」森恵美他著、医学書院		
参考文献	「看護学テキストNiCE 老年看護学概論」正木治恵・真田弘美編、南江堂 「精神に病を持つ人の看取り その人らしさを支える手がかり」田代誠他編、精神看護出版 「ナーシング・スキル」エルゼビア・ジャパン株式会社		
備考	* 授業内課題は次回の授業時にフィードバックする。 * 授業内課題及び授業後課題は評価の対象となる。		

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

看護師として実務経験を持つ教員が担当する。ライフステージや健康段階に応じた終末期にある患者・家族の援助を学ぶため、各領域の教員が担当する領域横断とする。また、精神疾患患者の終末期看護は、臨床看護師を招聘し精神科病棟における看護の現状と必要な看護を学ぶ機会とする。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-ANS-02			
	●	●							
科目名	成人看護学援助論 I				単位認定者	岡崎 優子		試験(筆記)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	授業内課題	30 %
							授業時間数	60 時間	受講態度
				授業形態	演習	授業回数		30 回	
授業の概要	慢性期にある患者と家族の特徴、慢性疾患の治療と看護、リハビリテーション看護、がん患者と家族の看護、慢性期の代表的な事例についての看護援助、患者のセルフケアを促進するための技術（インスリン自己注射手技、血糖自己測定、透析内シャント管理、心電図、自己検脈、ペースメーカーの管理、呼吸リハビリテーション）、看護職に必要な放射線の基礎知識や看護の役割を学び、成人期の慢性疾患および慢性的な健康課題を有する人を援助するための基礎的能力を身につける。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>慢性期にある患者と家族の特徴、慢性疾患の治療と看護（セルフケア・自己管理への看護、社会的支援の獲得）について理解できる。</li> <li>リハビリテーションの特徴、障害に対する受容と適応への看護について理解できる。</li> <li>がん患者と家族の抱える苦痛・生活上の困難、がん治療（化学療法、放射線療法、集学的治療と看護、社会誠意参加への支援（環境と阻害要因）について理解できる。</li> <li>看護職に必要な放射線の基礎、放射線を用いた検査・治療、人への放射線の健康影響・リスク、放射線利用時の被曝に対する防護策が理解できる。</li> <li>慢性期の代表的な事例（呼吸、循環、脳・神経、栄養摂取・消化、代謝、内部環境調整、造血器、生体防御、運動、排泄、感覚機能障害）についての具体的な看護が理解できる。</li> <li>患者のセルフケアを促進するための技術（インスリン自己注射技術、血糖自己測定、透析内シャント管理、心電図、自己検脈、ペースメーカーの管理、呼吸リハビリテーション）ができる。</li> </ol>								
学修者への期待等	<ol style="list-style-type: none"> <li>常に“何故？”という問題意識をもって積極的に授業に臨むよう要望する。</li> <li>成人看護学援助論は看護実践能力を養うことを目標にしており、基本から積み重ねた学修が必要となる。1年次の「病態治療学Ⅰ～Ⅳ」、「成人看護学概論」の復習をして、授業に望んでほしい。</li> </ol>								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	【講義】ガイダンス、慢性期看護とは				教科書①（慢性期看護、慢性疾患を有する人とその家族の援助）を予習して臨むこと（概ね1時間）			岡崎 優子	
2	【講義】慢性疾患を有する人と家族への援助							岡崎 優子	
3	【講義】慢性疾患を有する患者のセルフケア、自己管理の看護（セルフマネジメント、学習理論を活用した面接）				成人看護学概論、健康状態別看護Ⅰ（成人期）について復習すること（概ね1時間）			岡崎 優子	
4	【講義】リハビリテーション看護（リハビリテーションの特徴、障害受容と適応の心理過程と看護）				成人看護学概論、病態治療学Ⅰ（リハビリテーション療法）について復習すること（概ね1時間）			阿部 春美	
5	【講義】栄養摂取・消化に問題のある患者の看護 事例：胃・十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎、クローン病				教科書①（消化器系の障害を有する人とその家族の援助）を予習して臨むこと（概ね1時間）			岡崎 優子	
6	【講義】栄養摂取・消化に問題のある患者の看護 事例：慢性膵炎、肝炎、肝硬変							岡崎 優子	
7	【講義】循環器系に問題のある患者の看護 事例：虚血性心疾患、慢性心不全				教科書①（循環器系の障害を有する人とその家族の援助）を予習して臨むこと（概ね1時間）			阿部 春美	
8	【講義】循環器系に問題のある患者の看護 事例：不整脈、高血圧							阿部 春美	
9	慢性期患者への看護技術1 心電図				演習資料を事前学修してくること（概ね1時間）			岡崎 優子	
10	【講義】内部調節機能に問題のある患者の看護 事例：内分泌機能障害				教科書①（代謝・内分泌系の障害を有する人とその家族の援助）を予習して臨むこと（概ね1時間）			岡崎 優子	
11	【講義】代謝系に問題のある患者の看護 事例：糖尿病、脂質代謝異常症							岡崎 優子	
12	慢性期患者への看護技術2 インスリン療法				演習資料を事前学修してくること（概ね1時間）			岡崎 優子	
13	慢性期患者の看護技術3 自己血糖測定				演習資料を事前学修してくること（概ね1時間）			岡崎 優子	

回	授業計画	準備学修	担当
14	【講義】排泄機能に問題のある患者の看護 事例：慢性腎臓病、腎不全、前立腺がん、膀胱がん	教科書①（腎・泌尿器系の障害を有する人とその家族の援助）を予習して臨むこと（概ね1時間）	小倉 真紀
15	慢性期患者への看護技術4 透析内シャント管理	演習資料を事前学修してこること（概ね1時間）	岡崎 優子
16	【講義】血液・造血器機能に問題がある患者の看護 事例：再生不良性貧血、白血病	病態治療学Ⅱ（血液免疫系）の復習をしてこること	岡崎 優子
17	【講義】脳・神経系に問題のある患者の看護 事例：脳血管障害、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症	教科書①（脳・神経系の障害を有する人とその家族の援助）を予習して臨むこと（概ね1時間）	小倉 真紀
18	慢性期患者への看護技術5 ペースメーカーの管理、自己検脈、自己血圧測定	演習資料を事前学修してこること（概ね1時間）	岡崎 優子
19	【講義】呼吸器系に問題のある患者の看護 事例：気管支喘息、COPD	教科書①（呼吸器系の障害を有する人とその家族の援助）を予習して臨むこと（概ね1時間）	岡崎 優子
20	【講義】呼吸器系に問題のある患者の看護 事例：肺炎、間質性肺疾患		岡崎 優子
21	慢性期患者への看護技術6 呼吸リハビリテーション	演習資料を事前学修してこること（概ね1時間）	岡崎 優子
22	【講義】がんの動向と看護	事前課題の予習を行い、疑問点を明らかにしておく（概ね1時間）	小倉 真紀
23	【講義】がん治療と看護 がん患者の身体的苦痛、浸襲的治療と看護	教科書②（がん患者の看護、治療）を予習して臨むこと（概ね1時間）	小倉 真紀
24	【講義】がん患者の体験を聞く がん患者・家族の心理・社会的苦痛と援助	講義後課題：「がん患者・家族の心理」について、考察をまとめて提出（概ね3時間）	岡崎 優子 鈴木 辰也
25	慢性期患者の看護技術7 セルフマネジメント支援・相談技術とは	事前課題を学修してこること（概ね1時間）	岡崎 優子
26	慢性期患者の看護技術8 セルフマネジメント支援・相談技術の実際		岡崎 優子
27	【講義】放射線看護 放射線診療の概要と看護職の役割	（放射線利用と看護職の役割）について予習してこること	阿部 春美
28	【講義】放射線診療の安全管理と看護職の関わり	放射線被ばくに伴う健康影響を理解する）について予習してこること	阿部 春美
29	【講義】感覚機能障害のある患者の看護 事例：中途失明、聴覚障害	病態治療学Ⅱ（感覚機能障害）の復習をしてこること（概ね1時間）	岡崎 優子
30	【講義】アレルギー・膠原病・感染症患者の看護 事例：アナフィラキシー、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、HIV	病態治療学Ⅱ（免疫系）の復習をしてこること（概ね1時間）	阿部 春美
教科書	①「看護学テキストNiCE 成人看護学 慢性期看護」鈴木久美編、南江堂 ②「系統看護講座 別巻 がん看護学」小松浩子他著、医学書院 ③「看護学テキストNiCE 成人看護学 成人看護技術」野崎真奈美他編、南江堂		
参考文献	病態治療学Ⅰ～Ⅳの教科書：系統看護学講座 成人看護学Ⅰ～Ⅳ 「経過別看護過程の展開」関口恵子監修、学習研究社		
備考	・授業内課題は次回の授業時にフィードバックする。 ・第9回、12回、13回はA・Bの2クラスに分けて実施する。 ・第9回、12回、13回、15回、18回、21回、25回、26回は上記の担当教員に加え、以下の専任教員、非常勤講師が担当する。 専任教員：阿部春美、伊藤茉莉子、遠藤美穂子、泉田さとみ、小倉真紀 非常勤講師：大石慶子（第9回のみ）、松田郷子（第12回、13回のみ）		

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

看護師として成人期の臨床経験を持つ教員、糖尿病認定看護師による授業を実施する。また、がん患者を招聘して、がん患者・家族に必要な看護を理解することを目指している。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-ANS-03				
	●	●								
科目名	成人看護学援助論Ⅱ				単位認定者	阿部 春美		評価の方法	試験(筆記)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	30 %
				授業形態	演習	授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
						授業回数	15 回			
授業の概要	急性期にある患者と家族の特徴、危機的状態への精神的支援・意思決定支援、救急患者の特徴、主要病態に対する応急処置と看護、急性期に必要な医療機器を装着している人のケアを学び、成人期の急激な健康破綻と回復過程にある人を援助するための成人看護の実践能力を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>急性期にある患者と家族の特徴(身体的・心理的・社会的)が説明できる</li> <li>危機的状態への精神的支援・意思決定支援の方法について説明できる</li> <li>救急患者の特徴、救急看護体制について説明できる</li> <li>救急患者の観察と主要病態に対する応急処置と看護について説明できる</li> <li>救急時の看護に必要な技術を理解し、模擬患者もしくはモデル人形に対し実施できる</li> <li>急性期に必要な医療機器を装着している人のケアについて、模擬患者もしくはモデル人形で指導の下に実施できる</li> </ol>									
学修者への期待等	成人看護学援助論は実践能力を養うことを目標にしており、関連科目の学びを積み重ねた学修が必要となります。シミュレーターや看護モデルを有効に活用し、主体的に学修しましょう。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	【講義】ガイダンス 急性期看護概論				【事前】教科書①第1部(急性期看護概論)を予習して臨むこと				阿部 春美	
2	【講義】救急医療・集中治療の現状と看護				【事前】教科書②第Ⅰ～Ⅲ章を予習(概ね30分) 【事後】小テスト(概ね30分)				阿部 春美	
3	【講義】救急患者に対するアセスメント・援助、家族に対する援助				【事前】教科書②第Ⅳ章を予習(概ね30分) 【事後】小テスト(概ね30分)				阿部 春美	
4	【講義】事例で考える急性期看護① 救急患者の主要病態(ショック、体温異常、外傷、熱傷、中毒)				【事前】教科書②第Ⅷ章を予習(概ね1時間) 【事後】小テスト(概ね30分)				阿部 春美	
5	救命救急処置：心肺蘇生と救命処置				【事後】課題事例のレポート作成(概ね40分)				泉田 さとみ	
6	救急・集中治療下の看護技術① (一次救命処置：BLS)				2グループに分けて演技演習を行う				泉田 さとみ	
7	救急・集中治療下の看護技術② (止血法、異物除去法、外傷熱傷・熱中症の対応)				【事前】第12回授業の復習。CPRトレーニングボトルを用いて、胸骨圧迫の練習をしてもらうこと。(概ね1時間) 【事後】課題レポート作成(概ね40分)					
8	事例で考える急性期看護② 消化器				【事前】病態治療学Ⅲ「消化器」、健康状態別看護Ⅱ(周手術期看護)を復習(概ね30分) 【事後】小テスト(概ね30分)				泉田 さとみ	
9	事例で考える急性期看護③ 呼吸器				【事前】病態治療学Ⅶ「呼吸器」、健康状態別看護Ⅱ(周手術期看護)を復習(概ね30分) 【事後】小テスト(概ね30分)				泉田 さとみ	
10	事例で考える急性期看護④ 循環器				【事前】病態治療学Ⅱ「循環器」、健康状態別看護Ⅱ(周手術期看護)を復習(概ね30分) 【事後】小テスト(概ね30分)				阿部 春美	
11	事例で考える急性期看護⑤ 頭部、運動器				【事前】病態治療学Ⅴ「運動器、中枢・末梢神経」、健康状態別看護Ⅱ(周手術期看護)を復習(概ね30分) 【事後】小テスト(概ね30分)				泉田 さとみ	
12	事例で考える急性期看護⑥ 生殖器、腎・泌尿器				【事前】病態治療学Ⅳ「泌尿・生殖器」、健康状態別看護Ⅱ(周手術期看護)を復習(概ね30分) 【事後】小テスト(概ね30分)				小倉 真紀	

回	授業計画	準備学修	担当
13	【講義】医療機器の原理と取り扱い方法 輸液ポンプ、シリンジポンプ	【事前】教科書「成人看護技術」の該当する頁を学修すること	相澤 康弘 阿部 春美
14	【講義】医療機器の原理と取り扱い方法 人工呼吸器		相澤 康弘 阿部 春美
15	急性期に必要な医療機器を装着している人の看護 (輸液ポンプ・シリンジポンプ管理、気管吸引)  急性期看護 まとめ	2グループに分けて実技演習を行う  【事前】第13/14回授業を復習してくること(概ね30分) 【事後】小テスト(概ね30分)	泉田 さとみ
教科書	①「看護学テキストNiCE 成人看護学 急性期看護Ⅰー概論・周手術期看護」林直子他編、南江堂 ②「看護学テキストNiCE 成人看護学 急性期看護Ⅱー救急看護・クリティカルケア」佐藤まゆみ他編、南江堂 ③「看護学テキストNiCE 成人看護学 成人看護技術」野崎真奈美他編、南江堂 ④「看護データブック」新井治子編、医学書院 病態治療学Ⅰ～Ⅶで使用したテキスト		
参考文献	「系統看護学講座 別巻 救急看護学」山勢博彰他著、医学書院		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業内課題は次回の授業時またはLMS上でフィードバックします。</li> <li>第6回、7回、15回は上記の担当教員に加え、以下の教員が担当します。 専任教員：阿部春美、岡崎優子、伊藤茉莉子、遠藤美穂子、小倉真紀 非常勤講師：大石慶子、松田郷子</li> </ul>		

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

授業の担当は看護経験を持つ専任教員・非常勤講師があたる。急性期において患者が回復をたどるための援助を理論的に学び、実技演習を通して実践力を身につける。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-GNS-02				
	●									
科目名	老年看護学援助論 I				単位認定者	桑田 恵美子		試験（筆記）	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	50 %
							授業時間数		20 時間	
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	高齢者が住み慣れた地域で生き生きと生活するための援助方法、高齢者の加齢に伴う変化と生活機能への影響、生活機能の評価方法、健康維持と介護予防方法、受療状況に応じた看護、認知症の病態、認知機能検査、多様な生活の場、看護と介護の協働、多職種連携などについて学び、老年看護の実践に必要な基礎的能力を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の「豊かな生」への支援、健康生活の維持への支援を説明できる。</li> <li>2. 高齢者の療養生活の場・受療状況に応じた看護を説明できる。</li> <li>3. 多様な生活の場における高齢者の健康を支える看護について説明できる。</li> <li>4. 認知症について理解を深め、当事者、家族をサポートするための看護師の役割について説明できる。</li> </ol>									
学修者への期待等	日本は、長寿先進国としての新たな挑戦の時を迎えている。老年期の多様性と個別性が拡大し老年看護の果たす役割はますます重要となっている。老化による身体機能の衰えは生活機能へ大きな影響を及ぼし、結果としてQOLを左右する。種々の障害を有しても豊かに生きることを支える看護の役割について考える機会としてほしい。老年期を豊かに生きるとはどのようなことか考える機会となることを期待する。高齢者に関する新聞記事のスクラップや、書籍を多く読むことを期待する。									
回	授業計画				準備学修			担当者名		
1	高齢者の「豊かな生」への支援 高齢者の健康生活の維持への支援				【事後】 小テスト・授業後感想（学び） （概ね40分）			桑田 恵美子		
2	高齢者の療養生活の支援 高齢者の特徴から見た治療の場と看護 薬物療法を受ける高齢者への看護				【事後】 小テスト・授業後感想（学び） （概ね40分）			桑田 恵美子		
3	高齢者の療養生活の支援 急性期・回復期・リハビリ期の高齢者への看護				【事後】 小テスト・授業後感想（学び） （概ね40分）			桑田 恵美子		
4	高齢者の療養生活の支援 慢性期の高齢者の看護				【事後】 小テスト・授業後感想（学び） （概ね40分）			桑田 恵美子		
5	受療状況に応じた高齢者の看護 外来を受診する高齢者の看護と検査を受ける高齢者の看護				【事後】 小テスト・授業後感想（学び） （概ね40分）			桑田 恵美子		
6	地域連携における高齢者の退院時の看護				【事後】 小テスト・授業後感想（学び） （概ね40分）			桑田 恵美子		
7	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護 在宅・介護保険施設等				【事後】 小テスト・授業後感想（学び） （概ね40分）			桑田 恵美子		
8	地域で暮らす高齢者の生活を支援する地域包括支援センターの役割				【事後】 授業後感想（学び） （概ね30分）			結城 修子 桑田 恵美子		
9	認知症の人も家族も安心して暮らせる支援 認知症当事者と家族、認知症当事者と家族の会から学ぶ				【事後】レポート課題 ①認知症当事者、家族の講話より学んだことをまとめる ②当事者、家族をサポートするための看護師の役割を8回目の授業と合わせまとめる（概ね3時間）			若生 栄子 当事者と家族 桑田 恵美子		
10	【グループワーク】 認知症の人も家族も安心して暮らせる支援				【事後】 小テスト（概ね30分）			桑田 恵美子		
教科書	「ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害」堀井ふさ他編集、MCメディア出版 「ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践」堀井ふさ他編集、MCメディア出版 「国民衛生の動向 2021/2022」厚生労働統計協会									
参考文献	「看護学テキストNiCe 老年看護学概論」正木治恵・真田弘美編、南江堂 「看護学テキストNiCe 老年看護学技術」正木治恵・真田弘美編、南江堂 令和4年度高齢社会白書：（内閣府 <a href="https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html">https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html</a> ） 公益財団法人 長寿科学振興財団： <a href="https://www.tyojyu.or.jp/index.html">https://www.tyojyu.or.jp/index.html</a>									
備考	授業内課題は小テスト（10%）、授業後の学び（10%）、事後課題レポート（30%）で評価する。 LMSでの授業内課題については、次回講義時にフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

看護師としての実務経験を活用して、高齢者とその家族、老年看護の役割について理解が深められるよう展開する。



学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-GNS-03				
	●	●								
科目名	老年看護学援助論Ⅱ				単位 認定者	菅原 尚美 東海林 美幸		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	40 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	高齢者に特有な症状・疾患・障害(廃用症候群・脱水症・摂食・嚥下障害、低栄養・フレイル、便秘・下痢、睡眠障害、歩行障害・転倒・転落、視覚・聴覚障害、皮膚障害、せん妄、感染症)と生活への影響、アセスメント、予防と援助方法について学び、老年看護の実践能力を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者に特有な症候・疾患・障害について、病態と要因、生活への影響、アセスメント、予防と援助について説明できる</li> <li>2. 高齢者に特有な症候・疾患・障害(摂食・嚥下障害)についてアセスメント、予防と援助について実施できる</li> <li>3. 高齢者に特有な症候・疾患・障害(歩行障害・転倒・転落)についてアセスメント、予防と援助について実施できる</li> <li>4. 高齢者に特有な症候・疾患・障害(皮膚障害)についてアセスメント、予防と援助について実施できる</li> </ol>									
学修者への期待等	老年看護の役割は高齢者一人ひとりがその人らしく最後まで生を全うするのを支えることです。本科目で高齢者に特有な症状・疾患・障害と生活への影響を関連させて学修することが、老年看護の実践力を身につける基盤となります。すでに学修している高齢者の加齢変化(身体的・精神的・社会的)をふまえて、高齢者の症状・疾患・障害と生活への影響とを関連付けてアセスメントする力を修得して欲しいと期待しています。演習はグループで行います。主体的に取り組む態度や、意見交換を通して学び合おうとする姿勢も求めます。									
回	授業計画				準備学修			担当名		
1	【講義】高齢者に特有な症状・疾患・障害と生活への影響 食生活を支える看護：脱水症、摂食・嚥下障害				【事後】 ・授業後学びの提出(30分) ・授業後小テスト(15分)			菅原 尚美		
2	【講義】高齢者に特有な症状・疾患・障害と生活への影響 食生活を支える看護：低栄養・フレイル							菅原 尚美		
3	【講義】高齢者に特有な症状・疾患・障害と生活への影響 排泄を支える看護：尿失禁、便秘・下痢							菅原 尚美		
4	【講義】高齢者に特有な症状・疾患・障害と生活への影響 清潔・衣生活を支える看護：掻痒、感染症							菅原 尚美		
5	【講義】高齢者に特有な症状・疾患・障害と生活への影響 清潔・衣生活を支える看護：褥瘡							菅原 尚美		
6	【講義】高齢者に特有な症状・疾患・障害と生活への影響 活動と休息を支える看護：視覚・聴覚障害							東海林 美幸		
7	【講義】高齢者に特有な症状・疾患・障害と生活への影響 活動と休息を支える看護：睡眠障害、せん妄							東海林 美幸		
8	【講義】高齢者に特有な症状・疾患・障害と生活への影響 歩行・移動を支える看護：歩行障害、転倒・転落							東海林 美幸		
9	【講義】高齢者に特有な症状・疾患・障害と生活への影響 歩行・移動を支える看護：廃用症候群							東海林 美幸		
10	【反転授業】紙上事例の展開に基づく高齢者の援助の実際： 摂食・嚥下障害のアセスメント・予防・援助 討議・発表				【事前】 ・紙上事例の事前学修(1時間)			菅原 尚美 東海林 美幸 桑田 恵美子		
11	【反転授業】紙上事例の展開に基づく高齢者の援助の実際： 摂食・嚥下障害のアセスメント・予防・援助の実際 討議・発表				【事後】 ・事後レポートの作成と提出(1時間)			菅原 尚美 東海林 美幸 桑田 恵美子		
12	【反転授業】紙上事例の展開に基づく高齢者の援助の実際： 歩行障害、転倒・転落のアセスメント・予防・援助 討議・発表				【事前】 ・紙上事例の事前学修(1時間)			東海林 美幸 菅原 尚美 桑田 恵美子		
13	【反転授業】紙上事例の展開に基づく高齢者の援助の実際： 歩行障害、転倒・転落のアセスメント・予防・援助の実際 討議・発表				【事後】 ・事後レポートの作成と提出(1時間)			東海林 美幸 菅原 尚美 桑田 恵美子		
14	【反転授業】紙上事例の展開に基づく高齢者の援助の実際： 皮膚障害のアセスメント・予防・援助 討議・発表				【事前】 ・紙上事例の事前学修(1時間)			菅原 尚美 東海林 美幸 桑田 恵美子		
15	【反転授業】紙上事例の展開に基づく高齢者の援助の実際： 皮膚障害のアセスメント・予防・援助の実際 討議・発表				【事後】 ・事後レポートの作成と提出(1時間)			菅原 尚美 東海林 美幸 桑田 恵美子		
教科書	「ナーシング・グラフィカ 老年看護学②高齢者看護の実践」堀内ふき他編著、メディカ出版 「カラー写真で学ぶ高齢者の看護技術」大塚眞理子編著、医歯薬出版株式会社									
参考文献	「手技と事例で学ぶ 実践！高齢者のフィジカルアセスメントー老化を理解して、異常を見逃さない！」 角濱春美著、メディカ出版 「要点がわかる出題傾向がみえる老年看護学(看護師国家試験対策)」吉村雅世著、PILAR PRESS									
備考	* 授業内課題は次回の授業でフィードバックします。 * 演習は事例を取り上げ、事例を通して各単元ごとの理解を深め、アセスメント力を鍛えます。 * 反転授業とは、知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認の要素を教室で行う授業形態です。事前に授業外で学修を済ませ、授業内で討議、発表を通して意見交換を行うことで学びを深め、かつ主体的な学修ができることを期待します。									
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										
看護師として実務経験がある。高齢者とその家族への臨床経験があり、授業に活用し理解を深めることができる。										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CHN-02				
	●									
科目名	小児看護学援助論 I				単位認定者	飯沼 一字 佐藤 幸子		試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
						授業時間数	20 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	小児特有の疾患の病態・検査・治療に関する基礎的知識とその知識を基に主な疾患の基本的な看護を学び、小児看護の実践に必要な基礎的能力を身につける。									
到達目標	1. 子どもの代表的疾患について、病態・治療が理解できる。 2. 1の知識を基に、その疾患や子どもの特徴に合わせた看護が説明できる。									
学修者への期待等	1年次に学んだ人体構造と機能を十分理解し、それを基に疾患について病態を考える態度で授業に臨むことを期待する。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	小児科とは 先天異常・遺伝病 新生児疾患				【事前】小児が大人（成人）とどのように異なるかを十分に理解すること。小児医療の概要を理解する。胎児の発達、遺伝の仕組み、新生児特有の生態を理解すること。（概ね30分以上） 【事後】小テスト			飯沼 一字		
2	呼吸器・循環器疾患				【事前】小児の呼吸機能、循環動態について理解しておく。（概ね30分以上） 【事後】小テスト			飯沼 一字		
3	免疫・アレルギー疾患・自己免疫疾患				【事前】基礎医学で学んだ免疫の仕組みを十分に理解しておく。（概ね30分以上） 【事後】小テスト			飯沼 一字		
4	感染症				【事前】感染症とはなにか。人類と感染症の相互関係について理解しておく。（概ね30分以上） 【事後】小テスト			飯沼 一字		
5	消化器・代謝性疾患・内分泌疾患				【事前】消化器の構造、機能および内分泌の仕組みについて理解しておく。（概ね30分以上） 【事後】小テスト			飯沼 一字		
6	血液・腫瘍疾患				【事前】血液の役割、成分、腫瘍とは何か（悪性と良性の相違）を理解しておく。（概ね30分以上） 【事後】小テスト			飯沼 一字		
7	腎・泌尿器および生殖器疾患				【事前】腎臓の構造と機能を理解しておく。（概ね30分以上） 【事後】小テスト			飯沼 一字		
8	神経・筋・運動器疾患・精神疾患				【事前】脳の発達、中枢・末梢神経および関節の構造と機能を理解しておく。こころの問題について自分と他人との関係など思いめぐらせておく。（概ね30分以上） 【事後】小テスト			飯沼 一字		
9	呼吸器・循環器疾患をもつ子どもとその家族への看護				【事前】教科書の第7章・8章を予習して臨む（概ね1時間）			佐藤 幸子		
10	精神疾患（主に発達障害）をもつ子どもとその家族への看護				【事前】教科書の第18章を予習して臨む（概ね1時間）			佐藤 幸子		
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論」奈良間美保他著、医学書院									
参考文献	「こどもの病気の地図帳」鴨下重彦他監修、講談社 「発達段階からみた 小児看護過程」石黒彩子他編、医学書院									
備考	授業内課題（小テスト）については、授業内でフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）**

この授業では代表的疾患の病態・治療を理解した上で各疾患への基本的な看護を学修する。そのため教員は、医療者として小児医療に携わった実務経験を活かし病態治療・看護を教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CHN-03				
	●	●								
科目名	小児看護学援助論Ⅱ				単位認定者	武田 美奈子 岡崎 草代夏		試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度
							授業回数		15 回	
授業の概要	小児に多く見られる症状（発熱・脱水・痙攣・呼吸困難・痛み）、経過別（急性期（事故対応救急対応含む）・慢性期）、特殊な状況（隔離・安静・虐待）におけるアセスメントの視点や小児特有の援助技術の方法（一次救命処置・プレパレーション・与薬方法・持続点滴管理・身体抑制等）を学び、小児看護の実践能力を身につける。									
到達目標	1. 小児の健康障がいによって生じる問題を適切にアセスメントし、その援助方法が説明できる。 2. 小児に対して行う援助技術の方法を理解し、モデル人形等を使って実施できる									
学修者への期待等	小児は同じ援助方法でも注意すべき点が異なるため、よく小児の特徴を理解して学修して欲しい。そのため小児看護学概論・小児看護学援助論Ⅰなど既習の知識を復習し、根拠を確認しながら学んでいく事を臨む。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	【講義】 授業ガイダンス 子どもにとっての良好な療養環境を整えるための援助 （コミュニケーション・環境整備）				【事前】教科書や書籍・インターネット等を使って小児専門病院・小児病棟のイメージ化して臨む（概ね30分）			武田 美奈子		
2	【講義】 入院中の子ども・家族の理解及び看護 子どもに生じやすい症状への看護Ⅰ （発熱・嘔吐下痢・脱水）				【事前】小児看護学概論で学修した身体的特徴と発熱・下痢嘔吐・脱水の関連性を復習（概ね30分）			武田 美奈子		
3	【講義】 子どもに生じやすい症状への看護Ⅱ （痙攣・痛み・呼吸困難）				【事前】小児看護学概論で学修した身体的特徴と痙攣・呼吸困難の関連性を復習（概ね60分）			武田 美奈子		
4	プレパレーションの実際① グループワーク				【事前】教科書「動画一覧」採血時のプレパレーションを視聴しておく（概ね30分）			佐藤 幸子 武田 美奈子 岡崎 草代夏		
5	プレパレーションの実際② 発表									
6	【講義】 生活制限の必要な子どもとその家族への看護 （感染予防・隔離中の看護）				【事前】教科書各論の第6章A③を予習して臨む（概ね60分）			武田 美奈子		
7	【講義】 外来における子どもと家族への看護				【事前】教科書総論の第2章B外来における子どもと家族の看護を読み、小児外来のイメージを持って臨む（概ね60分）			岡崎 草代夏		
8	【講義】 急性期にある子どもとその家族への看護				【事前】教科書総論の第3章Bを読み急性期の概念を復習し、急性期にある子どもとその家族の気持ちを考えて臨む（概ね30分）			岡崎 草代夏		
9	小児の救急蘇生法				【事前】教科書総論の第6章⑩を読み予習、さらに「動画一覧」救命処置を視聴しておく（概ね60分）			佐々木 重徳 佐藤 幸子 武田 美奈子 岡崎 草代夏		
10	【講義】 慢性期にある子どもとその家族への看護				【事前】教科書総論の第3章Aを読み慢性期の特徴を捉え、慢性期にある子どもとその家族の気持ちを考えて臨む（概ね30分）			武田 美奈子		
11	【講義】 検査・処置を受ける子どもの看護 （与薬・輸液管理・抑制・検体採取他）				【事前】教科書総論の第6章A～C⑨までを読み予習し、検査・処置を受ける子どもの気持ちを考えて臨む（概ね60分）			岡崎 草代夏		

回	授業計画		担当
12	治療・処置に対する援助技術の実際① 診察・検査時の安全安楽な援助	【事前】事前学習ワークシートを学修のうえ臨む（概ね60分程度） 【事後】学びを整理しレポートを提出（概ね60分）	佐藤 幸子 岡崎 草代夏 武田 美奈子 佐藤 理恵 坂村 佐知 鹿野 ひとみ
13	治療・処置に対する援助技術の実際② 持続点滴中の看護・与薬の工夫、子ども体験他		
14	【講義】特殊な状況にある子どもとその家族への看護 児童虐待	【事前】教科書総論の第8章を読み予習して臨む（概ね60分）	佐藤 幸子
15	【講義】特殊な状況にある子どもとその家族への看護 先天的健康障がい・心身障がいの子どもとその家族への看護	【事前】教科書総論の第7章を読み予習して臨む（概ね60分）	武田 美奈子
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学 [1] 小児看護学概論/小児臨床看護総論」奈良間美保他著、医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学 [2] 小児臨床看護各論」奈良間美保他著、医学書院		
参考文献	「根拠と事故防止からみた小児看護技術」浅野みどり編集、医学書院 「ナーシング・グラフィカ 小児看護学(1)：小児の発達と看護」中野綾美編、MCメディカ出版 「ナーシング・グラフィカ 小児看護学(2)：小児看護技術」中野綾美編、MCメディカ出版 「写真でわかる小児看護技術」山元恵子監修、インターメディカ		
備考	※授業内課題は次回の講義時にフィードバックする。 ※演習はABの2クラス編成で行う。		

※以下は該当者のみ記載する。

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

この授業では、小児看護を実践するために必要な知識・技術・態度を学修する。そのため教員は医療従事者での実務経験を活かし、臨床現場で活用できる授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-WHN-02			
	●								
科目名	母性看護学援助論 I				単位認定者	佐藤 理恵		試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	授業内課題	20 %
						授業時間数	20 時間	受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	10 回		
授業の概要	女性のライフステージ各期の特徴的な女性生殖器疾患の病態・検査・治療、看護の役割と責務、看護実践するために必要な基礎的知識、周産期（妊娠期・分娩期）の正常経過を学び、母性看護の実践に必要な基礎的能力を身につける。								
到達目標	1. 女性生殖器の構造と機能を理解する。 2. 女性生殖器疾患の病態生理・検査方法・治療方法を理解する。 3. 女性生殖器疾患を持つ患者の看護を考えることができる。 4. 正常な妊娠・分娩経過を理解する。								
学修者への期待等	人体構造と機能Ⅲ・母性看護学概論で学んだ知識を想起しながら、病態生理・治療・看護を関連付けて理解できるよう努力してほしい。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	女性生殖器の構造と機能 性周期と性ホルモン				【事前】生殖器の各部位の名称と解剖学的位置関係を復習して臨む（概ね1時間）			新川 尹	
2	症状とその病態生理				【事前】教科書①第3章を予習して臨む（概ね30分）			新川 尹	
3	診察・検査と治療・処置				【事前】教科書①第4章を予習して臨む（概ね1時間）			新川 尹	
4	性成熟・生殖とその異常 性分化のメカニズム、性分化疾患、妊娠の成立、不妊症、不育症、異所性妊娠、出生前診断、避妊、性交障害他				【事後】各疾患の病態を理解し、診断・検査・治療方法を復習する（概ね1時間）			新川 尹	
5	女性生殖器の疾患 子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌他							新川 尹	
6	加齢に伴う変化とその異常 脂質異常、閉経、骨粗鬆症、更年期障害、外陰炎、萎縮性膣炎、骨盤臓器脱、下部尿路障害他							新川 尹	
7	女性生殖器の疾患看護				【事前】思春期・成熟期・更年期・老年期の特徴を復習して臨む（概ね1時間）			佐藤 理恵	
8	妊娠の生理 I 妊娠期の身体的特性				【事前】教科書②第3章を予習して臨む（概ね1時間）			新川 尹	
9	妊娠の生理 II 妊娠期の検査とその目的							新川 尹	
10	分娩の生理 分娩の要素				【事後】分娩の三要素を復習する（概ね1時間）			坂村 佐知	
教科書	①「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [9] 女性生殖器」末岡浩他著、医学書院 ②「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論」森恵美他著、医学書院								
参考文献	「病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科」医療情報科学研究所編、メディックメディア 「病気がみえる vol.10 産科」医療情報科学研究所編、メディックメディア								
備考	授業内課題（小テスト等）は次回の講義時にフィードバックする。								

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）**

長年医療者（医師・助産師）として、婦人科・周産期に携わった教員が実務経験を生かし、病態生理と治療・看護について教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-WHN-03					
	●	●									
科目名	母性看護学援助論Ⅱ				単位認定者	坂村 佐知 佐藤 理恵		試験(筆記)	60	%	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	30	%
							授業回数		30 時間	受講態度	10
				授業形態	演習	15 回					
授業の概要	周産期の正常経過と正常からの逸脱の知識、妊婦・産婦・褥婦および新生児の特徴と支援方法(レオポルド触診法・胎児心拍聴取・育児技術・新生児観察・沐浴)及びセルフケア能力が維持・促進できる支援方法を学び、母性看護の実践能力を身につける。										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の正常な経過と逸脱について理解できる。</li> <li>2. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の特徴を学び、その看護について理解できる。</li> <li>3. 妊婦・産婦・褥婦のセルフケア能力が維持・促進できる看護支援について理解できる。</li> <li>4. 妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族の看護支援方法が理解できる。</li> </ol>										
学修者への期待等	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰで学んだことを復習して授業に臨み、母子双方からの視点で捉えることができるように学修を深めて欲しい。また、母性看護学特有の看護援助技術について、積極的に学修する姿勢で臨むことを期待する。										
回	授業計画				準備学修				担当		
1	【講義】授業ガイダンス 妊娠期における看護 妊娠期の心理・社会的特性/妊婦と家族の看護				【事前】妊娠期の身体的変化を復習して授業に臨む(概ね1時間)				佐藤 理恵		
2	【講義】妊娠期の異常と看護 ハイリスク妊娠、妊娠期の感染症、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、切迫流産、妊娠貧血他				【事前】教科書第7章(P.380-422)を予習して授業に臨む				佐藤 理恵		
3	分娩期における看護 分娩第1～4期の産婦・胎児、家族のアセスメントの実際				【事前】正常な分娩経過を復習して授業に臨む(概ね1時間)				坂村 佐知		
4	【講義】分娩期の異常と看護 分娩3要素に関する異常、異常出血、産科処置・手術、胎児機能不全他				【事前】教科書第7章(P.423-489)を予習して授業に臨む(概ね1時間)				坂村 佐知		
5	妊婦・産婦の看護にかかわる実技の実際① レオポルド触診法、胎児心拍聴取、妊婦体験				【事前】レオポルド触診法・胎児心拍聴取部位を事前学修して演習に臨む(概ね1時間)				坂村 佐知 佐藤 理恵 武田 美奈子 岡崎 草代夏 畑中 晶子		
6	妊婦・産婦の看護にかかわる実技の実際② 妊娠経過表作成、産痛緩和法				【事後】演習課題レポートを作成する(概ね1時間)						
7	【講義】産褥期における看護 産褥期の身体的変化、心理・社会的変化				【事前】教科書第6章(P.322-378)を予習して授業に臨む(概ね1時間)				佐藤 理恵		
8	褥婦のアセスメントの実際								佐藤 理恵		
9	【講義】産褥期の異常と看護 子宮復古不全、産褥熱、産褥血栓症、乳腺炎、産後精神障害、下部尿路障害他				【事前】教科書第7章(P.514-535)を予習して授業に臨む(概ね1時間)				佐藤 理恵		
10	【講義】新生児期における看護 新生児の生理				【事前】教科書第5章(P.262-281)を予習して授業に臨む(概ね1時間)				坂村 佐知		

回	授業計画	準備学修	担当
11	新生児のアセスメントの実際	【事前】教科書第5章 (P. 281-320) を予習して授業に臨む(概ね1時間)	坂村 佐知
12	【講義】新生児期の異常と看護 呼吸障害、循環障害、代謝障害、高ビリルビン血症、低出生体重児他	【事前】教科書第7章 (P. 489-514) を予習して授業に臨む (概ね1時間)	坂村 佐知
13	褥婦・新生児の看護にかかわる実技の実際① 育児技術 新生児の抱き方・寝かせ方、衣類の着脱、オムツ交換 授乳姿勢と排気法	【事前】指定された動画を視聴し演習に臨む (概ね30分) 【事後】演習課題レポートを作成する (概ね1時間)	坂村 佐知 佐藤 理恵 武田 美奈子 岡崎 草代夏 畑中 晶子
14	褥婦・新生児の看護にかかわる実技の実際② 新生児の観察・清潔 (沐浴)	【事前】新生児の観察方法と沐浴方法を事前学修して演習に臨む (概ね1時間) 【事後】演習課題レポートを作成する (概ね1時間)	坂村 佐知 佐藤 理恵 武田 美奈子 岡崎 草代夏 畑中 晶子
15	褥婦・新生児の看護にかかわる実技の実際③ 退院に向けての保健指導		
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論」森恵美他著、医学書院		
参考文献	「病気がみえるvol.10 産科」医療情報科学研究所編、メディックメディア 「ウエルネスからみた母性看護過程+病態関連図」佐世正勝・石村由利子編集、医学書院 「ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程」太田操編著、医歯薬出版 「根拠と事故防止からみた母性看護技術」石村由利子編集、医学書院		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 詳細な講義スケジュールについては、第1回講義時に説明する。また、講義との調整のため、演習日程が変更となる可能性がある。</li> <li>・ 演習事前事後課題は指定された日時までに提出する。</li> <li>・ 確認テスト (小テスト) を不定期に実施する。</li> <li>・ 授業内課題は次回の授業時にフィードバックする。</li> <li>・ 第5回、6回、13回、14回、15回の演習はABの2クラス編成で行う。</li> </ul>		

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目 (実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

CLoMiP®レベルⅢ認定アドバンス助産師資格を生かし、臨床での事例を挙げながら母子そしてその家族へ具体的支援について教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地理理解力	NS-2-PMN-02				
	●		●							
科目名	精神看護学援助論 I				単位認定者	濱崎 諒介 阿部 幹佳		試験（筆記）	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	5 %
						授業時間数	20 時間		受講態度	15 %
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	精神的健康問題を持つ人の様々な問題、精神疾患の病態と検査・治療、援助関係の基本および患者-看護師関係の基本的要素と成立の重要性について学び、心のケアが必要な人々に対する精神看護の実践に必要な基礎的能力を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主要な精神疾患の病態と診断・治療について説明できる。</li> <li>2. 看護の対象者を全人的に把握するための看護の視点を理解する。</li> <li>3. 患者-看護師関係の基本的要素と成立の重要性を理解できる。</li> </ol>									
学修者への期待等	精神障害（疾患）と対象者を援助するための看護の基本について学修します。こころの病気は誰でもかかるものです。日頃からこころの病気に関心を持ち、身近な病気だということを授業を通して理解しましょう。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	精神障害の原因と分類				【事前】教科書①P1～22を読む（概ね1時間）			濱崎 諒介		
2	症状性を含む器質性精神障害				【事前】教科書①P37～51を読む（概ね1時間）			濱崎 諒介		
3	精神作用物質使用による精神および行動の障害				【事前】教科書①P59～74を読む（概ね1時間）			濱崎 諒介		
4	統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害				【事前】教科書①P74～88を読む（概ね1時間）			濱崎 諒介		
5	気分（感情）障害				【事前】教科書①P88～98を読む（概ね1時間）			濱崎 諒介		
6	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現障害				【事前】教科書①P99～107を読む（概ね1時間）			濱崎 諒介		
7	生理的障害および身体的要因に関した行動障害				【事前】教科書①P107～112を読む（概ね1時間）			濱崎 諒介		
8	成人のパーソナリティおよび行動の障害／てんかん				【事前】教科書①P112～118、P54～59を読む（概ね1時間）			濱崎 諒介		
9	知的障害／心理発達の障害／小児期及び青年期に発症する行動および情緒の障害				【事前】教科書①P118～130を読む（概ね1時間）			濱崎 諒介		
10	患者-看護師関係の成立 ・治療の場の人間関係 ・患者-看護師関係で起こること				【事前】教科書②P26～29、P172～175を読む（概ね1時間）			阿部 幹佳		
教科書	①「学生のための精神医学」太田保之他編、医歯薬出版株式会社 ②「ナーシング・グラフィカ 精神看護学②：精神障害と看護の実践」出口禎子他編、MCメディカ出版									
参考文献	「看護のための精神医学」中井久夫他著、医学書院									
備考	授業内課題は次回の授業時にフィードバックします。									

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）**

（濱崎）医師としての資格と臨床経験より、精神疾患及び障害について学生の理解を深められるような授業を行う。  
（阿部）看護師としての資格、経験より、精神科看護の実際を具体的に説明する。



学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-PMN-03				
	●		●	●						
科目名	精神看護学援助論Ⅱ				単位認定者	阿部 幹佳		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	受講態度
				授業回数		15 回				
授業の概要	精神看護実践の知識と技術を学ぶために、主な精神疾患の看護と入院形態、病棟環境の整備と行動制限、暴力への対応、多職種連携の必要性、プロセスレコードの記述を通して自己洞察していくことの重要性について学び、心のケアが必要な人々に対する精神看護の実践能力を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安全な治療環境を提供するための方法を説明できる</li> <li>2. 統合失調症患者、気分障がい患者、精神作用物質使用患者の看護について説明出来る</li> <li>3. 精神疾患・障がいがある者の社会参加への支援について説明出来る</li> <li>4. 精神保健医療福祉における多職種連携の必要性を理解できる</li> <li>5. 自己の傾向を把握するためにプロセスレコードを記載できる</li> </ol>									
学修者への期待等	精神障害(疾患)とそのケアの実際について学修します。精神科看護の対象者を1人の人間として身体、心理、社会・スピリチュアルという全人的視点から捉えられるようになることを期待します。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・治療の場としての精神科病棟</li> <li>・治療的環境とは</li> <li>・治療的人間関係とのかかわり 共感・拒絶・攻撃に対する対応</li> <li>・精神科病棟の環境とリスクマネジメント CVPPP</li> </ul>				【事前】教科書②4章、5章、6章を読む(概ね1時間)			阿部 幹佳		
2	・統合失調症(急性期)の看護				【事前】教科書②1章3、9章2を読む(概ね1時間)			阿部 幹佳		
3	・統合失調症(慢性期)の看護				【事前】教科書②1章、9章2を読む(概ね1時間)			阿部 幹佳		
4	薬物療法と看護				【事前】教科書③6章6を読む(概ね1時間)			阿部 幹佳		
5	精神保健活動と精神科リハビリテーション				【事前】教科書②7章2を読む(概ね1時間)			阿部 幹佳		
6	精神保健活動と社会資源の活用 <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会資源</li> <li>・長期入院患者の退院支援</li> </ul>				【事前】教科書②7章3、4を読む(概ね1時間)			阿部 幹佳		
7	治療を受ける人への看護				【事前】教科書②3章を読む(概ね1時間)			阿部 幹佳		
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気分障害の看護</li> <li>・抑うつ障害と双極性障害の看護</li> </ul>				【事前】教科書②1章4、9章4を読む(概ね1時間)			阿部 幹佳		
9	・精神作用物質使用による行動・障害の看護				【事前】教科書②1章12、教科書①8章を読む(概ね1時間)			阿部 幹佳		
10	不安障害、強迫性障害をもつ人の治療と看護				【事前】教科書②1章5、6、9章5を読む(概ね1時間)			阿部 幹佳		
11	摂食障害、パーソナリティ障害をもつ人の治療と看護 統合失調症とその近縁の疾患をもつ人の看護				【事前】教科書②1章10、14、9章3、6を読む(概ね1時間)			阿部 幹佳		
12	自殺未遂・企図の理解と対応				【事前】教科書②8章を読む(概ね1時間)			阿部 幹佳		
13	【グループワーク、ディスカッション】 ・発達障害をもつ人の支援				【事前】教科書②1章2を読む(概ね1時間)			西田 有吾 阿部 幹佳		
14	精神看護学実習に向けて <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科看護学実習とは</li> <li>・実習記録、カンファレンスの意義</li> </ul>				【事前】教科書②10章1、3、4を読む(概ね1時間)			阿部 幹佳		
15	【演習】 プロセスレコードの実際				【事前】教科書②10章2を読む(概ね1時間) 【事後】レポート課題 プロセスレコード提出			阿部 幹佳		
教科書	<ol style="list-style-type: none"> <li>①「ナーシング・グラフィカ 精神看護学①：情緒発達と精神看護の基本」出口禎子編、MCメディア出版</li> <li>②「ナーシング・グラフィカ 精神看護学②：精神障害と看護の実践」出口禎子編、MCメディア出版</li> <li>③「精神看護学実習ハンドブック」草地仁史他編、中央法規</li> </ol>									
参考文献	「自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード」長谷川雅美・白波瀬裕美編著、日総研									
備考	講義資料として印刷物等を適宜配布します。 授業内課題(レポート)は次回の授業時にフィードバックします。									

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

看護師としての資格、経験より、精神科看護の実際を具体的に分かりやすく説明する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-NIP-01				
	●			●						
科目名	医療安全管理論				単位認定者	阿部 春美		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	50 %
					授業形態	講義	授業時間数		16 時間	
				授業回数		8 回				
授業の概要	医療事故に伴う看護職の法的責任、国の医療安全対策の背景、組織としての医療安全に取り組む意義と体制、ヒューマンエラーの知識を活用した事故防止策、感染症発生動向と感染防止対策の現状、組織における感染管理に関する組織体制、感染管理業務の概要、感染管理認定看護師の役割を学び、医療人としての倫理観に基づく医療安全に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療事故に伴う看護職の法的責任と倫理について説明できる。</li> <li>2. 国の医療安全対策の背景、組織としての医療安全に取り組む意義と体制について説明できる。</li> <li>3. ヒューマンエラーの知識を活用した事故防止策について説明できる。</li> <li>4. 組織における感染管理に関する組織体制、感染管理業務の概要を説明できる。</li> </ol>									
学修者への期待等	医療安全に関する社会の動きや日常のヒューマンエラーに関心を持ち、臨地実習のイメージを基に主体的に学修して欲しい。									
回	授業計画				準備学修					
1	医療安全の意義と重要性				【事後】小テスト・授業後学び(概ね30分)					
2	医療安全へ取り組みと医療の質評価				【事後】「医療事故の患者家族から看護学生へのメッセージ」を読みレポートを作成。(概ね1時間)					
3	事故発生メカニズムとリスクマネジメント				【事前】配布課題「過去の主となる医療事故」について学習し、疑問点をレポートにまとめる(概ね1時間)					
4	チーム取り組む安全文化の醸成				【事後】小テスト・授業後学び(概ね30分)					
5	【グループワーク】 看護業務に関連する事故と安全対策① (患者取り違え、与薬事故他)				【事前】日本の医療事故の記事から看護師が関わった事例を1つ取り上げ、その原因・経緯・結果・対策についてまとめる。(概ね2時間) 授業後提出あり					
6	【グループワーク】 看護業務に関連する事故と安全対策② (療養上の世話に関する事故他)									
7	医療従事者の安全を脅かすリスクと対策				【事後】小テスト					
8	【シミュレーション】 医療安全及び感染予防に関する危険予知トレーニング 医療安全管理論のまとめ				【事後】危険予知トレーニング事例の課題レポート作成(概ね1時間)					
教科書	「ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践②：医療安全」松下由美子他編 MCメディカ出版									
参考文献	授業内で適宜紹介します。									
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題について調べ主体的に学修に参加するアクティブラーニングを取り入れながら授業を進める。</li> <li>・授業内課題は次回の授業時フィードバックする。</li> </ul>									

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

医療安全管理者、病院看護管理者、認定看護管理者の経験を生かして、医療安全の基本を一緒に学んでいく。

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
	●	●			●

科目ナンバリング
NS-2-NIP-02

科目名	災害看護				単位認定者	高橋 由美 泉田 さとみ		評価の方法	試験（筆記）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	40 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	災害の種類と特徴、災害医療の概要、災害サイクルの特徴と保健医療の役割と看護、災害時のトリアージ、応急処置、搬送法、避難所の開設・運営、要配慮者への対応を学び、災害看護の実践能力を身につける。									
到達目標	1. 災害看護の概要と災害時の看護の役割を理解できる 2. 災害に備えた実践的な対応について理解できる 3. 地域と密着した災害発生時の対応について理解できる									
学修者への期待等	東日本大震災の被災地で災害看護を学ぶにあたり、被災地は基より、地域社会の情勢に関心を向けること。また、応用力、想像力、創造力を発揮し、主体的に学んでほしい。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	【講義】災害・災害看護とは、災害看護の歴史、防災計画とシステム、災害医療の支援、災害に関する法律					【事前】2章-A・Bについて予習しておくこと			高橋 由美	
2	【講義】災害サイクルに応じた看護①災害直後と急性期					【事前】2章-C・D①について予習しておくこと			泉田 さとみ	
3	【講義】災害サイクルに応じた看護②亜急性期								泉田 さとみ	
4	災害時の看護の実際 災害トリアージ					【事前】これまでの学修内容を復習しておくこと(1時間程度)			高橋 由美	
5	災害時の看護の実際 搬送法									
6	【講義】発災直後から亜急性期の災害看護の実際					【事前】2・3回の授業について復習し、災害直後から災害亜急性期までの健康問題を考えてくること(30分程度)			泉田 さとみ	
7	【講義】災害サイクルに応じた看護③中長期					【事前】2章-D②について予習しておくこと			高橋 由美	
8	【講義】災害とこころのケア					【事前】2章-Fについて予習しておくこと(1時間程度)			阿部 幹佳	
9	災害時の看護の実際 支援者のストレスマネジメント					【事前】平時の自身のストレスへの対処法を考えてくること			阿部 幹佳	
10	【講義】東日本大震災におけるこころのケア活動					【事前】8回の授業について復習しておくこと。参考文献(2)7章-7とともに学修する(1時間程度)、LMS上感想			岡崎 茂 阿部 幹佳	
11	災害時の看護の実際① 実技ガイダンス					【事前】これまでの学修内容を復習しておくこと(1時間程度)			高橋 由美	
12	災害時の看護の実際② 避難所の開設・運営：要援助者への対応								高橋 由美	
13	災害時の看護の実際③ 避難所の開設・運営：生活環境整備									
14	グループワーク・発表準備					【事後】講義・演習を基に考察し、レポートを作成する(3時間程度)			高橋 由美	
15	学修成果発表・まとめ									
教科書	「系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学」浦田喜久子他著、医学書院									
参考文献	「ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践 (3) : 災害看護」酒井明子編、MCメディカ出版 「ナーシング・グラフィカ 精神看護学 (1) 情緒発達と精神看護の基本」出口禎子他編、MCメディカ出版 「ナーシング・グラフィカ 精神看護学 (2) 精神障害と看護の実践」出口禎子他編、MCメディカ出版 「災害看護 心得ておきたい基本的な知識」小原真理子他編、南山堂									
備考	4・5回目、12～15回目の演習担当：泉田さとみ、阿部幹佳、坂村佐知									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
臨床現場、地域・被災者支援の経験を持つ教員が、災害の発生に備えて、地域と密着した災害発生時の対応について教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-NIP-04				
	●									
科目名	看護研究 I				単位認定者	小林 淳子		試験 (レポート)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	40 %
					授業形態	講義	授業時間数		16 時間	
							授業回数		8 回	
授業の概要	看護研究のための倫理原則、文献レビューとその方法、論文作成の方法、論文の構成・記載時の注意点・考察の視点などについて学び、看護研究に取り組むための基礎的知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護研究の意義、方法、研究プロセスを説明できる</li> <li>2. 看護研究における倫理的配慮と倫理原則について説明できる</li> <li>3. テーマに関する文献を検索して整理することができる</li> <li>4. 研究成果を公表する方法について説明できる</li> </ol>									
学修者への期待等	事前にテキストを予習して授業に臨み、授業後は復習して理解を深めてください。3年次開講の「看護研究Ⅱ」を履修する上での基礎となる科目です。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	看護研究導入 研究とは、看護研究の意義・役割				教科書「看護研究とは」を予習して 臨み授業を復習し理解を深める（30 分間程度）			小林 淳子		
2	看護研究のプロセス				配布資料を見直して授業を復習し理 解を深める（30分間程度）			小林 淳子		
3	研究における倫理原則・倫理的配慮				教科書「研究における倫理的配慮」 を予習して臨み授業を復習し理解を 深める（30分間程度）			小林 淳子		
4	看護研究の方法				教科書「研究デザイン」を予習して 臨み授業を復習し理解を深める（30 分間程度）			小林 淳子		
5	ケースレポートと事例研究				教科書「ケースレポート・事例研究 の進め方」を予習して臨み授業を復 習し理解を深める（30分間程度）			小林 淳子		
6	文献検索の意義と方法				教科書「情報の検索と吟味」を予習 して臨み授業を復習し理解を深める （30分間程度）			小林 淳子 坂村 佐知		
7	文献検索の実際				文献を整理して考察したレポートを 作成する（1時間程度）			小林 淳子 坂村 佐知		
8	研究成果の公表 発表、論文・ケースレポート作成				教科書「研究を伝える」を予習して 臨み授業を復習し理解を深める（30 分間程度）			小林 淳子		
教科書	「系統看護学講座 別巻 看護研究」坂下玲子他著、医学書院									
参考文献	「文献レビューのきほん」大木秀一著、医歯薬出版株式会社 「看護にいかす文献検索入門：学び続けるための情報探索スキル」富田美加他著、中央法規									
備考	授業内課題は提出物（毎回の授業）で評価し、適宜フィードバックします。									

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

看護職としての実務経験と研究実績に基づき授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CNP-03			
		●	●	●	●				
科目名	地域・在宅看護論実習 I				単位認定者	小林 淳子		実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	
					授業形態	実習	授業時間数		40 時間
							授業回数		集中
授業の概要	地区視診を通して地域に暮らす様々な対象の健康と生活に関する現状や課題を把握する方法や多様な場、健康段階、発達段階を踏まえた対象のニーズの把握方法を学び、地域・在宅看護の実践に必要な基礎的能力を身につける。								
学修者への期待等	地域で暮らす様々な対象の生活環境や健康との関連をアセスメントし、地域・在宅看護の基礎的な実践能力を身につける実習です。これまで積み上げてきた学修を振り返り、実習の目的を意識して主体的に臨みましょう。								
授業計画									
<p>I. 実習期間：令和5年10月2日（月）～10月6日（金）</p> <p>II. 実習施設：老人福祉センター（台原・高砂・大野田・郡山・泉中央）、障害福祉サービス事業所または障害者小規模地域活動センター、のびすく仙台・のびすく若林</p> <p>III. 実習目的：地域に暮らす様々な対象や活用可能な資源について理解する能力を養う。</p> <p>IV. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域に暮らす様々な対象の健康と生活に関する現状と課題を理解できる。</li> <li>2. 地域に暮らす様々な対象の活用可能な資源を理解できる。</li> <li>3. 看護職を目指す学生として倫理観と責任を認識した行動ができる。</li> </ol> <p>V. 実習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学内実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習オリエンテーション</li> <li>2) 学修成果発表・実習のまとめ</li> </ol> </li> <li>2. 臨地実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 老人福祉センター・フィールドワーク</li> <li>2) 障害福祉サービス事業所または障害者小規模地域活動センター・フィールドワーク</li> <li>3) のびすく仙台またはのびすく若林（母子支援施設）・フィールドワーク</li> </ol> </li> </ol>									
教科書	「ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア」臺有桂他編、MCメディカ出版								
参考文献	「国民衛生の動向 2021/2022」厚生労働統計協会 「看護師のための地域看護学」豊島康子編、ピラールプレス								
備考	詳細は後日配布する実習要項参照 担当者：専任教員 小林淳子、高橋由美、真溪淳子 非常勤講師 中野千加子、加藤真理子、江口美知子								

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

地域看護活動の実務経験を有する教員が地域の多様な看護の場と対象の理解を支援する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CNP-05			
		●	●	●					
科目名	領域横断看護実習				単位認定者	岡崎 優子		実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	3 単位		
					授業形態	実習	授業時間数	120 時間	
							授業回数	集中	
授業の概要	慢性的な健康問題を持つ患者・家族を多面的に理解し、問題解決の系統的アプローチによる看護過程の展開と役割を学び、領域を横断する看護の実践能力を身につける。								
学修者への期待等	基礎看護学や成人看護学概論・成人看護学援助論Ⅰ、老年看護学概論・老年看護学援助論Ⅰでの学修をもとに、実習目的を意識して臨んでほしい。								
授業計画									
<p>I. 実習期間：令和5年8月21日（月）～9月25日（月） 1グループ：3週間</p> <p>II. 実習施設：JCHO仙台病院、イムス明理会仙台総合病院、仙台厚生病院、仙台市立病院、東北医科薬科大学病院、東北医科薬科大学若林病院、宮城県立がんセンター</p> <p>III. 実習目的：慢性的な健康問題や治療によりストレス・危機状況にある患者・家族に対し、既習内容を統合した看護実践能力を身につける。</p> <p>IV. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 慢性的な健康問題を持つ患者の看護過程が展開できる</li> <li>2. 看護過程に基づいた看護実践ができる</li> <li>3. 医療チームの一員としての役割を理解し行動できる</li> <li>4. 看護職を目指す学生としての責任を認識した行動ができる</li> </ol> <p>V. 実習計画：実習スケジュールは、学内実習および病棟実習の計3週間で構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学内実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 領域横断看護実習オリエンテーション</li> <li>2) 慢性的な健康問題にある患者の看護過程の展開と、必要な日常生活援助技術や診療援助技術について、グループワーク演習、全体発表、ビデオ学修、文献学修で学ぶ。</li> </ol> </li> <li>2. 病棟実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学生1名で患者1名を受け持ち、看護過程を展開しながら受け持ち患者の看護について学ぶ。</li> <li>2) 受け持ち患者の看護の方向性を把握し、適切な看護援助方法を提供し、実施した援助を評価するためにカンファレンスを実施する。</li> <li>3) 実習終了後に受け持ち患者に実施した看護援助のプロセスを振り返り、理論的にまとめて発表することにより学生間で学びを共有して考えを深める。</li> </ol> </li> </ol>									
教科書	「看護データブック」新井治子編、医学書院 「看護学テキストNiCE 成人看護学 成人看護技術」野崎真奈美他編、南江堂								
参考文献	オリエンテーションおよび実習中に指示する								
備考	詳細は後日配布する実習要項を参照 担当者：専任教員 岡崎優子、阿部春美、伊藤茉莉子、遠藤美穂子、泉田さとみ、小倉真紀、二口尚美、木下美佐子、竹田理恵、佐藤清湖、佐々木重徳、菅原尚美 非常勤講師 大石慶子、松田郷子、菊池眞紀子、畑中晶子、加藤真理子、江口美知子								

※以下は該当者のみ記載する。

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師の臨床経験を持つ教員が担当する。慢性的な健康問題を持つ人と療養生活を支える人たちに真摯に向き合い、健康とは何か、看護とは何か、さまざまな角度から考える。

# 看護学科

## 3年生

- 学修成果（到達目標）
- カリキュラムマップ
- カリキュラムツリー
- 年間予定表
- シラバス

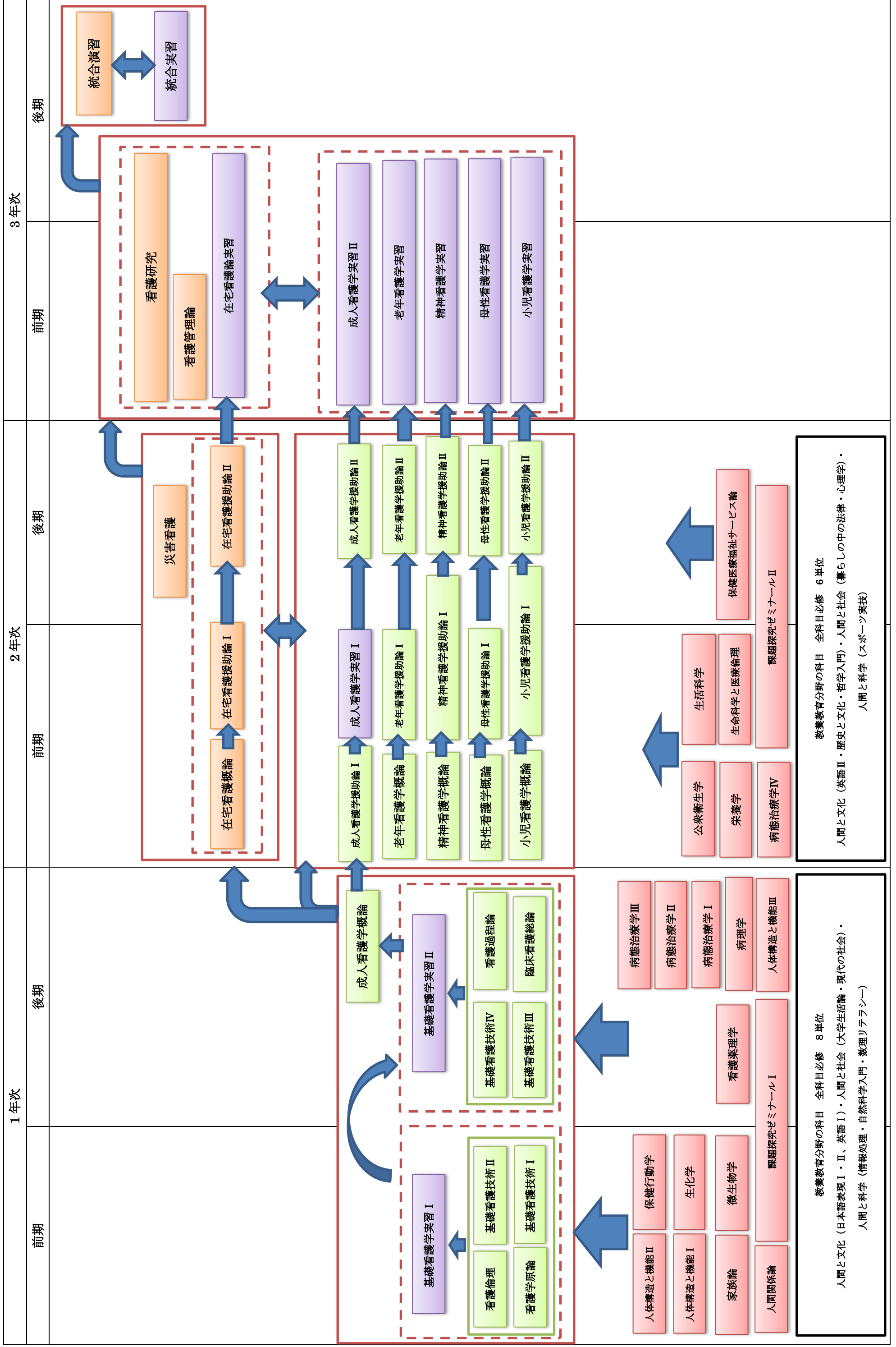
## 学修成果（到達目標）

【2021 年度入学】

- 1 **【基礎力】** 看護の対象であるさまざまな文化的、社会的背景を持つ人々を理解し、接する上で必要な知識を身につける。
  - ①人間を環境との相互作用の中で全体的な統合した存在として捉えることができる。
  - ②人間愛の精神に基づき人間としての在り方、生き方を学び、さまざまな背景を持つ人々を理解できる。
  
- 2 **【実践力】** 疾病の予防や健康の維持・増進、また疾病の回復及び終末期における対象のニーズを正しく捉え、看護問題を適切に解決できる力を養う。
  - ①命と健康を大切にでき、対象の人権の擁護者としての倫理観を身につける。
  - ②健康レベルに応じた対象のニーズを正しく捉え、看護問題を適切に解決できる基本的な能力を身につける。
  
- 3 **【人間関係力】** 変化の激しい社会の中で、看護の専門職として必要とされるコミュニケーション能力やどのような状況や環境に置かれても生き抜いていくための基盤となる能力を養う。
  - ①大学生活を通してコミュニケーション能力と協調性を養い、周囲と良好な人間関係を築くことができる。
  - ②責任感や積極性、柔軟性など自己をコントロールする能力を身につける。
  
- 4 **【生涯学習力】** 生涯にわたり、自主的・自立的な行動ができ、専門職業人として成長し続けられる問題解決できる力を身につける。
  - ①クリティカルシンキングと問題解決力を身につけ主体的な学修ができる。
  - ②自己の看護観を明確にし、専門職業人として自己評価ができ、自己の成長に努める。
  - ③課題を見つけ取り組む能力を身につける。
  
- 5 **【地域理解力】** 多様な文化や社会的背景を理解し、地域社会の諸問題や課題に対応できるための能力を養う。
  - ①変化の激しい社会や地域の特性を理解し、地域社会の諸問題や課題を考察できる。
  - ②地域社会の中での健康問題やその問題を解決するための方法を理解し、地域社会と生活に根差した看護活動をするための能力を養う。



科目区分	授業科目の名称	授業回数	履修年次・学修成果															単位数										
			1年					2年					3年					必修	選択									
			前期	後期	1	2	3	4	5	前期	後期	1	2	3	4	5	前期			後期	1	2	3	4	5			
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法Ⅰ	10	○		●		●	●																	1		
		日本語表現法Ⅱ	10		○	●		●	●																		1	
		英語Ⅰ	10	○		●																					1	
		英語Ⅱ	10									○							●								1	
		歴史と文化	10									○	●					●									1	
		哲学入門	10									○	●					●									1	
	人間と社会	大学生生活論	15		○	●		●	●																		1	
		暮らしの中の法律	10			●					○	●					●										1	
		現代の社会	10	○		●										●											1	
		心理学	10								○	●			●		●										1	
	人間と科学	情報処理	10	○		●	●		●																		1	
		自然科学入門	15	○		●			●																		1	
		数値リテラシー	10	○		●			●																		1	
スポーツ実技		15								○	●					●										1		
専門支持科目	生命科学と医療倫理	10								○	●	●														1		
	人間関係論	10	○		●	●																				1		
	課題探究ゼミナールⅠ	8		○	●	●		●																		1	□	
	課題探究ゼミナールⅡ	8								○	●	●		●												1		
	生活科学	10								○	●	●		●												1		
	家族論	10	○		●	●		●																		1		
	人体構造と機能Ⅰ	15	○		●	●																				1		
	人体構造と機能Ⅱ	15	○		●	●																				1		
	人体構造と機能Ⅲ	15		○	●	●																				1		
	生化学	15	○		●	●																				1		
	微生物学	15	○		●	●																				1		
	看護薬理学	15		○	●	●																				1		
	病理学	15		○	●	●																				1		
	病態治療学Ⅰ	15		○	●	●																				1		
	病態治療学Ⅱ	15		○	●	●																				1		
	病態治療学Ⅲ	15		○	●	●																				1		
	病態治療学Ⅳ	15								○	●	●														1		
	栄養学	8								○	●	●														1		
	保健行動学	8	○		●	●	●	●	●																	1		
	公衆衛生学	8								○	●	●					●									1		
	保健医療福祉サービス論	8								○	●	●				●										1		
	専門教育分野	基礎看護学	看護学原論	23	○		●	●	●	●	●																2	
			看護倫理	8	○		●	●	●	●	●																1	
			臨床看護総論	15		○	●	●	●	●	●																1	
			基礎看護技術Ⅰ	8	○		●	●	●	●	●																1	
			基礎看護技術Ⅱ	30	○		●	●	●	●	●																2	
			基礎看護技術Ⅲ	15		○	●	●	●	●	●																1	
基礎看護技術Ⅳ			30		○	●	●	●	●	●																2		
看護過程論			15		○	●	●	●	●	●																1		
基礎看護学実習Ⅰ		集中	○		●	●	●	●	●																1			
基礎看護学実習Ⅱ		集中		○	●	●	●	●	●																2			
領域別看護学		成人看護学概論	15		○	●	●	●	●	●																2		
		成人看護学援助論Ⅰ	30								○	●	●	●	●	●										2		
		成人看護学援助論Ⅱ	30								○	●	●	●	●	●										2		
		成人看護学実習Ⅰ	集中							○	●	●	●	●	●											3		
		成人看護学実習Ⅱ	集中															○	●	●	●	●	●			3		
		老年看護学概論	8							○	●	●	●	●	●											1		
		老年看護学援助論Ⅰ	8							○	●	●	●	●	●											1		
		老年看護学援助論Ⅱ	23								○	●	●	●	●	●										2		
		老年看護学実習	集中														○	●	●	●	●	●				3		
	小児看護学概論	8							○	●	●	●	●	●											1			
	小児看護学援助論Ⅰ	15								○	●	●	●	●	●										1			
小児看護学援助論Ⅱ	23									○	●	●	●	●										2				
小児看護学実習	集中														○	●	●	●	●	●				2				
母性看護学概論	8							○	●	●	●	●	●											1				
母性看護学援助論Ⅰ	15							○	●	●	●	●	●											1				
母性看護学援助論Ⅱ	23								○	●	●	●	●	●										2				
母性看護学実習	集中														○	●	●	●	●	●				2				
精神看護学概論	8							○	●	●	●	●	●											1				
精神看護学援助論Ⅰ	15								○	●	●	●	●	●										1				
精神看護学援助論Ⅱ	23									○	●	●	●	●										2				
精神看護学実習	集中														○	●	●	●	●	●				2				
専門統合科目	看護管理論	8													○	●	●	●	●	●					1			
	在宅看護概論	8								○	●	●	●	●	●										1			
	在宅看護援助論Ⅰ	8																							1			
	在宅看護援助論Ⅱ	23								○	●	●	●	●	●										2			
	在宅看護論実習	集中														○	●	●	●	●	●				2			
	災害看護	15								○	●	●	●	●	●										1			
	統合演習	30															○	●	●	●	●	●			2			
	統合実習	集中															○	●	●	●	●	●			3			
	看護研究	15														○	●	●	●	●	●				1			
総計(卒業要件100単位)																									100	0		





## 2023年度 看護学科3年生 年間予定表

### 前期

		日	月	火	水	木	金	土					
4月								1					
	2	3	オリエンテーション	4	1	5	1	6 (入学式)	7	1	8		
	9	10	1	11	2	12	2	13	1	健康診断	14	2	15
	16	17	2	18	3	19	3	20	2	21	3	22	
	23	24	3	25	4	26	4	27	3	28	4	29	
	30	1	4	2	5	3		4		5		6	
5月	7	8	領域別実習 5	9	領域別実習	10	領域別実習	11	領域別実習	12	領域別実習	13	
	14	15	領域別実習 6	16	領域別実習	17	領域別実習	18	領域別実習	19	領域別実習	20	
	21	22	領域別実習 7	23	領域別実習	24	領域別実習	25	領域別実習	26	領域別実習	27	
	28	29	領域別実習 8	30	領域別実習	31	領域別実習	1	領域別実習	2	領域別実習	3	
6月	4	5	領域別実習 9	6	領域別実習	7	領域別実習	8	領域別実習	9	領域別実習	10	
	11	12	領域別実習 10	13	領域別実習	14	領域別実習	15	領域別実習	16	領域別実習	17	
	18	19	領域別実習 11	20	領域別実習	21	領域別実習	22	領域別実習	23	領域別実習	24	
	25	26	領域別実習 12	27	領域別実習	28	領域別実習	29	領域別実習	30	領域別実習	1	
7月	2	3	領域別実習 13	4	領域別実習	5	領域別実習	6	領域別実習	7	領域別実習	8	
	9	10	領域別実習 14	11	領域別実習	12	領域別実習	13	領域別実習	14	領域別実習	15	
	16	17		18	領域別実習	19	領域別実習	20	領域別実習	21	領域別実習	22 (保護者会)	
	23	24	領域別実習 15	25	領域別実習	26	領域別実習	27	領域別実習	28	領域別実習	29	
	30	31	領域別実習	1	領域別実習	2	領域別実習	3	領域別実習	4	領域別実習	5	
8月	6	7		8		9		10		11		12	
	13	14		15		16		17		18		19	
	20	21		22		23		24		25		26	
	27	28		29		30		31		1		2	
9月	3	4		5		6		7		8		9	
	10	11	領域別実習	12	領域別実習	13	領域別実習	14	領域別実習	15	領域別実習	16	
	17	18		19	領域別実習	2	領域別実習	3	領域別実習	22	領域別実習	23	
	24	25	領域別実習	26	領域別実習	27	領域別実習	28	領域別実習	29	領域別実習	30	

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。  
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。  
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

## 2023年度 看護学科3年生 年間予定表

後期

		日	月	火	水	木	金	土
10月	1		2 領域別実習	3 領域別実習	4 領域別実習	5 領域別実習	6 領域別実習	7
	8		9	10 領域別実習	11 領域別実習	12 領域別実習	13 領域別実習	14
	15		16 領域別実習	17 領域別実習	18 領域別実習	19 領域別実習	20 領域別実習	21
	22		23 領域別実習	24 領域別実習	25 領域別実習	26 領域別実習	27 領域別実習	28 せいよう祭
	29		30 領域別実習	31 領域別実習	1 領域別実習	2 領域別実習	3	4
11月	5		6 領域別実習	7 領域別実習	8 領域別実習	9 領域別実習	10 領域別実習	11
	12		13	14	15	16	17	18
	19		20 統合演習	21 統合演習	22 統合演習	23	24 統合演習	25
	26		27 統合実習	28 統合実習	29 統合実習	30 統合実習	1 統合実習	2
12月	3		4 統合実習	5 統合実習	6 統合実習	7 統合実習	8 統合実習	9
	10		11 統合実習	12 統合実習	13 統合実習	14 統合実習	15 統合実習	16
	17		18 統合演習	19 統合演習	20 統合演習	21 統合演習	22 統合演習	23
	24		25	26	27	28	29	30
	31		1	2	3	4	5	6
1月	7		8	9	10	11	12	13
	14		15	16	17	18	19	20
	21		22	23	24	25	26	27
	28		29	30	31	1	2	3
2月	4		5	6	7	8	9	10
	11		12	13	14	15	16	17
	18		19	20	21	22	23	24
	25		26	27	28	29	1	2
3月	3		4	5	6	7	8	9
	10		11	12	13	14	15	16
	17		18	19 卒業式	20	21	22	23
	24		25	26	27	28	29	30
	31							

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。  
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。  
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。



学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-FNS-05			
	●	●	●	●	●				
科目名	成人看護学実習Ⅱ				単位認定者	阿部 春美		実習目標到達度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	3 単位	評価の方法	
						授業時間数	120 時間		
				授業形態	実習	授業回数	集中		
授業の概要	<p>「成人看護学概論」「成人看護学援助論Ⅰ」「成人看護学援助論Ⅱ」で学習した看護理論、援助方法を臨地実習場面において体験し、看護の実践に必要な知識・技術・態度を統合的に修得する。</p> <p>手術又は急性期にあるため、ストレス・危機状態にある成人患者・家族を多面的に理解し、看護師と患者の人間関係を基盤に、問題解決の系統的アプローチを通して、心身の侵襲に伴う変化への対応と心身の回復・社会生活への適応が図れるように看護を実践する能力を養う。</p>								
学修者への期待等	既修学修科目で積み重ねた学修を振り返り、目的・目標を意識しながら実習に臨むこと。								
授業計画									
<p>I. 実習期間：令和5年5月15日（月）～11月10日（金） 1グループ:3週間</p> <p>II. 実習施設：JCHO仙台病院、イムス明理会仙台総合病院、仙台市立病院、仙台赤十字病院、東北医科薬科大学病院 東北大学病院</p> <p>III. 実習目的：健康問題や治療によりストレス・危機状況にある成人患者・家族に対し、成人看護学での既修内容を統合した看護実践能力を育成する。</p> <p>IV. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期にある対象の看護過程が展開できる。</li> <li>2. 看護過程に基づいた看護実践ができる。</li> <li>3. 医療チームの一員としての役割を理解し行動できる。</li> <li>4. 看護職を目指す学生としての責任を認識した行動ができる。</li> </ol> <p>※主に外科的治療を受ける患者、身体侵襲が大きい検査等を受ける患者、慢性疾患の急性増悪の患者、呼吸循環状態が変化しやすい患者の看護について学修する。</p> <p>V. 実習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学内実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1)成人看護学実習Ⅱオリエンテーション</li> <li>2)看護過程学習</li> <li>3)看護技術学習</li> </ol> </li> <li>2. 病棟実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1)学生1名で患者1名を受け持ち、看護過程を展開しながら受け持ち患者の看護を実践する。</li> <li>2)実習目標到達に向けて、受け持ち患者の看護の方向性を把握し実施した援助を振り返るために、テーマを決めてカンファレンスを実施する。</li> <li>3)受け持ち患者だけではなく、チームメンバーの受け持ち患者についても情報を共有しながら学びを深める。</li> </ol> </li> </ol>									
教科書	<p>「看護データブック」新井治子編、医学書院</p> <p>「看護学テキストNICE 成人看護学 成人看護技術」野崎真奈美他編、南江堂</p>								
参考文献	オリエンテーションおよび実習中に適宜提示する								
備考	<p>詳細は後日配布する実習要項を参照</p> <p>担当者：専任教員 阿部春美、岡崎優子、伊藤茉莉子、遠藤美穂子、泉田さとみ、小倉真紀</p> <p>非常勤講師 松田郷子、大石慶子</p> <p>※この科目は統合演習及び統合実習の履修要件として単位を修得していることが必須である</p>								

※以下は該当者のみ記載する。

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

成人領域の臨床経験のある教員が実習を担当する。手術または急性期にある成人とその家族の特徴を理解し、個別的状況に応じた健康回復に必要な看護活動を学修する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-FNS-09			
	●	●	●	●	●				
科目名	老年看護学実習				単位認定者	桑田 恵美子		実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	3 単位	評価の方法	
				授業形態	実習	授業時間数	120 時間		
						授業回数	集中		
授業の概要	疾病予防から、健康を逸脱した状態にいたるまで、様々な健康の段階にある高齢者を対象として、医療福祉の連携と実際、および老年看護について実践から学ぶ。								
学修者への期待等	老年期にある人々は、人生の最終段階を生活している。生病老死に関わる苦難に直面しながら、統合に向かって生活している人であり、生涯発達する存在である。老年期にある人が自分らしくありのままの自分を受け入れ、生きる意味を見出すことができるよう支援者としての看護の役割を考えてほしい。高齢者一人ひとりとの出会いを大切にしてほしい。								
授業計画									
<p>I. 実習期間：令和5年5月8日（月）～11月2日（木） 1グループ：3週間</p> <p>II. 実習施設：JR仙台病院、仙台市立病院、仙台西多賀病院、JCHO仙台南病院、坂総合病院、東北医科薬科大学若林病院、JCHO仙台南病院介護老人保健施設</p> <p>III. 実習目的：様々な健康段階にある高齢者を対象に、医療と福祉の連携とその実際および老年看護の役割について実践から学ぶ</p> <p>IV. 実習目標</p> <p>【病棟実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化が理解できる</li> <li>2. 老年期の対象の看護過程の展開を通して、科学的・個別的な看護を実践できる</li> <li>3. 看護の対象や関わりあう人々と建設的な対人関係を築く体験から、専門職業人としての態度を習得できる</li> <li>4. 実習を通して、対象を取り巻く保健医療福祉分野における看護職ならびに関連職種の役割と連携・協働について理解できる（退院支援・退院調整の実際）</li> </ol> <p>【施設実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設の目的・理念、機能、構造、事業概要、災害時の対応が理解できる</li> <li>2. 施設で療養生活を送る高齢者の健康面を身体、精神、社会的側面から理解できる</li> <li>3. 施設における療養生活の場に必要の支援が理解できる</li> <li>4. 施設における関連職種の役割、協働・連携について理解できる</li> <li>5. 施設における家族や地域の関係者との協働・連携について理解できる</li> </ol> <p>【老年看護学実習全体を通して】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習を通して自己の看護観を明確にし、成長できる</li> </ol> <p>V. 実習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学内実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習全体オリエンテーション</li> <li>2) 看護過程学習</li> <li>3) 介護老人保健施設実習に向けて特別講義</li> <li>4) 各サイクル実習終了後、まとめの会を開催する（日程については後日指示する）</li> </ol> </li> <li>2. 臨地実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 病棟実習</li> <li>2) 介護老人保健施設実習</li> </ol> </li> </ol>									
教科書	「看護学テキストNiCE 老年看護学概論」正木治恵他編、南江堂 「看護学テキストNiCE 老年看護学技術」正木治恵他編、南江堂								
参考文献	「日常生活における高齢者のヘルスアセスメント」 educational-video-online 丸善出版株式会社 「カラー写真で学ぶ 高齢者の看護技術」大塚眞理子編著 医歯薬出版 「系統看護学講座 成人看護学Ⅰ～Ⅺ」（病態治療学Ⅰ～Ⅳの教科書） 「生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図」山田律子他編、医学書院 「手技と事例で学ぶ高齢者のフィジカルアセスメント」 MCメディカ出版								
備考	詳細は後日配付する実習要項を参照 担当者：専任教員 桑田恵美子、菅原尚美、東海林美幸 非常勤講師 高橋静子、加藤真理子 大石淳子、日野和基、高橋学（介護老人保健施設実習オリエンテーション） ※この科目は統合演習及び統合実習の履修要件として単位を修得していることが必須である								
※以下は該当者のみ記載する。									
実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）									
看護師として高齢者看護の実務経験をもとに、高齢者とその家族に対して老年看護の役割について理解が深められるよう指導する。									



学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-FNS-13				
	●	●	●	●	●					
科目名	小児看護学実習				単位認定者	武田 美奈子		評価の方法	実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位			
				授業形態	実習	授業時間数	80 時間			
						授業回数	集中			
授業の概要	「小児看護学概論」での知識をもとに健康な子どもに出会い、健全な子どもの成長発達の実際とそれを支援する周囲の人的物的環境について理解する。その上で、「小児看護学援助論Ⅰ」「小児看護学援助論Ⅱ」での知識をもとに、在宅で療養できるように重要な外来看護・健康な子どもがより健康的に成長発達していくための予防接種・乳幼児健診への看護を実際から学ぶ。さらに入院を余儀なくされた子どもの健康回復への援助やその家族に対するの援助・入院による影響を最小にする援助について学ぶ。									
学修者への期待等	実習前に小児看護学概論・小児看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学修した内容を復習し、健康な子ども像・健康障がいをもつ子ども像を描き、必要な看護について学修し臨むこと。 保育所・外来・病棟実習と全てつながりのある実習なので、1つ1つ目標を意識した学びを積み重ねて欲しい。自己の体調管理にも十分努めること。									
授業計画										
<p>I. 実習期間：令和5年5月8日(月)～11月10日(金) 1グループ：2週間</p> <p>II. 実習施設：泉チェリーこども園、泉第2チェリーこども園、西多賀チェリーこども園 仙台赤十字病院、仙台市立病院、宮城県立こども病院、光ヶ丘スペルマン病院、JR仙台病院</p> <p>III. 実習目的：成長発達の途上にある子どもとその家族を看護の対象として理解し、健康障がいの有無にかかわらず、よりよい成長発達をとげるための看護を実践する能力を養う。</p> <p>IV. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>子どもとその家族の人権を尊重し、積極的に関わることができる。</li> <li>子どもの発達段階や健康の段階に合わせた看護が考えられ、小児看護の役割が理解できる。</li> <li>子どもやその家族、実習関係者とコミュニケーションを図り、良好な関係形成に努め、援助が実践できる。</li> </ol> <p>V. 実習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学内実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>実習全体オリエンテーション</li> <li>看護過程学習</li> <li>看護技術学習</li> </ol> </li> <li>臨地実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>保育所実習</li> <li>外来実習</li> <li>病棟実習</li> </ol> </li> </ol>										
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論」 奈良間美保他著、医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論」 奈良間美保他著、医学書院									
参考文献	「こどもの病気の地図帳」鴨下重彦・柳沢正義監修、講談社 「発達段階からみた小児看護過程」石黒彩子・浅野みどり編、医学書院 「写真でわかる小児看護技術」山元恵子監修、インターメディカ 「根拠と事故防止からみた小児看護技術」浅野みどり編集、医学書院									
備考	詳細は後日配布する実習要項を参照 学内カンファレンス・記録提出については教員の指示に従う 担当者：専任教員 佐藤幸子、武田美奈子、岡崎草代夏 非常勤講師 鹿野ひとみ、遠藤昭枝、高橋あつ子、大石慶子 ※この科目は統合演習及び統合実習の履修要件として単位を修得していることが必須である									

※以下は該当者のみ記載する。

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

この授業は、学修した小児看護の知識・技術・態度を実際に対象に合わせ実践する科目である。そのため教員は臨床実務経験を活かし、実践に即した教授を行う。

<b>学修成果</b>	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	●

<b>科目名</b>	母性看護学実習				<b>単位認定者</b>	佐藤 理恵		<b>評価の方法</b>	実習目標達成度	100 %
<b>対象学科 必修・選択 配当年次</b>	看護学科	必修	3年	<b>開講時期</b>	通年	<b>単位数</b>	2 単位			
						<b>授業時間数</b>	80 時間			
				<b>授業形態</b>	実習	<b>授業回数</b>	集中			
<b>授業の概要</b>	母性の特徴を理解し、妊娠・分娩・産褥期にある母子と家族への援助を学習する事を目的とする。具体的には妊婦・産婦・褥婦を観察し、身体的・心理的・社会的特徴を知ることから、変化に応じた看護援助・保健指導のあり方を考える。また産褥期にある母子を受け持ち、個別的な看護援助が展開できるように学習する。さらに次世代を育む家族機能と支援について実習全体から学ぶ。									
<b>学修者への期待等</b>	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期を順調に経過するためには、看護者の的確な観察や習熟した看護技術の提供が必要とされる。母性看護学概論・母性看護学援助論Ⅰ・Ⅱを復習し、知識と技術の再確認をして欲しい。また、日頃接する機会が少ない妊婦・産婦・褥婦・新生児を対象とするので、看護実践の機会を大切に、積極的に実習に臨んで欲しい。									

**授業計画**

- I. 実習期間：令和5年5月8日（月）～11月10日（金） 1グループ：2週間
- II. 実習施設：仙台市立病院、仙台赤十字病院、坂総合病院、松島病院  
のびすく仙台
- III. 実習目的：妊娠・分娩・産褥・新生児期の心身の変化を理解し、対象に必要な看護を実践する能力を養う。
- IV. 実習目標
1. 妊婦・産婦・褥婦・新生児の身体的変化、心理・社会的変化を理解し、個別的な看護アセスメントを行い必要な看護ニーズを説明できる。
  2. 看護過程を通して、母性看護の対象を理解し、対象に必要なセルフケアを中心とした看護支援を実践することができる。
  3. 母子保健に関する法規・制度を理解し、対象者に必要な社会資源の活用方法を説明できる。
  4. 看護実践を通して、母子保健・医療チームの一員としての役割を説明できる。
  5. 看護学生として責任ある行動を取り、主体的な実習態度である。
- V. 実習計画
1. 学内実習
    - 1) 看護過程学習
    - 2) 看護技術学習
  2. 臨地実習
    - 1) 病院実習
      - (1)機能別実習（産科外来・分娩室・褥室・新生児室での看護ケアの実際を学ぶ）
      - (2)受け持ち実習（1組の母子を受け持ち、個別的な看護過程を展開する）
    - 2) 母子支援施設

<b>教科書</b>	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論」森恵美他著、医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論」森恵美他著、医学書院
<b>参考文献</b>	「ウェルネスからみた母性看護過程＋病態関連図」佐世正勝・石村由利子編、医学書院 「ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程」太田操編著、医歯薬出版 「病気がみえるvol.10 産科」医療情報科学研究所編、メディックメディア
<b>備考</b>	詳細は後日配布する実習要項を参照 担当者：専任教員 佐藤理恵、坂村佐知 非常勤講師 畑中晶子 ※この科目は統合演習及び統合実習の履修要件として単位を修得していることが必須である

※以下は該当者のみ記載する。

<b>実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)</b>
母性看護学領域の臨床経験のある教員が実習を担当する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-FNS-21			
	●	●	●	●	●				
科目名	精神看護学実習				単位認定者	阿部 幹佳		実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	
					授業形態	実習	授業時間数		80 時間
							授業回数		集中
授業の概要	精神科病院や精神保健福祉サービスを利用する対象者との関わりを通してこころを病むということを理解し、対象者の抱える問題を共有する中で必要と考えられる看護を実践できる基礎的な能力を身につける。また、かかわりを通して自己理解を深め洞察できる能力を養う。対象者とのかかわりの中で精神障害者が社会の中でどのように受け入れられているのかを学習する。								
学修者への期待等	実習前に精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学修した内容を復習し実習に臨むこと。積極的に対象者とかかわり、自分自身の気づきを通して対象者の理解ができるように努めること。								
授業計画									
<p>I. 実習期間：令和5年5月8日（月）～11月2日（木） 1グループ：2週間</p> <p>II. 実習施設：病院：宮城県精神医療センター、東北会病院、せんだんホスピタル、青葉病院 地域：障害福祉サービス事業所、障害者小規模地域活動センター</p> <p>III. 実習目的：精神科病院や精神保健福祉サービスを利用する対象者とかかわりを通してこころを病むということを理解し、対象者の抱える問題を共有する中で必要と考えられる看護を実践できる基礎的な能力を身につける。</p> <p>IV. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者とかかわりの中で、信頼関係を構築するための看護師－患者関係を考察できる</li> <li>2. 様々な立場の人とかかわりにおいて生じる自分の気持ちを吟味し、自己理解を深める</li> <li>3. 対象者を精神的、身体的、社会的な側面から理解し、対象者が抱えている課題をともに明らかにしていくことの重要性を考察できる</li> <li>4. こころを病む人が地域で生活していく上で求められる看護職の役割を理解する</li> <li>5. 看護職を目指す者として望ましい姿勢で実習に取り組むことができる</li> </ol> <p>V. 実習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学内実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習全体オリエンテーション</li> <li>2) 実習施設についての事前学習</li> <li>3) 実習の振り返りと課題整理</li> </ol> </li> <li>2. 臨地実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 病院実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 患者を受け持ち、プロセスレコードを通して自分自身の対人関係の傾向について考察する</li> <li>(2) 患者の全体像をとらえ、患者に必要な援助を考えることができる</li> </ol> </li> <li>2) 地域施設実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 対象者の地域での生活を理解し、必要な保健・福祉・医療チームとの連携を学ぶ</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol>									
教科書	「ナーシング・グラフィカ 精神看護学(1)：情緒発達と精神看護の基本」出口禎子編、MCメディカ出版 「ナーシング・グラフィカ 精神看護学(2)：精神障害と看護の実践」出口禎子編、MCメディカ出版 「精神看護学実習ハンドブック」 草地仁史他編、中央法規								
参考文献	「自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード」長谷川雅美・白波瀬裕美編著、日総研								
備考	詳細は後日配布する実習要項を参照 担当者：専任教員 阿部幹佳 非常勤講師 長橋美榮子、大曾根孝子、高橋あつ子 ※この科目は統合演習及び統合実習の履修要件として単位を修得していることが必須である								

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

看護師の資格及び臨床経験に基づき、学生が精神障害者と関わり、実習目標が達成できるような環境を整え、教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-3-AIC-01				
	●	●	●	●	●					
科目名	看護管理論				単位認定者	阿部 春美		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	40 %
						授業時間数	15 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	看護のマネジメントは、人・物・金・情報などの資源を効果的・効率的・安全に活用して、理想とする看護を提供するプロセスである。看護管理の直面する問題と課題について理解する。看護者が組織の一員として自覚を持ち、質の高い看護を提供するために必要となる「仕組み」について理解する。医療安全に必要な看護職としての責任や役割、組織の取り組みを学び、事故防止システムについて考察する。また、国際看護に関する概要を学ぶ。									
到達目標	1. 看護者が組織の一員としての自覚を持ち、質の高い看護を提供するために必要となる「仕組み」について説明できる。 2. 医療安全に必要な看護職としての責任や役割、組織の取り組みを学び、事故防止システムを説明できる。 3. 国際協力の仕組みと看護活動の展開を述べるができる。									
学修者への期待等	1. 医療安全・国際看護活動に関する社会の動きについて関心を向けてほしい。 2. 統合演習・統合実習の基礎となる科目である。問題意識を持って能動的に学ぶ姿勢を期待する。									
回	授業計画				準備学修					
1	看護管理で学ぶこと/看護ケアのマネジメント				【事後】小テスト・授業後学び(概ね30分)					
2	看護職者とキャリア				【事後】レポート課題 キャリアイメージ「なりたい私」についてまとめる(概ね1時間)					
3	看護組織とマネジメント				【事後】小テスト・授業後学び(概ね30分)					
4	看護サービスのマネジメント				【事前】就職/進学希望施設の組織体制・理念について、調べてくること(概ね30分) 【事後】小テスト(概ね30分)					
5	日本の医療制度と看護を取り巻く諸制度				【事後】小テスト(概ね40分)					
6	医療事故とヒューマンエラー/医療事故発生のメカニズム、医療事故事例によるディスカッション				【事前】配布課題「過去の主となる医療事故」について学修し、疑問点をレポートにまとめること(概ね2時間)。講義後提出あり。					
7	医療安全への取り組み(組織体制、危険予知の理論と実際:KYT)、事例展開によるグループワーク				【事後】レポート課題 危険予知トレーニング事例の課題についてまとめる(概ね1時間)					
8	国際看護(国際看護学の概要、看護の国際協力の仕組みと看護活動)				【事後】小テスト(概ね40分)					
教科書	「系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [1] 看護管理」上泉和子他著、医学書院 「系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学」浦田喜久子他著、医学書院									
参考文献	「看護学テキストNiCE 医療安全」山内豊明他編、南江堂									
備考	授業内課題は小テスト(10%)、事後課題レポート(30%)で評価する。 授業内課題(小テスト)については、次回講義時にフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

病院看護管理者、医療安全管理者、認定看護管理者の経験を生かして、看護のしくみを一緒に学んでいく。

<b>科目ナンバリング</b>
NS-3-AIC-05

<b>学修成果</b>	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	●

<b>科目名</b>	在宅看護論実習				<b>単位認定者</b>	高橋 由美		<b>評価の方法</b>	実習目標達成度	100 %
<b>対象学科 必修・選択 配当年次</b>	看護学科	必修	3年	<b>開講時期</b>	通年	<b>単位数</b>	2 単位			
						<b>授業時間数</b>	80 時間			
				<b>授業形態</b>	実習	<b>授業回数</b>	集中			
<b>授業の概要</b>	在宅看護を実践している訪問看護ステーションや在宅看護に関する施設での実習を通して、地域で療養しながら生活している人とその家族を理解し、在宅看護の基礎を学ぶ。									
<b>学修者への期待等</b>	在宅看護は対象者と家族の尊厳ある生活を支える個別ケアである。従って対象者のプライバシーやあらゆることの意味決定を尊重するなど、看護師としてより高い資質が求められる。深い人間理解と教育的な要素も備えていなければならないので相手から学び取る姿勢も大事にしてほしい。在宅看護は原論や援助論のみならず他領域で学んだ知識、技術を活用して実りの多い実習にしてほしい。									

**授業計画**

<p>I. 実習期間：令和5年5月8日（月）～11月2日（木） 1グループ：2週間</p> <p>II. 実習施設：訪問看護ステーション・看護小規模多機能施設・通所介護（看護）施設</p> <p>III. 実習目的：地域で生活しながら療養している人々とその家族を理解し、在宅看護の基礎を学ぶ。</p> <p>IV. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で生活しながら療養している人々とその家族を理解する。</li> <li>2. 在宅で療養している人とその家族への看護支援を学ぶ。</li> <li>3. 在宅療養を支える機関や職種の役割と連携について学ぶ。</li> </ol> <p>V. 実習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学内実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習オリエンテーション</li> <li>2) 看護技術学習</li> <li>3) 実習まとめ</li> </ol> </li> <li>2. 臨地実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 訪問看護ステーション：指導者との同行訪問を通して在宅看護の実際を学ぶ。</li> <li>2) 看護小規模多機能施設・通所介護（看護）施設：看護職が運営・管理する施設において在宅看護の実際を学ぶ。</li> </ol> </li> </ol>										
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

<b>教科書</b>	「ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①：地域療養を支えるケア」臺有桂他編、MCメディカ出版 「ナーシング・グラフィカ 在宅看護論②：在宅療養を支える技術」臺有桂他編、MCメディカ出版									
------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

<b>参考文献</b>	「写真でわかる訪問看護」押川真喜子監修、インターメディカ									
-------------	------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

<b>備考</b>	<p>詳細は後日配布する実習要項を参照</p> <p>担当者：専任教員 高橋由美、小林淳子、真溪淳子 非常勤講師 中野千加子、加藤真理子、江口美知子</p> <p>※この科目は統合演習及び統合実習の履修要件として単位を修得していることが必須である</p>									
-----------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

看護職として、さらに地域看護活動の実務経験を有する教員が、既修の知識・技術と臨地実習による学びの統合を支援する。										
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング		
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-3-AIC-07		
	●	●	●	●	●			
科目名	統合演習				単位認定者	阿部 春美		試験 (レポート) 80 % 受講態度 20 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	2 単位	
					授業形態	演習	授業時間数	
							授業回数	
授業の概要	<p>「統合実習」の前には、本学科での学びの総まとめとなる統合実習がスムーズに行えるよう必要な知識・技術を学ぶ。</p> <p>「統合実習」の後には、「統合実習」の学びを通じて自己の看護実践能力（知・技・心）を評価し、専門職としての自己の課題を明確にする。</p>							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 統合実習に必要な知識・技術が習得できる。</li> <li>2. ロールプレイングやシミュレーション演習により、看護実践に役立つ知識・技術を習得できる。</li> <li>3. 看護技術の卒業時到達度達成への課題を明らかにして、統合実習に臨む事ができる。</li> <li>4. 自己の看護実践能力を（知・技・心）を評価し、専門職としての自己の課題が明確にできる。</li> </ol>							
学修者への期待等	統合演習・実習の目標を理解し、実習に臨むためにはどんな準備が必要なのか、それはどのような学修で確保できるのかを認識して、積極的に学修する姿勢で臨んで欲しい。							
回	授業計画				準備学修			担当
1	統合演習ガイダンス				統合実習要項を読み、持参すること			阿部 春美
2	【講義】統合演習・実習のキーワードについて				【事前】別途配布の事前学修課題をまとめる（概ね3時間）			阿部 春美
3	入院時病歴聴取				【事後】事例2の入院時病歴（データベース）の作成（概ね1時間）			阿部 春美
4	紙上事例における看護過程の展開① （情報の分析・アセスメント）				【事前】既修の看護過程展開技術、紙上事例の治療・看護について、復習して臨む（概ね1時間） 【事後】看護過程展開課題を作成（概ね1時間）			阿部 春美
5	紙上事例における看護過程の展開② （看護問題の明確化）							阿部 春美
6	紙上事例における看護過程の展開③ （看護計画）							
7	複数患者の受け持つための情報収集・管理							阿部 春美 佐藤 理恵
8	複数患者の受け持ちを想定した一日の業務計画を立案							泉田 さとみ 遠藤 美穂子 佐々木 重徳
9	複数患者の受け持ちを想定した看護記録の記載							東海林 美幸 小倉 真紀
10	申し送りの実施				【事後】申し送りの振り返り（概ね1時間）			
11	【講義】継続看護				【事前】在宅看護論の学修内容を復習して臨む（概ね1時間）			東海林 美幸
12	看護サマリーの記載							東海林 美幸
13	多重課題 : 多重課題の危険性				【事前】看護管理論「看護ケアのマネジメント」を復習して臨む（概ね1時間）			阿部 春美 佐藤 理恵 泉田 さとみ 遠藤 美穂子 佐々木 重徳
14	多重課題に対応するための看護実践能力 ①事例展開							東海林 美幸 小倉 真紀
15	多重課題に対応するための看護実践能力 ②成果発表							

回	授業計画	準備学修	担当
16	演習記録の整理		阿部 春美
17	看護技術演習① (コミュニケーション技術：情報伝達トレーニング SBAR)		阿部 春美 佐藤 理恵 泉田 さとみ 遠藤 美穂子 佐々木 重徳 東海林 美幸 小倉 真紀 大石 慶子 松田 郷子
18	看護技術演習② (領域実習後の課題項目)		
19	看護技術演習③ (統合実習に必要な技術項目：観察・フィジカルアセスメント)		
20	看護技術演習④ (統合実習に必要な技術項目：日常生活援助技術)		
21	統合演習（実習前）のまとめ	【事後】演習課題レポートのまとめ（概ね2時間）	
22	卒業時の看護技術到達度の評価と自己課題の明確化		阿部 春美 佐藤 理恵 泉田 さとみ 遠藤 美穂子 佐々木 重徳 東海林 美幸 小倉 真紀
23	概念化シートを用いた3年間の振り返り 「個人での記述」		
24	概念化シートを用いた3年間の振り返り 「ナラティブ（語り合い）」		
25	最終課題レポート作成準備 「臨地実習の体験を通して看護を考える」	【事後】23回、24回の振り返りを基に、レポート作成（概ね2時間）	
26	看護技術演習⑤ (状況設定演習：状況のアセスメント)		
27	看護技術演習⑥ (状況設定演習：優先順位の決定)		阿部 春美 佐藤 理恵 泉田 さとみ 遠藤 美穂子 佐々木 重徳 東海林 美幸 小倉 真紀 大石 慶子 松田 郷子
28	看護技術演習⑦ (統合実習後の自己課題項目)	【事前】演習する技術の目的・注意事項の復習（概ね2時間）	
29	看護技術演習⑧ (卒業時の看護技術到達度における課題項目)		
30	統合演習（実習後）のまとめ	【事後】課題レポートのまとめ（概ね3時間）	阿部 春美
教科書	既修科目のテキストおよび参考書。統合演習要項は、11月のガイダンス時配布する。		
参考文献	随時配布する。		
備考	授業内課題は次回の授業時にフィードバックする。		

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

看護職としての実務経験を有する教員が、既修の知識・技術と臨地実習による学びの統合を小グループ制により支援する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-3-AIC-08			
	●	●	●	●	●				
科目名	統合実習				単位認定者	阿部 春美		実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	3 単位	評価の方法	
							授業回数		120 時間
				授業形態	実習	集中			
授業の概要	<p>1年次の課題探究ゼミナールⅠ、2年次の課題探究ゼミナールⅡで学習した「課題解決力やクリティカルシンキング」を土台として、学生が自ら学ぶ姿勢を養う。 3年間で履修した知識や技術を統合し、卒業後、臨床現場にスムーズに適応できるように臨床の実務に近い環境で看護を提供する方法を学ぶ。 保健医療福祉チームの一員として、実際に適応するための基礎的知識・技術・態度を養う。 具体的には、成人・老年の実習病棟の看護チームの一員として、チームリーダーやメンバー役割、複数受け持ち、リスクマネジメントなどの看護実践に必要な知識及び技術を習得する。</p>								
学修者への期待等	<p>本学3年間の総まとめの実習です。これまで学んだ知識・技術・態度を統合し、臨床現場に近い体制の実習を通してチームの一員としての役割遂行をめざし、また将来のキャリアを見据えるための一助としていきたいと思います。</p>								
授業計画									
<p>I. 実習期間：令和5年11月27日（月）～12月15日（金）</p> <p>II. 実習施設：東北医科薬科大学病院、仙台市立病院、仙台赤十字病院、JCHO仙台病院、坂総合病院</p> <p>III. 実習目的：保健・医療・福祉チームにおける看護職能の役割を認識し、看護マネジメント能力を養い、3年間で学修した看護の知識・技術・態度を統合し、看護実践能力を身につける。</p> <p>IV. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>保健・医療・福祉チームの中で連携・協働して行われている看護の役割と継続看護について理解できる。</li> <li>複数患者を受け持つことを通して、患者の状況に応じた優先順位の判断や時間管理を適切に行い、責任を持って受け持ち患者への看護過程を展開できる。</li> <li>看護チームのリーダーシップ・メンバーシップを理解しチームの一員として責任ある行動を学ぶ。</li> <li>看護部や実習病棟における看護管理の実際を学ぶ。</li> <li>災害時や医療事故の際の対応などを通し医療現場における危機管理について学ぶ。</li> <li>日常生活援助技術や診療の補助技術を安全性・正確性・安楽性を考慮して実施できる。</li> <li>自己の看護技術の課題を明らかにし、技術の向上を図ることができる。</li> <li>これまでの学修を振り返り、自己の看護観を深めることができる。</li> <li>看護倫理に則った看護、看護の探究、社会人としての態度など看護師としての自己評価を行い、生涯にわたり学び続けることの重要性を認識することができる。</li> </ol> <p>V. 実習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学内実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>実習オリエンテーション</li> <li>統合実習のまとめ</li> </ol> </li> <li>臨地実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>学生5～6名で班を形成し、教員1名が担当</li> <li>実習指導は実習施設の実習指導者と担当教員が担う</li> <li>看護チームの中に入り、チームメンバーとして複数の患者を受け持つ</li> <li>看護チームの計画を反映させた看護実践を行う</li> <li>カンファレンスを適宜行い、実習体験を帰納・演繹的に整理する</li> </ol> </li> </ol>									
教科書	既修科目のテキスト、参考書								
参考文献	随時紹介する。								
備考	<p>詳細は後日配布する実習要項を参照          担当者：専任教員 阿部春美、岡崎優子、伊藤茉莉子、遠藤美穂子、泉田さとみ          東海林美幸、二口尚美、佐々木重徳、小倉真紀          非常勤講師 松田郷子、大石慶子、畑中晶子、菊池真紀子、加藤真理子、江口美知子</p>								

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

看護職としての実務経験を有する教員が、既修の知識・技術と臨地実習による学びの統合を小グループ制により支援する。



学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-3-AIC-09					
	●	●	●	●	●						
科目名	看護研究				単位認定者	桑田 恵美子		試験(レポート)	80 %		
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位		評価の方法	授業内課題	20 %
						授業時間数	30 時間				
				授業形態	演習		授業回数	15 回			
授業の概要	看護研究に関する一般的知識を身につけ、今後の看護実践を研究的な態度で行う能力を養う。臨地実習で学んだ看護体験を客観的に振り返り、ケーススタディの意義と研究プロセスを理解し、看護理論・文献を活用しながら、研究成果の発表・評価を行い、ケーススタディとしてまとめる能力を習得する。										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護研究を行なう意義、方法、研究プロセスを述べることができる</li> <li>2. 文献検索ができ、検索した文献を抄読してその要旨をまとめ、自己の学びを記載できる</li> <li>3. 看護研究における倫理的配慮の意義を述べるができる</li> <li>4. 臨地実習で学んだ看護体験を客観的に振り返り、看護理論・文献を活用しながら自己の看護体験の効果と課題を明確にしてケーススタディ(ケースレポート)をまとめ・発表ができる</li> </ol>										
学修者への期待等	看護研究を始めるにあたって「研究という新しいことの発見」と難しいと捉えがちですが、新しいことにもいろいろなレベルがあります。すでに知られていることを組み合わせる新しいやり方を見つけたり、知られている事実に新しい解釈を加えたり、いたるところに研究の種があります。ケーススタディ(ケースレポート)は、自分の行った実践を振り返り、文献を根拠にしながら客観的に意味づけを行うことにより自分自身の実践能力向上につながります。またまとめのプロセスを通して対象理解・看護の役割の理解、看護観の向上につながります。最終的成果物として意義あるものにしましょう。										
回	授業計画				準備学修				担当		
1	【講義】看護研究の役割と学ぶ意義、看護研究の変遷				【事後】授業後感想(学び)(概ね40分)				桑田 恵美子		
2	【講義】研究における倫理的配慮				【事後】授業後感想(学び)(概ね40分)				桑田 恵美子		
3	【講義】看護研究の種類とその特徴				【事後】授業後感想(学び)(概ね40分)				桑田 恵美子		
4	【講義】ケーススタディ(ケースレポート)・事例研究の意義と進め方				【事後】授業後感想(学び)(概ね40分)				桑田 恵美子		
5	【講義】文献レビューとその方法				【事後】興味のある文献を調べて1編持参する(概ね1時間)				桑田 恵美子 伊藤 茉莉子		
6	ワーク1: 文献を検索してみよう ①興味のある文献を読み、要旨をまとめる ②学んだ内容をまとめる								桑田 恵美子 伊藤 茉莉子		
7	ワーク2: 文献を読み、文献を整理してみよう レポート課題返却				【事後】授業後感想(学び)(概ね40分)				桑田 恵美子		
8	【講義】論文作成 論文の構成・記載時の注意点・考察の書き方				【事後】授業後感想(学び)(概ね40分)				桑田 恵美子		
9	ケーススタディ(ケースレポート) ケース選択				前期領域実習中の事例整理 実習記録の内容把握(概ね2時間)				桑田 恵美子 伊藤 茉莉子		
10	ケーススタディ(ケースレポート) テーマの決定				指導担当教員の決定後連絡をとり、助言を受ける				桑田 恵美子 伊藤 茉莉子 備考欄参照		
11	ケーススタディ(ケースレポート) 事例に係る文献検索				指導担当教員の助言を受けて文献の検索				桑田 恵美子 伊藤 茉莉子 備考欄参照		
12	ケーススタディ(ケースレポート) レポート作成(テーマ~看護実践)				指導担当教員の助言を受けて文献の検索				桑田 恵美子 伊藤 茉莉子 備考欄参照		
13	ケーススタディ(ケースレポート) レポート作成(考察・まとめ)				指導担当教員の助言を受けて文献の検索				桑田 恵美子 伊藤 茉莉子 備考欄参照		
14	ケーススタディ(ケースレポート) レポート作成(論文の再検討)				指導担当教員の助言を受けてレポート作成、期限まで提出				桑田 恵美子 伊藤 茉莉子 備考欄参照		
15	発表-報告書の作成と発表 プレゼンテーション資料作成に向けて				【事後】授業後感想(学び)(概ね40分)				桑田 恵美子 伊藤 茉莉子		
教科書	「系統看護学講座 別巻 看護研究」坂下玲子他著、医学書院 「最新版 大学生のためのレポート・論文術」小笠原喜康著、講談社現代新書										
参考文献	「看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方」松本学・森田夏美編、照林社 「初めての看護研究」前田樹海、ナツメ社										
備考	授業内課題はレポート課題(10%)、授業後感想・学び(10%)で評価する。 授業内課題は次回の授業時にフィードバックする。 指導担当教員: 高橋由美、阿部春美、木下美佐子、小林淳子、武田美奈子、阿部幹佳、岡崎優子、佐藤理恵、菅原尚美、真溪淳子、二口尚美、竹田理恵、坂村佐知、岡崎草代夏、東海林美幸、遠藤美穂子、佐藤清湖、佐々木重徳、小倉真紀、佐藤幸子										

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

看護師として臨床の実務経験がある。臨床での看護研究を実施してきている。



## 看護学科

- ナンバリング
- 教員一覧
- 実務経験を有する教員一覧
- オフィスアワー
- 成績評価

看護学科のナンバリングの見方（2023年度・2022年度入学生用）

【例】NS-1-○○○-01

NS	-	1	-	○○○	-	01
①	半角[-]	②	半角[-]	③	半角[-]	④

①学科（専攻）識別番号（全学共通教養教育科目も独立した略称）

半角アルファベット（大文字）2桁

全学共通教養教育科目：C0

看護学科：NS

②科目レベル

半角数字1桁

教養科目：0（全学共通教養教育科目も学科独自教養科目も同じ）

専門基礎分野：1

専門分野：2

③科目分類

半角アルファベット（大文字）3桁

教養教育分野 人間と文化	HCU	Human & culture
教養教育分野 人間と社会	HSO	Human & society
教養教育分野 人間と科学	HSC	Human & science
人体の構造と機能	HAP	Human Anatomy and Physiology
疾病の成り立ちと回復の促進	PRD	Pathogenesis and Recovery of Disease
健康支援と社会保障制度	HSS	Health support and Social Security System
基礎看護学	FNS	Fundamental Nursing
地域・在宅看護論	CHN	Community Health and Home Care Nursing
領域横断看護	INS	Interdisciplinary Nursing
成人看護学	ANS	Adult Nursing
老年看護学	GNS	Gerontological Nursing
小児看護学	CHN	Child Health Nursing
母性看護学	WHN	Women's Health Nursing

精神看護学	PMN	Psychiatric and Mental Health Nursing
看護の統合と実践	NIP	Nursing Integration and Practice
臨地実習	CNP	Clinical Nursing Practicums

④連続番号

半角数字 2 桁

全学共通教養教育科目は全学科、以下のナンバリングを使用する。

科目名称	ナンバリング
日本語表現法	CO-0-HCU-01
英語	CO-0-HCU-02
現代の社会	CO-0-HSO-03
法律入門	CO-0-HSO-04
情報処理	CO-0-HSC-01

科目区分	授業科目の名称	ナンバリング		
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法	CO-0-HCU-01	
		英語	CO-0-HCU-02	
		哲学入門	NS-0-HCU-01	
	人間と社会	現代の社会	CO-0-HSO-03	
		法律入門	CO-0-HSO-04	
		生涯学習論	NS-0-HSO-01	
		心理学概論	NS-0-HSO-02	
		家族社会学	NS-0-HSO-03	
	人間と科学	情報処理	CO-0-HSC-01	
		自然科学入門	NS-0-HSC-01	
		数理リテラシー	NS-0-HSC-02	
		健康スポーツ科学	NS-0-HSC-03	
専門教育分野	専門基礎分野	人体の構造と機能	人体構造と機能Ⅰ	NS-1-HAP-01
			人体構造と機能Ⅱ	NS-1-HAP-02
			人体構造と機能Ⅲ	NS-1-HAP-03
			人体構造と機能Ⅳ	NS-1-HAP-04
			生化学	NS-1-HAP-05
			微生物学	NS-1-HAP-06
			栄養学	NS-1-HAP-07
	専門基礎分野	人体の構造と機能	病理学	NS-1-PRD-01
			病態治療学Ⅰ（検査・治療）	NS-1-PRD-02

科目区分		授業科目の名称	ナンバリング	
	疾病の成り立ちと回復の促進	病態治療学Ⅱ（循環器）	NS-1-PRD-03	
		病態治療学Ⅲ（消化器）	NS-1-PRD-04	
		病態治療学Ⅳ（内分泌、泌尿・生殖器）	NS-1-PRD-05	
		病態治療学Ⅴ（運動器、中枢・末梢神経）	NS-1-PRD-06	
		病態治療学Ⅵ（血液・造血器・免疫）	NS-1-PRD-07	
		病態治療学Ⅶ（呼吸器、感覚器）	NS-1-PRD-08	
		看護薬理学	NS-1-PRD-09	
	健康支援と社会保障制度	生命科学と医療倫理	NS-1-HSS-01	
		人間関係論	NS-1-HSS-02	
		保健行動学	NS-1-HSS-03	
		公衆衛生学	NS-1-HSS-04	
		保健医療福祉サービス論	NS-1-HSS-05	
		チーム医療論	NS-1-HSS-06	
	専門分野	基礎看護学	看護学概論	NS-2-FNS-01
			看護倫理	NS-2-FNS-02
			基礎看護技術Ⅰ	NS-2-FNS-03
			基礎看護技術Ⅱ	NS-2-FNS-04
			基礎看護技術Ⅲ	NS-2-FNS-05
			基礎看護技術Ⅳ	NS-2-FNS-06
		地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論Ⅰ	NS-2-CHN-01
			地域・在宅看護援助論Ⅰ	NS-2-CHN-02
地域・在宅看護概論Ⅱ			NS-2-CHN-03	
地域・在宅看護援助論Ⅱ			NS-2-CHN-04	
領域横断看護		看護展開論Ⅰ	NS-2-INS-01	
		看護展開論Ⅱ	NS-2-INS-02	
		看護展開論Ⅲ	NS-2-INS-03	
		健康状態別看護Ⅰ	NS-2-INS-04	
		健康状態別看護Ⅱ	NS-2-INS-05	
		健康状態別看護Ⅲ	NS-2-INS-06	
成人看護学		成人看護学概論	NS-2-ANS-01	
		成人看護学援助論Ⅰ	NS-2-ANS-02	
		成人看護学援助論Ⅱ	NS-2-ANS-03	
老年看護学		老年看護学概論	NS-2-GNS-01	
		老年看護学援助論Ⅰ	NS-2-GNS-02	

科目区分		授業科目の名称	ナンバリング
	小児看護学	老年看護学援助論Ⅱ	NS-2-GNS-03
		小児看護学概論	NS-2-CHN-01
		小児看護学援助論Ⅰ	NS-2-CHN-02
	母性看護学	小児看護学援助論Ⅱ	NS-2-CHN-03
		母性看護学概論	NS-2-WHN-01
		母性看護学援助論Ⅰ	NS-2-WHN-02
	精神看護学	母性看護学援助論Ⅱ	NS-2-WHN-03
		精神看護学概論	NS-2-PMN-01
		精神看護学援助論Ⅰ	NS-2-PMN-02
	看護の統合と実践	精神看護学援助論Ⅱ	NS-2-PMN-03
		医療安全管理論	NS-2-NIP-01
		災害看護	NS-2-NIP-02
		看護管理論・国際看護	NS-2-NIP-03
		看護研究Ⅰ	NS-2-NIP-04
	臨地実習	看護研究Ⅱ	NS-2-NIP-05
		基礎看護学実習Ⅰ	NS-2-CNP-01
		基礎看護学実習Ⅱ	NS-2-CNP-02
		地域・在宅看護論実習Ⅰ	NS-2-CNP-03
		地域・在宅看護論実習Ⅱ	NS-2-CNP-04
		領域横断看護実習	NS-2-CNP-05
		成人看護学実習	NS-2-CNP-06
老年看護学実習		NS-2-CNP-07	
小児看護学実習		NS-2-CNP-08	
母性看護学実習		NS-2-CNP-09	
精神看護学実習		NS-2-CNP-10	
統合実習	NS-2-CNP-11		

看護学科のナンバリングの見方（2021年度入学生用）

【例】NS-1-〇〇〇-01

NS	-	1	-	〇〇〇	-	01
①	半角[-]	②	半角[-]	③	半角[-]	④

①学科（専攻）識別番号（全学共通教養教育科目も独立した略称）

半角アルファベット（大文字）2桁

全学共通教養教育科目：C0

看護学科：NS

②科目レベル

半角数字1桁

教養科目：0（全学共通教養教育科目も学科独自教養科目も同じ）

専門支持科目：1

専門展開科目：2

専門統合科目：3

③科目分類

半角アルファベット（大文字）3桁

教養教育分野 人間と文化	HCU	Human & culture
教養教育分野 人間と社会	HSO	Human & society
教養教育分野 人間と科学	HSC	Human & science
専門支持科目	FSF	Fundamental Subjects Field
基礎看護学	BNS	Basic Nursing
領域別看護	FNS	Fielded Nursing
専門統合科目	AIC	Advanced integration courses

④連続番号

半角数字2桁

全学共通教養教育科目は全学科、以下のナンバリングを使用する。

科目名称	ナンバリング
日本語表現法	CO-0-HCU-01
英語	CO-0-HCU-02
歴史と文化	CO-0-HCU-03



大学生生活論	CO-0-HSO-01
暮らしの中の法律	CO-0-HSO-02
現代の社会	CO-0-HSO-03
情報処理	CO-0-HSC-01

科目区分		授業科目の名称	ナンバリング	
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法Ⅰ	CO-0-HCU-01	
		日本語表現法Ⅱ	NS-0-HCU-01	
		英語Ⅰ	CO-0-HCU-02	
		英語Ⅱ	NS-0-HCU-02	
		歴史と文化	CO-0-HCU-03	
		哲学入門	NS-0-HCU-03	
	人間と社会	大学生生活論	CO-0-HSO-01	
		暮らしの中の法律	CO-0-HSO-02	
		現代の社会	CO-0-HSO-03	
		心理学	NS-0-HSO-01	
	人間と科学	情報処理	CO-0-HSC-01	
		自然科学入門	NS-0-HSC-01	
		数理リテラシー	NS-0-HSC-02	
		スポーツ実技	NS-0-HSC-03	
	専門教育分野	専門支持科目	生命科学と医療倫理	NS-1-FSF-01
			人間関係論	NS-1-FSF-02
課題探究ゼミナールⅠ			NS-1-FSF-03	
課題探究ゼミナールⅡ			NS-1-FSF-04	
生活科学			NS-1-FSF-05	
家族論			NS-1-FSF-06	
人体構造と機能Ⅰ			NS-1-FSF-07	
人体構造と機能Ⅱ			NS-1-FSF-08	
人体構造と機能Ⅲ			NS-1-FSF-09	
生化学			NS-1-FSF-10	
微生物学			NS-1-FSF-11	
看護薬理学			NS-1-FSF-12	
病理学			NS-1-FSF-13	
病態治療学Ⅰ			NS-1-FSF-14	
病態治療学Ⅱ			NS-1-FSF-15	
病態治療学Ⅲ			NS-1-FSF-16	
病態治療学Ⅳ			NS-1-FSF-17	
栄養学			NS-1-FSF-18	

科目区分		授業科目の名称	ナンバリング	
専門 展開 科目		保健行動学	NS-1-FSF-19	
		公衆衛生学	NS-1-FSF-20	
		保健医療福祉サービス論	NS-1-FSF-21	
	基礎看護学	看護学原論	NS-2-BNS-01	
		看護倫理	NS-2-BNS-02	
		臨床看護総論	NS-2-BNS-03	
		基礎看護技術Ⅰ	NS-2-BNS-04	
		基礎看護技術Ⅱ	NS-2-BNS-05	
		基礎看護技術Ⅲ	NS-2-BNS-06	
		基礎看護技術Ⅳ	NS-2-BNS-07	
		看護過程論	NS-2-BNS-08	
		基礎看護学実習Ⅰ	NS-2-BNS-09	
		基礎看護学実習Ⅱ	NS-2-BNS-10	
		領域別看護学	成人看護学概論	NS-2-FNS-01
			成人看護学援助論Ⅰ	NS-2-FNS-02
	成人看護学援助論Ⅱ		NS-2-FNS-03	
	成人看護学実習Ⅰ		NS-2-FNS-04	
	成人看護学実習Ⅱ		NS-2-FNS-05	
	老年看護学概論		NS-2-FNS-06	
	老年看護学援助論Ⅰ		NS-2-FNS-07	
	老年看護学援助論Ⅱ		NS-2-FNS-08	
	老年看護学実習		NS-2-FNS-09	
	小児看護学概論		NS-2-FNS-10	
	小児看護学援助論Ⅰ		NS-2-FNS-11	
	小児看護学援助論Ⅱ		NS-2-FNS-12	
	小児看護学実習		NS-2-FNS-13	
	母性看護学概論		NS-2-FNS-14	
	母性看護学援助論Ⅰ		NS-2-FNS-15	
	母性看護学援助論Ⅱ		NS-2-FNS-16	
	母性看護学実習		NS-2-FNS-17	
	精神看護学概論		NS-2-FNS-18	
	精神看護学援助論Ⅰ		NS-2-FNS-19	
	精神看護学援助論Ⅱ		NS-2-FNS-20	
精神看護学実習	NS-2-FNS-21			
専門統合科目	看護管理論	NS-3-AIC-01		
	在宅看護概論	NS-3-AIC-02		
	在宅看護援助論Ⅰ	NS-3-AIC-03		

科目区分	授業科目の名称	ナンバリング
	在宅看護援助論Ⅱ	NS-3-AIC-04
	在宅看護論実習	NS-3-AIC-05
	災害看護	NS-3-AIC-06
	統合演習	NS-3-AIC-07
	統合実習	NS-3-AIC-08
	看護研究	NS-3-AIC-09

看護学科 教員一覧

	職位	氏名	E-mail
1	教授 (学科長)	すえなが 末永 カツ子	k_suenaga@seiyogakuin.ac.jp
2	教授 (副学科長)	くわた 桑田 恵美子	e_kuwata@seiyogakuin.ac.jp
3	教授 (副学科長)	こばやし 小林 淳子	a_kobayashi@seiyogakuin.ac.jp
4	教授	あべ 阿部 はるみ 春美	h_abe@seiyogakuin.ac.jp
5	教授	きのした 木下 美佐子	m_kinoshita@seiyogakuin.ac.jp
6	教授	さとう 佐藤 ゆき子 幸子	yuki_satou@seiyogakuin.ac.jp
7	教授	たかはし 高橋 ゆみ 由美	y_takahashi@seiyogakuin.ac.jp
8	准教授	あべ 阿部 みきか 幹佳	mk_abe@seiyogakuin.ac.jp
9	准教授	おかざき 岡崎 ゆう子 優子	y_okazaki@seiyogakuin.ac.jp
10	准教授	さとう 佐藤 りえ 理恵	r_satou@seiyogakuin.ac.jp
11	准教授	すがわら 菅原 なおみ 尚美	n_sugawara@seiyogakuin.ac.jp
12	准教授	たけだ 武田 みな子 美奈子	m_takeda@seiyogakuin.ac.jp
13	准教授	またに 真溪 じゅん子 淳子	j_matani@seiyogakuin.ac.jp
14	講師	いずみだ 泉田 さとみ	s_izumida@seiyogakuin.ac.jp
15	講師	いとう 伊藤 まり子 茉莉子	ma_itou@seiyogakuin.ac.jp
16	講師	えんどう 遠藤 みほ子 美穂子	m_endou@seiyogakuin.ac.jp
17	講師	おかざき 岡崎 そよか 草代夏	s_okazaki@seiyogakuin.ac.jp
18	講師	さかむら 坂村 さち 佐知	s_sakamura@seiyogakuin.ac.jp
19	講師	ささき 佐々木 しげのり 重徳	s_sasaki@seiyogakuin.ac.jp
20	講師	さとう 佐藤 きよこ 清湖	k_satou@seiyogakuin.ac.jp
21	講師	さとう 佐藤 ゆき子 由記子	yk_satou@seiyogakuin.ac.jp
22	講師	たけだ 竹田 りえ 理恵	r_takeda@seiyogakuin.ac.jp
23	講師	とうかいりん 東海林 みゆき 美幸	m_toukairin@seiyogakuin.ac.jp
24	講師	ふたくち 二口 ひさみ 尚美	h_futakuchi@seiyogakuin.ac.jp
25	助教	おぐら 小倉 まき 真紀	m_ogura@seiyogakuin.ac.jp

## (添付書類 ii) 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画 (シラバス)

## 看護学科 実務経験を有する教員一覧

科目名	単位	実務教員	実務の概要
人体構造と機能Ⅰ	1	大和田宏美	理学療法士の実務経験あり
人体構造と機能Ⅱ	1	田林暁一	医師の実務経験あり
栄養学	1	早坂朋恵	管理栄養士の実務経験あり
病態治療学Ⅱ (循環器)	1	渡辺卓	医師の実務経験あり
病態治療学Ⅲ (消化器)	1	武富龍一	医師の実務経験あり
病態治療学Ⅳ (内分泌、泌尿・生殖器)	1	板垣皓大	医師の実務経験あり
人間関係論	1	末永カツ子	保健師の実務経験あり
保健行動学	1	末永カツ子 小林淳子	保健師の実務経験あり
看護学概論	1	木下美佐子	看護師の実務経験あり
看護倫理	1	木下美佐子	看護師の実務経験あり
基礎看護技術Ⅰ	1	佐藤清湖	看護師の実務経験あり
基礎看護技術Ⅱ	2	竹田理恵	看護師の実務経験あり
基礎看護技術Ⅲ	1	佐々木重徳	看護師の実務経験あり
基礎看護技術Ⅳ	2	佐藤由記子	看護師の実務経験あり
地域・在宅看護概論Ⅰ	1	小林淳子	保健師の実務経験あり
成人看護学概論	1	阿部春美	看護師の実務経験あり
老年看護学概論	1	桑田恵美子	看護師の実務経験あり
小児看護学概論	1	佐藤幸子	看護師の実務経験あり
母性看護学概論	1	佐藤理恵	助産師の実務経験あり
精神看護学概論	1	阿部幹佳	看護師の実務経験あり
基礎看護学実習Ⅰ	1	木下美佐子	看護師の実務経験あり
基礎看護学実習Ⅱ	1	木下美佐子	看護師の実務経験あり
法律入門	2	鈴木翔太	公認会計士の実務経験あり
病態治療学Ⅴ (運動器、中枢・末梢神経)	1	佐野徳久	医師の実務経験あり
病態治療学Ⅵ (血液・造血器・免疫)	1	田林暁一	医師の実務経験あり
病態治療学Ⅶ (呼吸器、感覚器)	1	田林暁一	医師の実務経験あり
保健医療福祉サービス論	1	末永カツ子	保健師の実務経験あり
地域・在宅看護援助論Ⅰ	2	小林淳子	保健師の実務経験あり
地域・在宅看護概論Ⅱ	1	高橋由美	看護師の実務経験あり
地域・在宅看護援助論Ⅱ	2	高橋由美	看護師の実務経験あり
看護展開論Ⅱ	2	遠藤美穂子	看護師の実務経験あり
健康状態別看護Ⅰ	1	小林淳子	保健師の実務経験あり
健康状態別看護Ⅱ	2	伊藤茉莉子	看護師の実務経験あり
健康状態別看護Ⅲ	1	阿部春美	看護師の実務経験あり
成人看護学援助論Ⅰ	2	岡崎優子	看護師の実務経験あり
成人看護学援助論Ⅱ	1	阿部春美	看護師の実務経験あり
老年看護学援助論Ⅰ	1	桑田恵美子	看護師の実務経験あり
老年看護学援助論Ⅱ	1	菅原尚美	看護師の実務経験あり
小児看護学援助論Ⅰ	1	佐藤幸子	看護師の実務経験あり
小児看護学援助論Ⅱ	1	武田美奈子 岡崎草代夏	看護師の実務経験あり
母性看護学援助論Ⅰ	1	佐藤理恵	助産師の実務経験あり
母性看護学援助論Ⅱ	1	坂村佐知 佐藤理恵	助産師の実務経験あり
精神看護学援助論Ⅰ	1	濱崎諒介 阿部幹佳	医師、看護師の実務経験あり
精神看護学援助論Ⅱ	1	阿部幹佳	看護師の実務経験あり
医療安全管理論	1	阿部春美	看護師の実務経験あり
災害看護	1	高橋由美 泉田さとみ	看護師の実務経験あり
看護研究Ⅰ	1	小林淳子	保健師の実務経験あり
地域・在宅看護論実習Ⅰ	1	小林淳子	保健師の実務経験あり
領域横断看護実習	3	岡崎優子	看護師の実務経験あり
成人看護学実習Ⅱ	3	阿部春美	看護師の実務経験あり
老年看護学実習	3	桑田恵美子	看護師の実務経験あり
小児看護学実習	2	武田美奈子	看護師の実務経験あり
母性看護学実習	2	佐藤理恵	助産師の実務経験あり
精神看護学実習	2	阿部幹佳	看護師の実務経験あり
看護管理論	1	阿部春美	看護師の実務経験あり
在宅看護論実習	2	高橋由美	看護師の実務経験あり
統合演習	2	阿部春美	看護師の実務経験あり
統合実習	3	阿部春美	看護師の実務経験あり
看護研究	1	桑田恵美子	看護師の実務経験あり
	80	実務経験を有する教員が担当する科目の単位	
	93	設置基準上の標準単位数	

## 2023（令和5）年度 オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんとのコミュニケーションを充実させ、個別に相談を受けるために研究室に在室する時間を設ける制度のことです。

相談を希望する教員のオフィスアワーの時間帯は、掲示などによりお知らせします。指定時間に教員が研究室で待機していますが、臨時の会議や出張などにより不在の場合もありますので、電話・メールなどで事前に連絡をとることをおすすめします。

非常勤の先生には、非常勤講師控室（1階事務室隣にあります）または授業後の教室で相談をすることができます。

### 成績評価

成績評価基準は次のとおりです。

判定	成績評価	点数	GP
合格 (単位認定)	秀 (AA)	90点以上	4
	優 (A)	80点以上90点未満	3
	良 (B)	70点以上80点未満	2
	可 (C)	60点以上70点未満	1
不合格 (単位認定不可)	不可 (D)	60点未満 (※)	0
	評価不能 (E)	(1) 履修規程第6条第5項により、受験資格を有しない者 (2) 資格取得に係る実習で、各学科が関係法令を踏まえて授業科目ごとに定める時間数を満たさない者	0

(※) 再試験で合格の場合の成績評価は可 (C)、GP は1ポイントとなります。